9 診療科 Clinical Departments

消化器内科……15
循環器内科……16
呼吸器内科……16
糖尿病・内分泌内科……16
腎臓内科……17
リウマチ膠原病内科……17
神経内科……17
血液・腫瘍内科……18
小児科……18
精神科……18
皮膚科……19
形成外科……19
消化器外科、乳腺・内分泌外科……19
心臓血管外科、呼吸器外科、小児外科……20
整形外科……20
脳神経外科……20
麻酔科……21
産婦人科……21
泌尿器科……21
眼科……22
頭頸部・耳鼻咽喉科……22
放射線治療科……22
放射線診断科……23
歯科口腔外科……23
救急科……23
病理診断科……24
リハビリテーション科……24
遺伝子疾患診療科……24
Gastroenterology and Hepatology……25
Cardiovascular Medicine……25
Respiratory Medicine……25
Diabetes and Endocrinology……25
Department of Nephrology……26
Department of Rheumatology……26
Department of Neurology……26
Department of Hematology and Oncology……26
Pediatrics……27
Psychiatry……27
Dermatology……27
Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery……27
Gastrointestinal surgery, Breast gland / endocrine surgery……28
Cardiovascular Surgery, Thoracic Surgery, Pediatric Surgery……28
Orthopaedic Surgery……28
Neurosurgery……28
Anesthesiology……29
Obstetrics and Gynecology……29
Department of Urology……29
Ophthalmology……29
Head and Neck, Ear, Nose and Throat Surgery……30
Department of Therapeutic Radiology……30
Department of Diagnostic Radiology……30
Oral and Maxillofacial Surgery……30
Emergency and Critical Care Medicine……31
Diagnostic Pathology……31
Department of Rehabilitation Medicine……31
Department of Clinical Genetics……31

診療科

消化器内科


土屋 淳紀

消化器内科、光学医療診療部および肝疾患センターを担当し、食道、胃、小腸、大腸、肝臓、胆道、膵臓からなる消化器疾患に対して、最先端の治療をお届けすべく診療科の医師が一丸となり取り組んでいます。

診療体制

消化器疾患は多くの臓器を対象とし診察をしています。そのため、消化管グループ、肝臓グループ、胆膵グループの3つの分野別のグループを形成し、外来および入院診療をおこなっております。

治療方針

本院の「すべての患者さんに安心を」の理念のもと、消化器疾患に関して安全かつ高度な医療がお届けできるように努めております。

特色と主な実績

消化器疾患いずれの疾患の治療も高いレベルでの診療を行っています。中でも、肝臓グループでは、肝硬変、肝細胞癌の治療において、また胆膵グループでは、膵癌や総胆管結石・胆管炎において、消化管グループでは内視鏡的粘膜下層剥離術、炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎、クローン病）などではいずれも全国でも高いレベルの診療を行っています。

対象疾患

肝臓：
C型肝炎への経口剤治療、B型肝炎への核酸アナログ治療、肝硬変に伴う諸症状の治療、ラジオ波/新世代マイクロ波焼灼術や動脈化学塞栓術、分子標的薬や腫瘍免疫療法による肝臓がんへの治療、代謝異常関連脂肪肝（MAFLD）の診療

胆道・膵臓：
内視鏡的膵胆道造影検査、超音波内視鏡検査、乳頭切開・バルーン拡張術、総胆管結石除去術、胆道・膵管ステント留置術、超音波内視鏡下穿刺吸引法、超音波内視鏡下瘻孔形成術、膵腫瘍・胆道腫瘍への薬物療法

消化管：
内視鏡的止血術、食道静脈瘤結紮術・硬化療法、画像強調内視鏡による表在がんの診断、内視鏡的粘膜下層剥離術や化学療法による食道、胃、大腸直腸がんの治療、カプセル内視鏡、小腸内視鏡、炎症性腸疾患の治療



循環器内科


佐藤 明

循環器内科では、専門的な検査、治療設備を生かした先進的治療を行っています。研究に関しては、虚血性心疾患や動脈硬化の治療や予防、不整脈や心不全に関する先端医療の開発などを中心に研究活動を行っております。

診療体制

循環器内科には25名の医師が所属しており、あらゆる循環器疾患に対して24時間体制で検査・治療を行なっています。山梨県の循環器診療において、患者様に安心・安全の医療の提供を目指して日々取り組んでおります。

治療方針

循環器病の予防に取り組むこと等により国民の健康寿命の延伸等を図り、あわせて医療および介護に係る負担の軽減に資する施策を行なっていきます。

特色と主な実績

虚血性心疾患については、24時間体制で急性冠症候群を受け入れて緊急検査・治療を行い、昨年は冠動脈インターベンション治療を254例行いました。重症大動脈弁狭窄症や僧帽弁逆流症に対する経カテーテル大動脈弁留置術（TAVI）や経皮的僧帽弁クリップ術（MitraClip）を心臓血管外科と共に行っており、昨年はTAVI 85例、MitraClip 10例、TAVIは2017年開始以来延べ400例以上となり、専門施設の認定を取得しました。心房細動・上室性頻拍や心室性不整脈に対するカテーテル焼灼術も昨年は272例行い、経カテーテル的左心耳閉鎖術も行なっています。また慢性血栓塞栓性肺高血圧に対する経皮的肺動脈バルーン拡張術も21例施行しました。山梨県内では当院でしかできないカテーテル治療も導入し、ほぼすべての循環器疾患に対応可能な体制となっています。

対象疾患

虚血性心疾患（狭心症・急性心筋梗塞）、不整脈（心房細動、心室頻拍など）、心不全（弁膜症・心筋症）、高血圧、大動脈・末梢動脈疾患、肺高血圧症、先天性心疾患



呼吸器内科


副島 研造

呼吸器内科では、専門的な検査・治療設備を活用し、肺がん、アレルギー、感染症を含む呼吸器疾患全般に対して、各分野の専門医が質の高い医療を提供しています。

診療体制

呼吸器内科専門医を中心に、気管支鏡専門医、がん治療認定医、がん薬物療法専門医、アレルギー専門医が在籍し、チーム医療と他科との円滑な連携による包括的な診療を行っています。

治療方針

入院・一部外来患者に対して週2回のカンファレンスで治療方針を検討。肺がん診療では遺伝子情報に基づく個別化治療と、呼吸器外科・放射線科との多職種合同カンファレンス（MDD）により最適な治療戦略を策定しています。

特色と主な実績

肺がん診療においては、従来の遺伝子検査に加え、院内実施の包括的ゲノムプロファイリング（CGP）とエキスパートパネルにより、最先端の個別化医療を展開しています。呼吸器外科、放射線科、病理と連携した病理カンファレンスにより高精度な診断を実現。また、間質性肺炎に対しては新規のクライオバイオプシーを用いた診断を導入し、病理、リウマチ内科、放射線科との連携により、県内唯一のMDDによる診断・治療体制を構築しています。

対象疾患

肺がん、胸膜中皮腫、縦隔腫瘍などの悪性腫瘍、肺炎、非結核性抗酸菌症、胸膜炎などの感染症、気管支喘息、COPD（慢性閉塞性肺疾患）、間質性肺炎、気胸など幅広く対応しています。



糖尿病・内分泌内科


土屋 恭一郎

当科では、糖尿病、脂質異常症、肥満症などの生活習慣病を含む糖尿病・代謝性疾患並びに甲状腺、視床下部・下垂体疾患及び副腎疾患などの内分泌疾患の専門的な診療を担当しています。

診療体制と治療方針

糖尿病診療においては、多職種でのチーム医療を実践し、入院症例に対しては毎週カンファレンスを行い、個々の症例の病状やライフスタイルを踏まえた退院後の総合的な支援を行っています。持続血糖測定、持続インスリン皮下注射療法を含めた最新の治療法の経験も豊富です。

内分泌疾患はあらゆる領域の診断、治療を行っています。原発性アルドステロン症の精査にはクリニカルパスを適用し、副腎静脈サンプリングも放射線科と連携して行っています。

特色と主な実績

当科は、日本糖尿病学会認定教育施設ならびに日本内分泌学会認定教育施設であり、糖尿病専門医・内分泌代謝科専門医の育成、研修医の教育も積極的に行っています。

また、小児期に発症した糖尿病や内分泌疾患を有する患者さんの円滑な成人期診療への移行のため、小児科とも定期的にカンファレンスを開催しています。

対象疾患

糖尿病疾患（1型糖尿病、2型糖尿病、MODYなど）、肥満症、甲状腺疾患（バセドウ病、橋本病、甲状腺腫瘍など）、副腎疾患（原発性アルドステロン症、クッシング症候群、褐色細胞腫など）、下垂体疾患（先端巨大症、クッシング病、プロラクチノーマ、下垂体機能低下症、尿崩症など）、副甲状腺疾患、電解質異常



腎臓内科


中島 歩

腎臓内科では、糖尿病性腎症、腎硬化症、原発性糸球体腎炎、尿細管間質性疾患、遺伝性腎疾患、血管炎症候群、ループス腎炎など多岐にわたる疾患に対する診療を行っています。また、慢性腎臓病の原因となる高血圧症、糖尿病、脂質異常症、膠原病などに対する治療に加えて、血液透析・腹膜透析の導入と管理、腎不全の合併症に対する治療を行っています。

診療体制・治療方針

腎生検による組織学的診断や必要に応じた遺伝子検査を実施し、正確な診断と最適な治療法を提供することを心掛けています。また、腎臓病に関する治験や臨床試験も多数行っています。山梨大学医学部附属病院は県内で腎移植を選択できる唯一の医療機関であり、移植後の管理は腎臓内科で担当しています。その他、血液透析に必要なシャント造設術、腹膜透析の導入に必要なカテーテル挿入術なども行っています。

特色と主な実績

山梨県慢性腎臓病予防プログラムを主導して、慢性腎臓病の啓発活動や慢性腎臓病病診連携医制度の拡充、地域の医療機関との連携強化など、慢性腎臓病の早期発見・進展抑制の取り組みを行っています。また、やまなし減塩プロジェクトやProject ZEROの取り組みを通して、生活習慣病になりにくい地域づくりに貢献しています。

対象疾患

糖尿病性腎症、腎硬化症、原発性糸球体腎炎、尿細管間質性疾患、遺伝性腎疾患（多発性嚢胞腎・アルポート症候群など）、血管炎症候群、ループス腎炎、腎不全、高血圧症、糖尿病、脂質異常症など



リウマチ膠原病内科


中込 大樹

2020年に新設された診療科となります。当科は、関節リウマチをはじめ、血管炎や全身性エリテマトーデスといった膠原病を対象としております。専門性の高い診療と教育を通じて、質の高い医療を提供しています。

診療体制

診療内容は科内でカンファレンスを通じて共有し、質の高い医療の提供を心掛けています。関節リウマチに関しては、関節エコーを活用した早期診断と治療評価を行っております。リウマチ膠原病センターと連携し多診療科で集学的治療を行います。

治療方針

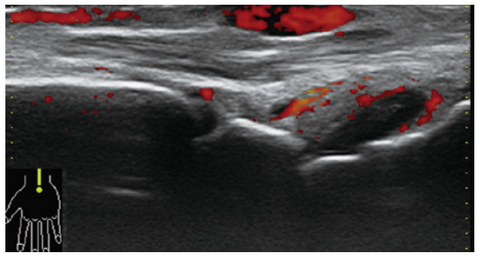
リウマチ膠原病は自己免疫疾患であるため、免疫抑制が主な治療法になります。疾患の病態と病勢を正確に評価し、ステロイドや免疫抑制剤を用いた寛解導入・維持療法を行います。

特色と主な実績

関節炎の診断は、診察のみでは不十分なこともあり、当科では関節エコーを用いて、早期診断、病勢評価を行い、的確な薬物治療を提供しています。間質性肺炎、腎炎、神経病変などの臓器病変に対しても豊富な診療経験を有し、各種合併症の治療にもスムーズに対応できるように研修を積んでおります。大学病院として診療、教育、研究の三本柱に尽力しています。

対象疾患

関節リウマチ、リウマチ性多発筋痛症、全身性エリテマトーデス、皮膚筋炎、強皮症、シェーグレン症候群、乾癬性関節炎、脊椎関節炎、高安動脈炎、巨細胞性動脈炎、ANCA関連血管炎などを対象としています。



神経内科


上野 祐司

脳卒中、認知症、変性疾患等、脳神経内科疾患は多岐に渡ります。近年、脳神経内科領域は病態解明や治療法の進歩が目覚ましく、これまでの「治療法のない脳神経内科」から、「治療可能な脳神経内科」へと大きく変化してきています。

診療体制

山梨県の中核病院として、エビデンスに基づき、患者さんに最善の治療を行えるよう努めております。脳卒中診療をはじめ、認知症や神経難病から、希少疾患に至る幅広い脳神経疾患の診療を行なっております。

治療方針

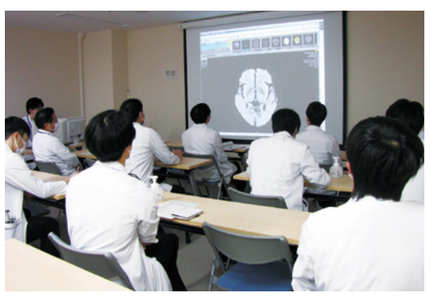
日本神経学会専門医、脳卒中専門医、認知症専門医が中心となり最新の治療を提供しております。様々な脳神経疾患について、カンファレンス等で密な意見交換を行い、正確な診断と患者さんへ寄り添った診療を心がけています。

特色と主な実績

脳卒中診療では急性期治療と共に、脳神経外科や循環器内科と連携してブレインハートチームを構築しております。病型不明の脳梗塞に対する経食道心エコーを実施し、当科入院、近隣で加療した脳梗塞患者の原因を解明しております。卵円孔開存へのカテーテルによる閉鎖術、大動脈プラーク等の動脈硬化疾患への積極的な脂質管理等に繋げております。進行期パーキンソン病に対するレボドパの経腸用液療法や持続皮下注療法、アルツハイマー病に対する抗アミロイドβ抗体療法を積極的に進めております。

対象疾患

脳卒中、神経変性疾患、神経感染症、脱髄性疾患、代謝・中毒性疾患、末梢神経疾患、筋疾患、神経筋接合部疾患、脊髄疾患、機能性疾患、内科疾患に伴う神経疾患



血液・腫瘍内科


桐戸 敬太

血液・腫瘍内科は、山梨県の血液疾患診療の中核拠点として、良性血液疾患および幅広い造血器腫瘍に対する治療に取り組んでいます。日本造血・免疫細胞療法学会が認定する移植認定基準のカテゴリー1を取得し、またR7年度からはCAR-T細胞療法についても認定を取得し、最先端の治療にも対応しております。

診療体制

血液・腫瘍内科には14名の医師が所属しておりますが、うち8名が日本血液学会専門医、4名が日本造血・免疫細胞療法学会　移植認定医の資格を有しております。また、1名が日本臨床腫瘍学会　がん薬物療法専門医の資格を有しております。また、血液・腫瘍内科病棟の看護師の多くが造血細胞移植についての専門研修を受講しております。また、病棟には専属の薬剤師やリハビリテーションスタッフも所属しており、チームとして診療に当たっております。

治療方針

患者さん・ご家族のご要望を尊重しつつ、最新のガイドラインにそった治療を行うことを心がけております。また、国内および国際的な臨床試験にも多く参加しており、先進的な医療の提供にも積極的に取り組んでいます。

特色と主な実績

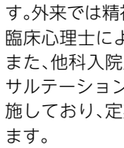
- 年間20～30件の造血幹細胞移植を行っています。
- 入院患者は年間500名前後。
- 毎月延250～300名の患者さんの外来化学療法を行っています。
- 臨床試験には、幅広い血液疾患を対象に毎年20件以上に取り組んでいます。

対象疾患

良性血液疾患：免疫性血小板減少性紫斑病、再生不良性貧血、自己免疫性溶血性貧血等
血液腫瘍：急性白血病、骨髄増殖性腫瘍、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫等



小児科


犬飼 岳史

小児を対象とする幅広い領域の難治性疾患に対して、各領域の学会専門医が高度な医療を展開しています。

診療体制と特徴

主な診療グループ

血液班：小児がんに対して、抗がん剤、放射線、手術、免疫・移植療法を用いた集学的な治療と、骨髄不全症や免疫不全症などの血液疾患の診断と同種移植も含めた治療を行なっています。

心臓班：先天性心疾患、後天性心疾患まで幅広く対応し、難治性川崎病に対する血漿交換や小児頻脈性不整脈へのカテーテル治療も行なっています。

神経班：てんかん拠点病院であり、神経筋疾患に対する遺伝子治療、脳炎脳症など神経救急対応を行う一方、神経発達症、心身症、睡眠障害の診療を行っています。

内分泌班：小児内分泌疾患に対し、遺伝子診断を含む診断治療を行なっています。

腎臓班：小児腎生検を行える施設としてネフローゼ症候群や慢性腎炎に対する個別化した治療を行い、その他の幅広い腎疾患の管理や小児リウマチ性疾患に対する診断・治療も行っています。

赤ちゃんの頭の形外来：頭蓋形状矯正ヘルメットを用いた専門外来を開設しております。

代表的な対象疾患と診療実績（2025年度新規患者数）

白血病、神経芽腫などの小児がん（15名）、先天性心疾患（50名）、てんかん（50名）、発達障害・心身症（50名）、小児内分泌疾患（80例）、1型糖尿病（3例）など。

特殊検査・治療：心臓カテーテル検査（60件）、腎生検（10件）、同種造血細胞移植（10件/5年）



精神科


鈴木 健文

当科では「こころ」の病に対する外来および入院治療を行っています。総合病院内の精神科として、身体疾患や妊娠・出産に関連する精神的問題にも広く対応し、患者さんが安心して治療に専念できるよう環境づくりにも力を入れています。

診療体制

32床の精神科病棟を有し、うつ病などの気分障害を中心に入院治療を行っています。外来では精神疾患全般に対応しており、臨床心理士によるカウンセリングも提供。また、他科入院患者の精神面を支えるコンサルテーション・リエゾン活動も活発に実施しており、定期的な病棟回診を行っています。

治療方針

治療抵抗性うつ病に対しては電気けいれん療法（ECT）を導入し、手術室で安全に施行できる体制を整えています。高齢者には認知機能への影響が少ない片側性治療も活用しています。

特色と主な実績

クロザピン使用が可能な登録医療機関であり、治療抵抗性統合失調症への対応も可能。うつ病と初期認知症の鑑別診断にも力を入れており、精神科的視点から高齢者医療に貢献しています。

対象疾患

うつ病、統合失調症、認知症をはじめ、身体疾患に伴う精神症状や妊婦の精神的ケアなど、幅広い精神疾患に対応しています。



皮膚科


川村 龍吉

特定の領域に偏らず、地域の全ての重症・難治性疾患の診療にあたっています。総合的・多角的に診断を確定し、エビデンスに基づいた最善の治療を提供します。

診療体制

午前に初診・再診外来を毎日設置しています。午後は、各専門外来にて高度な治療を提供します。木曜日はクリニカル・カンファレンスにて、診断や治療に苦慮する患者さんに最適な検査・治療を提案します。

治療方針

生物学的製剤、免疫チェックポイント阻害剤などの新規治療法を積極的に導入し、科学的エビデンスに基づく医療を提供します。

特色と主な実績

初診外来・再診外来では、年間のべ23,000人の外来患者さんの診療を行います。

入院では、平均12床を稼働させ、重症・難治例の治療、手術を行います。

腫瘍外来：免疫チェックポイント阻害剤など新規化学療法をエビデンスに基づき提供します。

角化症外来：生物学的製剤を含めた全身療法を積極的に導入します。

アレルギー外来：アレルギーセンターと連携し、アレルギーの精査と生物学的製剤など新規治療薬を導入します。

膠原病外来：リウマチ膠原病センターと連携し、様々な難治症例の治療を集学的に行います。

対象疾患

腫瘍外来：メラノーマ、有棘細胞癌、肉腫など
角化症外来：乾癬、掌蹠膿疱症、化膿性汗腺炎など
アレルギー外来：アトピー性皮膚炎、蕁麻疹など
膠原病外来：皮膚筋炎、エリテマトーデス、強皮症など
色素・レーザー外来：白斑、血管腫、母斑など
水疱症外来：自己免疫性水疱症など



形成外科


大河内 裕美

身体組織の変形・欠損・醜状といった機能的・整容的障害に対し、あらゆる手法を駆使して改善を目指す――それが、われわれ形成外科です。当科は日本形成外科学会認定専門医が4名在籍する、形成外科では県内で最大の診療機関です。

診療体制

全身麻酔下での手術は火・金曜日、外来診療は月・水・木曜日に行っています。また他診療科や地域連携を活かしながら、良質な診療体制を整えています。

治療方針

当科の治療を通じて、患者さんがよりよい生活を送り、笑顔で社会生活に参加できることを目標に、適切な医療を提供しています。

特色と主な実績

性別不合（性同一性障害）については、国内でも数少ない日本GI（性別不合）学会認定施設として全国から患者さんを受け入れています。この分野では手術件数・研究実績ともに国内トップクラスで、2023年3月には同学会の研究大会を主催するなど、全国をリードする立場にあります。

また他診療科と連携し、がんなどの悪性腫瘍切除後の再建手術にも積極的に取り組んでいます。近年では美容外科の術後トラブルに関する相談も増えており、時代の要請に応じた診療を実践しています。

対象疾患

外傷（顔面骨骨折、手指外傷など）、先天異常（多指症、埋没耳、睫毛内反など）、腫瘍切除後の組織欠損、瘢痕拘縮、ケロイド、難治性潰瘍、陳旧性顔面神経麻痺、眼瞼の変性疾患（眼瞼下垂など）、性別不合、美容外科術後後遺症など



消化器外科、乳腺・内分泌外科


市川 大輔

当科は、消化器疾患および乳腺・内分泌疾患に対する外科治療を専門とし、地域医療の中核を担っております。高度な専門知識と技術を生かし、患者さん一人ひとりに最適な医療を提供しています。

診療体制

専門医を中心としたチーム医療体制を整備し、手術・化学療法・放射線治療などを統合した最適な治療を提供しています。ロボット手術などの最先端技術も積極的に導入し、安全性と低侵襲性を両立しています。

治療方針

早期癌に対しては低侵襲かつ可能な限り機能を温存する手術を目指しています。また、高度進行癌に対しては、集学的治療による治療成績の向上も目指しております。

特色と主な実績

当科では、年間700件以上の手術を実施しており、対象疾患の多くは悪性腫瘍です。他施設で手術困難とされる高難度症例にも対応し、ロボット手術を含む全術式において先進的な治療を提供。全国的にもトップクラスの治療成績を誇り、患者さんの満足度と生活の質向上を常に追求しています。

対象疾患

食道がん、胃がん、小腸がん（十二指腸がん）、大腸がん（結腸がん・直腸がん）、肝臓がん、膵臓がん、胆道がん（胆管がん・胆嚢がん）、その他消化器がん全て、高度肥満患者に対する減量手術を含む消化器疾患全て、早期乳がん、転移・再発乳がん、遺伝性乳がん卵巣がん症候群（予防切除、遺伝カウンセリング含む）、線維腺腫、葉状腫瘍、乳腺炎



心臓血管外科、呼吸器外科、小児外科


中島 博之

当科は心臓血管外科、呼吸器外科、小児外科の三領域から構成されています。それぞれのチームは小児先天性心疾患や成人の心臓・血管疾患の手術、肺がんをはじめとした呼吸器疾患の手術、小児に関する手術を中心とした治療を行っています。

診療体制

心臓血管外科では常勤8名（うち専門医7名）、呼吸器外科では8名（専門医4名）、小児外科では2名（専門医1名）で基本的に24時間緊急手術にも対応可能なチーム体制を構築しています。それぞれが対応する内科系と連携し、患者さんに最適な治療を選択しています。

治療方針

エビデンスに基づく低侵襲・安全第一の治療を基本とし、全身状態、病状の進行度に応じて計画しています。患者さんの要望にも可能な限り対応するよう努めています。小児では手術を行う時期、手術方法、周術期管理について個々の症例に応じて対応しています。

特色と主な実績

心臓血管外科では心臓大血管手術が年間150例程度、2025年には小開胸による低侵襲心臓手術を開始、血管手術を合わせて年間200例超。呼吸器外科では年間手術数は約200例で、胸腔鏡手術に加え2018年から手術支援ロボット（ダビンチ）を用いた低侵襲手術を積極的に施行しています。進行肺癌に対しては呼吸器内科、放射線科と連携して集学的治療を行っています。また当院は小児がん診療を行う山梨県内唯一の施設であり、小児外科では小児固形がんの生検、切除手術、良性腫瘍の切除術、長期留置型カテーテルの挿入手術も施行しています。

対象疾患

冠動脈疾患、弁膜症、胸部・腹部大動脈瘤・解離、末梢血管疾患、先天性心疾患、先天性のその他の疾患、成長過程に出現する小児疾患、小児がん・腫瘍、肺・縦隔の腫瘍、気胸や膿胸などの急性胸部疾患



整形外科


波呂 浩孝

体幹と四肢の骨、軟骨、筋、靭帯、神経などの組織が健全に保持され、生活の質が担保されるための医療を行います。子供から高齢者まで広い年齢層における先天性疾患、変性疾患、外傷、腫瘍などを対象に投薬などの内科的治療から、低侵襲から大侵襲までの手術治療、リハビリテーションを行います。

診療体制

脊椎・関節・腫瘍・足の外科・手外科・運動器外傷・リウマチ班を主軸に入院・手術診療を行っております。外来では小児などの多岐にわたる分野の診療にあたり、適切な治療が受けられるようにサポートします。

治療方針

手術治療は最終手段となることが多く、適切な保存治療（投薬・外固定・リハビリテーション）にて治療を得られるか患者さんとリスク・ベネフィットを相談し治療方針を決定します。

特色と主な実績

それぞれの分野の専門家が難治疾患を含む運動器障害に対して、医療安全に十分配慮した最先端治療を実践し、治療・若手医師の教育に当たります。専門医以上は学会発表や論文発表を率先的に行い全国治療水準にキャッチアップし、医局全体の治療実績の研鑽に努めています。

対象疾患

- 関節疾患　（変形性股関節症、変形性膝関節症、変形性足関節症など）
- 腫瘍　（原発性骨・軟部腫瘍、転移性骨・軟部腫瘍）
- 脊椎疾患　（頚椎～腰椎の椎間板ヘルニア、脊柱管狭窄、脊椎変形など）手外科・小児整形・関節リウマチなど



脳神経外科


吉岡 秀幸

脳神経外科では、脳、脊髄、末梢神経およびその付属器官（血管や骨など）の疾患に対して、外科的な治療を含めた総合診療を行います。当科は、昭和59年に開設されて以来、山梨県の脳神経外科診療の中心的な役割を果たしています。

診療体制

血管障害、脳腫瘍、脊椎脊髄疾患に対する各専門医からなるグループが編成され診療にあたっています。

治療方針

脳卒中や頭部外傷などの救急疾患に対し、脳卒中循環器救急センターとして24時間体制で、近隣病院や救急隊から患者を受け入れています。また、高磁場3T-MRIや多関節型血管撮影装置（ハイブリッド手術室）、ナビゲーションシステム、4K内視鏡、術中CTなどの最新医療機器を駆使し、安全かつ高精度な脳神経外科手術を提供しています。

特色と主な実績

脳卒中に対しては、神経内科や循環器内科と連携し、一次脳卒中センターコア施設として24時間、万全の治療体制を整えています。脳腫瘍においては、良性から悪性まで、手術は勿論、後療法を含め一貫した治療を行っています。また、脊髄外科治療やてんかん治療では、院内横断的な複数科で構成される脊椎・脊髄センターやてんかんセンターと連携しています。

年間350例を超える脳神経外科手術を行い、顕微鏡手術、神経内視鏡手術、血管内治療など高難度治療にも対応しています。

対象疾患

脳卒中（くも膜下出血、脳内出血、脳梗塞、未破裂脳動脈瘤など）、良性及び悪性脳腫瘍（神経膠腫、髄膜腫、下垂体腺腫など）、脊椎脊髄疾患（脊柱管狭窄症や椎間板ヘルニアなど）、小児神経疾患、頭部外傷、機能的神経疾患（三叉神経痛、片側顔面けいれん、てんかんなど）です。



麻酔科


小川 覚

麻酔科は、外科手術に必要な全身麻酔を担当しています。安全で質の高い麻酔管理を提供できるよう努めています。麻酔科専門医のみならず、ペインクリニック専門医や緩和ケア専門医が手術室以外において活動しています。

診療体制

麻酔診療のチームを基本として、周術期外来（術前外来）、術後疼痛管理チーム、ペインクリニック外来、緩和ケアチームなどを編成し、病院における様々な診療を支援する重要な役割を担っています。

治療方針

ペインクリニックでは硬膜外ブロックなどの神経ブロック、薬物療法、近赤外線治療、キセノン光治療、ボツリヌス治療等を提供します。脊髄刺激療法（SCS）が必要な患者様を県内医療機関より受け入れ、難治性がん疼痛に対しては腹腔神経叢ブロックといった特殊な神経ブロックをおこなっています。

特色と主な実績

院内で実施される手術の大部分が麻酔科にて管理されており、年間5,000件に上ります。当院は県内唯一の特定機能病院として高難度外科手術が多く実施されており、これらにも安全な麻酔管理を提供できるよう努めています。産科医師と協力し、社会的なニーズの高い無痛分娩を開始しました。

対象疾患

ペインクリニックでは、腰背部痛、帯状疱疹後神経痛、三叉神経痛をはじめ、様々な疼痛に対して治療を提供します。緩和ケアでは、がんに伴う疼痛や苦痛症状を緩和させるための薬物治療をおこないます。



産婦人科


吉野 修

産科では安全な妊娠・分娩を支え、婦人科では早期診断から専門的治療まで幅広く対応しています。不妊治療、妊孕性温存、出生前診断など、女性のライフステージに寄り添う医療を展開し、多診療科連携による高度で安全な医療を提供します。

診療体制

周産期、婦人科腫瘍、生殖医療、子宮内膜症、超音波診断、女性ヘルスケアなど各専門外来を設置。県内唯一の大学病院産婦人科として、専門性の高い診療と地域医療機関との連携を推進しています。

治療方針

各領域の専門医が連携し、最新の医学的知見と技術をもとに、一人ひとりの人生に寄り添った、安全で質の高い医療を提供します。

特色と主な実績

妊娠・出産から、婦人科疾患、不妊治療、思春期・更年期医療まで、女性の生涯にわたる健康を支えています。大学病院の強みを活かした多診療科連携により、合併症を有する妊娠や高度な治療にも対応しています。さらに近年はプレコンセプションケアを推進し、若い世代から健康への意識を高めることで、将来の妊娠だけでなく、その先の人生の質（QOL）向上を目指した新しい医療にも取り組んでいます。

対象疾患

妊娠・分娩、婦人科がん、不妊症、子宮内膜症・子宮筋腫などの月経関連疾患、思春期・更年期障害、女性内分泌疾患など。



泌尿器科


三井 貴彦

泌尿器科は、腎臓や尿路の疾患をはじめ、男性の生殖器疾患や女性の骨盤内疾患などを対象とし、小児から高齢者まで幅広い年齢層に対して、内科的治療から外科的治療までを行う、幅広い領域を専門とする診療科です。

診療体制

一般的な泌尿器科疾患の治療に加えて、ロボット支援手術などより専門的な泌尿器科疾患に対する治療に、エキスパートが診療にあたっています。山梨県における泌尿器科疾患の砦となるような施設を目指しています。

治療方針

地域に暮らす人たちが安心して生活することができるよう、地域の医療機関とも協力し、患者さんに最も適した治療を選択して幅広い治療を行っています。

特色と主な実績

最先端の術式であるロボット支援手術については、泌尿器科領域におけるすべての術式を施行しており、現在では全国の同規模病院の中でもトップクラスの施設です。泌尿器がんに対する放射線療法や化学療法などの手術以外の治療も積極的に行っています。

また、各種の先天性泌尿器疾患を含む小児泌尿器科、尿失禁、骨盤臓器脱などの女性泌尿器科、腎代替療法や腎移植による腎不全医療、性機能障害や男性不妊症に対する治療など、泌尿器がん以外の良性疾患に対する治療も積極的に行っています

対象疾患

泌尿器がん：前立腺がん、膀胱がん、腎がんなど
副腎腫瘍、前立腺肥大症、神経因性膀胱、尿失禁、間質性膀胱炎、骨盤臓器脱、小児泌尿器科疾患、慢性腎不全、性機能障害、男性不妊症



眼科


柏木 賢治

山梨県並びに近隣の眼科の中核病院として高度の診療内容が必要な眼および眼付属器疾患に対応する診療体制を整えております。新しい検査や治療法を積極的に高度で的確な眼科医療を提供しております。さらに増加する眼科患者に対応するため、地域眼科との連携を行っております。

診療体制

外来診療は基本的に月曜、水曜、金曜が初診と一般再診を行っており、火曜日と木曜日は専門外来となっています。なお、一部専門外来診療に関しては上記以外にも行っております。入院手術は火曜日、木曜日、金曜日に行い、火曜と木曜は日帰り手術を行っています。

治療方針

患者さんの高いレベルでの生活の質を“見える”という観点から守るための取り組みを行っています。また残念ながら高度な障害となった方の生活上の支援も行っています。

特色と主な実績

山梨県並びに近隣において最も多数例の高度な眼疾患を有する患者さんの診療を行っています。手術件数も年々増加し、特に緑内障手術については年間500-600件行っております。また眼科救急も一次救急から高度な治療を要する三次救急まで毎日受け入れております。

対象疾患

幅広い眼科疾患を対象としています。特に重点的な対象疾患としては、緑内障、網膜硝子体疾患、角結膜疾患、神経眼科疾患、小児眼科疾患、眼瞼、眼窩疾患、涙道疾患、ロービジョン、その他入院手術の必要な白内障、ぶどう膜炎治療も広く行っております。



頭頸部・耳鼻咽喉科


櫻井 大樹

耳・鼻・咽頭・喉頭など耳鼻咽喉科・頭頸部外科の疾患に対し、山梨県の中核拠点として高度な治療まで提供しています。悪性腫瘍から機能障害まで幅広く対応しています。

診療体制

頭頸部腫瘍、めまい・難聴、副鼻腔炎・アレルギー性鼻炎などに対し専門外来を開き、最新の医療機器や手技を活用したチーム医療を展開しています。小児から高齢者まで幅広く対応しています。

治療方針

頭頸部癌では、根治性と機能温存の両立を重視し、低侵襲手術や化学放射線療法、再建術を組み合わせた個別化治療を行っています。機能障害に対しても検査と薬物療法や手術治療により対応しています。

特色と主な実績

頭頸部がんに対し、根治的切除から機能温存・再建手術まで幅広く対応し、早期がんには内視鏡を用いた低侵襲手術を実施しています。喉頭摘出後の代用音声手術や、県内唯一の人工内耳手術認可施設として重度難聴にも対応しています。アレルギー性鼻炎には舌下免疫療法を、重症花粉症や好酸球性副鼻腔炎には分子標的薬を用いた最新の治療を提供しています。新生児聴覚障害や睡眠時無呼吸症にも専門的診療を行っています。

対象疾患

頭頸部がん、甲状腺腫瘍、アレルギー性鼻炎、副鼻腔炎、難聴、めまい、嗅覚障害、音声障害、睡眠時無呼吸症、小児聴覚障害、咽頭や頸部の感染性疾患など。



放射線治療科


大西 洋

放射線治療科では、日本でも有数の高精度照射実施施設として、質の高いがん放射線治療を提供しています。またAIを駆使した最先端の研究も実施しています。

診療体制

放射線治療装置は3台（CT-リニアック、トモセラピー、密封小線源治療装置）で、関連施設ではサイバーナイフ治療も実施しています。また県内で唯一の専用治療室を有したRI内用療法を実施しています。

治療方針

放射線治療によりがんの根治、疼痛の緩和を図ります。患者さんのお気持ちや考え方を大切にした（Shared Decision Making）やさしい低侵襲ながん治療を心がけています。

特色と主な実績

当科の研究成果は世界中で引用されており、特に肺癌の定位放射線治療や、呼吸性移動対策用デバイスである「アブチェス」は国内外で高い評価を得ています。外照射においては、定位放射線治療（SRT）、息止め放射線治療、強度変調放射線治療（IMRT/VMAT）、体表面画像誘導放射線治療（SGRT）、画像誘導放射線治療（IGRT）など最先端の技術を取り入れています。また内照射においても、画像誘導小線源治療（IGBT）やRI内用療法等、専門性の高い放射線治療を実施しています。

対象疾患

脳腫瘍、頭頸部がん、食道がん、肺がん、乳がん、前立腺がん、子宮がん、膵がん、腎がん、悪性リンパ腫などの悪性腫瘍全般、および放射線治療適応の良性疾患（甲状腺眼症、ケロイド等）



放射線診断科


市川 新太郎

放射線診断科は最先端機器を用いて非侵襲的に全身の病気を診断しています。画像ガイド下に低侵襲な治療も行っています（詳細はIVRセンターの項参照）。

診療体制

最新型CT・MRI、核医学を用いた画像診断、機能的画像解析の臨床と研究を行なっています。IVRセンターではX線透視及び超音波・CTガイド下で体を切らずに治療する血管内治療や経皮的治療を施行しています。

治療方針

依頼された検査に最適な撮像方法の提案、安全な検査の実施、迅速な画像診断報告を心がけています。IVRセンターでは低侵襲かつ、症例ごとに柔軟な治療選択肢を考慮し実践しております。

特色と主な実績

翌営業日までの画像診断レポート作成を基本としております。時間外、休日等も画像診断およびIVRを行う体制をとっており、緊急症例にも迅速に対応しております。また肝臓など臓器の硬さを計測するMRエラストグラフィ、体の中の血液の流れを可視化する4D flow MRIの臨床応用に力を入れています。2023年には遠隔画像読影システムを導入し、関連病院や海外の読影支援を展開しており、地域貢献・国際貢献の一翼を担っております。

対象疾患

悪性腫瘍の診断、効果判定、再発の検出（CT/MRI/RI）、機能画像（functional MRIなど）、悪性腫瘍の抗腫瘍剤動注 、緊急止血術、CTガイド下生検など



歯科口腔外科


上木 耕一郎

口腔は、「食べる」「話す」「表情をつくる」など、生活の質（QOL）を支える重要な役割を担っています。当科では、口腔・顎・顔面領域のさまざまな疾患に対し、的確な診断から専門的な治療、口腔機能の回復・リハビリテーションまで一貫した診療を行っています。

診療体制

お口の健康は全身の健康と密接に関わっています。当科では、大学病院の歯科口腔外科として最新の知見に基づいた診療を行うとともに、各診療科と緊密に連携し、一人ひとりの患者さんに適した安全で質の高い医療の提供に努めています。

治療方針

口腔・顎・顔面領域の疾患に対し、全身状態にも十分配慮しながら、エビデンスに基づく診断と治療を実践しています。十分な説明と患者さんの理解・同意のもと、安心して治療を受けていただけるよう努めています。

特色と主な実績

当科では、顎変形症に対し、顎顔面形態や咬合状態を総合的に評価し、患者さん一人ひとりに適した術式を選択しています。矯正歯科と密接に連携し、安全性と機能性、審美性を考慮した質の高い治療を提供しています。また、周術期口腔機能管理や口腔ケアにも積極的に取り組み、誤嚥性肺炎の予防に加え、がん治療に伴う口腔合併症の軽減や治療完遂率の向上にも貢献しています。口腔から全身の健康を支える医療を実践しています。

対象疾患

全身疾患を有する患者さんや全身管理を必要とする患者さんの歯科治療をはじめ、親知らず・埋伏歯、口腔外傷、顎骨嚢胞、口腔腫瘍、顎変形症など、口腔・顎・顔面領域の幅広い疾患に対応しています。



救急科


森口 武史

救急科は多臓器不全など、緊急性かつ重症度の最も高い疾患を扱うクリティカルケアの中核であり、地域医療の最後の砦として機能しています。包括的かつ高度な医療を提供することを使命とし、24時間体制の診療体制を整えています。

治療方針

重症感染症や各種臓器不全を伴う病態に対して、人工呼吸器、血液浄化、ECMOなどの人工補助療法を駆使し、救命と機能維持、社会復帰を目指します。最新の医療知識をもち最善の医療を提供します。

特色と主な実績

最新技術の導入や他施設との連携を通じて、診療の質向上と地域医療への貢献を目指しています。年間約600例程度の救急搬送への対応実績を持ち、地域中核病院としての役割を果たしています。

対象疾患

救急外来を受診するさまざまな救急疾患、また重症感染症、敗血症、急性呼吸不全、急性腎不全、急性肝不全、播種性血管内凝固症候群などクリティカルケアを要する疾患、病態を対象としています。



病理診断科


近藤 哲夫

病理診断には組織診断、細胞診断、術中迅速診断、病理解剖があり、病理診断科と病理部が連携して病理診断業務を行っています。

腫瘍、炎症、変性など様々な疾患に対して多様な染色技術、ときに遺伝子解析も加えて病理診断を行います。病理診断は医療の質を保証する“かなめ”として重要な役割を担っています。

診療体制

病理診断科には、７名の病理専門医（うち細胞診専門医６名）、３名の病理専攻医が所属し、附属病院の病理診断業務を行っています。

特色と主な実績

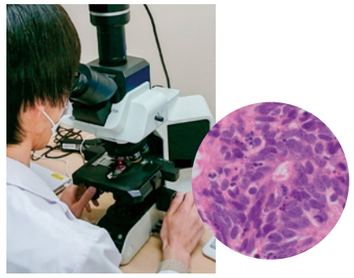
質の高い病理診断を提供するために組織診断の全症例において病理専門医2名が診断のダブルチェックを行い、細胞診断は複数の細胞検査士がスクリーニングした後に細胞診専門医の資格を有する病理医が判定しています。希少例や難解例は院内での病理カンファレンスで検討され、必要に応じて外部専門家へのコンサルテーションを行います。各診療科、部門との多職種合同カンファレンスも積極的に行っています。

術中迅速診断では腫瘍の診断、転移の有無、切除断端の判定を手術中に行っており、術式の決定に必要な病理情報を術者に提供しています。

病理解剖（剖検）は不幸にしてお亡くなりになられた患者様の全身臓器、組織を詳細に観察することにより、病因や病態の解明、治療効果の判定、死因の究明などの総合的な検証を行っています。病理解剖の結果は臨床病理検討会（CPC）を通じて主治医に報告されます。得られた貴重な知見は医師、医療従事者の育成、医学の進歩に役立てています。

対象疾患

組織診断（生検、手術検体）、細胞診断、術中迅速診断が行われる全身臓器の腫瘍性疾患、炎症性疾患、変性疾患など多様な疾患が病理診断科の診断対象です。



リハビリテーション科


谷口 直史

様々な疾患や手術侵襲により身体機能が低下すると社会復帰に時間を要します。患者様個々の状態に即して、術前・術後に身体機能維持・改善を図るため全人的なリハビリテーション医療を提供します。

診療体制

リハビリテーション医療はチーム医療で行われています。リハビリテーションチームは医師2名、理学療法士25名、作業療法士7名、言語療法士3名、医療ソーシャルワーカー、看護師で構成されています。

治療方針

リハビリテーション医療の依頼を受けた翌日から開始できるよう努めており、多職種によるカンファレンスを通じて患者様の情報を共有しながら治療を進めています。

特色と主な実績

病院再整備事業の一環で旧リハビリテーション室の約3倍の面積を持つ新リハビリテーション室が整備されました。理学療法室、作業療法室、言語聴覚室、心臓リハビリ機能訓練室や水療法室があり広いスペースでリハビリテーション治療を提供しています。2025年度は延べで脳血管障害・脳損傷14774例、脊髄損傷180例、運動器疾患・外傷9461例、小児疾患134例、神経筋疾患777例、切断30例、内部障害8716例、廃用症候群やがんリハビリテーション12713例のリハビリテーションを行いました。

対象疾患

骨関節疾患、脊髄損傷、脳血管障害、心筋梗塞後、心臓手術後、消化器手術後、呼吸器疾患、腎疾患、小児疾患、悪性腫瘍疾患、切断など



遺伝子疾患診療科


石黒 浩毅

各診療科で遺伝学的検査（遺伝性疾患の確定診断となる検査）が普及する中、当科はクライエントへの診療だけでなく、市民や医療者へのゲノム医療教育、遺伝性疾患に関する臨床研究および分子生物学的研究を多角的に展開しています。

診療体制

異なる専門分野を持つ臨床遺伝専門医と認定遺伝カウンセラーが、多職種とチーム医療を実践しています。またがんゲノムパネル検査・エキスパートパネルのコアメンバーとして、遺伝性腫瘍の確定診断やサーベイランス情報の提供、未発症血縁者に対する遺伝カウンセリングを実施します。

治療方針

当遺伝子疾患診療センターのコア診療科として、正確な遺伝医学的情報の提供とともに、心理的・社会的支援を包括した遺伝カウンセリングを行い、クライエントの意思決定を支えます。

特色と主な実績

小児科、産婦人科、外科などの専門医からなる臨床遺伝専門医と協力し、臨床検査技師や助産師資格を持つ認定遺伝カウンセラーとともに、幅広いゲノム医療に対応しています。診療科長は数少ない精神科専門医+臨床遺伝専門医であり、染色体疾患の成人移行期における精神症状の診療や全国からの相談に応じるとともに、遺伝関連学会や精神神経学会等と連携し、全人的苦痛を和らげる「遺伝医療における緩和ケア」の構築を提唱しています。

対象疾患

先天性難病（染色体・遺伝子疾患）、成人移行期医療（ダウン症候群、22q11.2欠失症候群等）、成人発症疾患（遺伝性腫瘍を含む）、次世代についての遺伝相談



Gastroenterology and Hepatology

The Department of Gastroenterology and Hepatology, Endoscopic Treatment Division, and Liver Disease Center work together to provide cutting-edge treatment involving the esophagus, stomach, small intestine, large intestine, liver, bile duct, and pancreas..

Medical services

We examine many organs for digestive diseases. Therefore, we have formed three separate groups—the digestive tract group, the liver group, and the biliary-pancreatic group—to provide outpatient and inpatient care.

Diagnosis and treatment policy

Based on our hospital's philosophy of “Relief for all patients”, we aim to deliver safe and advanced medical care for digestive diseases.

Specialties

We provide high-level medical care for the treatment of all digestive diseases. In particular, our liver group provides high-level medical care for the treatment of cirrhosis and hepatocellular carcinoma, our biliary-pancreatic group provides high-level medical care for pancreatic cancer, common bile duct stones, and cholangitis, and our gastrointestinal group provides high-level medical care for endoscopic submucosal dissection and inflammatory bowel diseases (ulcerative colitis and Crohn's disease).

Target diseases

Endoscopic hemostasis, EVL, EIS, Image enhanced endoscopy, ESD and chemotherapy for GI cancer, Capsule endoscopy, Small intestinal endoscopy, Treatment of IBD.
Oral treatment for HCV, Oral treatment for HBV, Treatment for symptoms of cirrhosis, Treatment for HCC with RFA, TACE, molecular target drugs and immune checkpoint inhibitors.
Biliary pancreatic endoscopy, ERCP, EST, ENBD, Stenting, EUS-FNA, EUS-BD, Chemotherapy.

Cardiovascular Medicine

In the Department of Cardiovascular Medicine, we provide advanced treatments utilizing specialized diagnostic and therapeutic equipment. Our research activities focus on the treatment and prevention of ischemic heart disease and arteriosclerosis, as well as the development of cutting-edge medical care for arrhythmias and heart failure.

Medical services

The Department of cardiovascular medicine has 25 doctors who provide examinations and treatment for all cardiovascular diseases 24 hours a day. As a cardiovascular clinic in Yamanashi Prefecture, we strive every day to provide safe and secure medical care to our patients.

Diagnosis and treatment policy

By promoting the prevention of cardiovascular diseases, we aim to extend the healthy life expectancy of the population and implement measures that contribute to reducing the burden on medical and long-term care services.

Specialties

Regarding ischemic heart disease, we operate a 24-hour system to accept patients with acute coronary syndrome and provide emergency examination and treatment. Last year, we performed 254 cases of coronary artery intervention therapy. Together with the department of cardiovascular surgery, we also performed transcatheter aortic valve implantation (TAVI) for severe aortic stenosis and MitraClip procedures for mitral regurgitation. Last year, we conducted 85 cases of TAVI and 10 cases of MitraClip. Since the introduction of TAVI in 2017, we have performed over 400 procedures and obtained certification as a specialized facility.
Catheter ablation procedures for atrial fibrillation, supraventricular tachycardia, and ventricular arrhythmias were also performed in 272 cases last year. Additionally, we carried out transcatheter left atrial appendage closure procedures. For chronic thromboembolic pulmonary hypertension, we performed 21 cases of percutaneous pulmonary artery balloon angioplasty.
We have introduced catheter treatments that are only available at our hospital within Yamanashi Prefecture, establishing a system capable of responding to nearly all cardiovascular diseases.

Target diseases

We address a wide range of cardiovascular conditions, including ischemic heart disease (angina pectoris and acute myocardial infarction), arrhythmias (such as atrial fibrillation and ventricular tachycardia), heart failure (due to valvular heart disease and cardiomyopathy), hypertension, aortic and peripheral artery disease, pulmonary hypertension, and congenital heart disease.

Respiratory Medicine

In the Department of Respiratory Medicine, specialists in various fields provide high-quality medical care for a wide range of respiratory diseases—including lung cancer, allergies, and infections—by utilizing advanced diagnostic and therapeutic facilities.

Medical services

Led by board-certified respiratory specialists, our team includes experts in bronchoscopy, certified cancer treatment physicians, medical oncologists, and allergy specialists. We provide comprehensive care through multidisciplinary teamwork and seamless collaboration with other departments.

Diagnosis and treatment policy

For inpatients and selected outpatients, treatment plans are discussed twice weekly in departmental conferences. In lung cancer care, personalized treatment is provided based on genetic profiling, and optimal strategies are developed through multidisciplinary discussions (MDD) with thoracic surgeons and radiation oncologists.

Specialties

In lung cancer care, we offer cutting-edge personalized medicine by incorporating not only conventional genetic testing but also in-house comprehensive genomic profiling (CGP) and expert panel discussions. Accurate diagnoses are achieved through collaborative pathology conferences involving thoracic surgery, radiology, and pathology. For interstitial lung diseases, we have introduced cryobiopsy as a novel diagnostic method and established the region’s only MDD system in collaboration with pathology, rheumatology, and radiology departments to provide integrated diagnosis and treatment.

Target diseases

We provide comprehensive care for a wide range of conditions, including malignant tumors such as lung cancer, pleural mesothelioma, and mediastinal tumors; infectious diseases such as pneumonia, nontuberculous mycobacterial infections, and pleuritis; as well as bronchial asthma, COPD, interstitial lung diseases, and pneumothorax.

Diabetes and Endocrinology

We perform professional diagnosis and treatment of all endocrine and metabolic diseases.

Diagnosis and treatment policy

For diabetes, we conduct real-time continuous glucose monitoring (CGM) and insulin pump therapy (CSII). Real-time CGM in combination with CSII, which is called as SAP (sensor augmented pump) was also conducted. We promote the treatment of diabetes through a comprehensive approach based on team medical care.
For endocrine diseases, we provide diagnosis and treatment in all areas. We perform adrenal venous sampling in cooperation with department of radiology for a diagnosis of primary aldosteronism utilizing a clinical path.

Specialties

Our department is a certified education facility of Japan Diabetes Society and Japan Endocrine Society. We have been educating young medical practitioners and researchers.
In addition, we hold regular conferences with pediatricians to ensure a smooth transition to adult care for patients with diabetes or endocrine disorders that developed during childhood.

Target diseases

We treat diabetes (e.g. type 1 diabetes, type 2 diabetes, MODY), thyroid (e.g. Graves'/ Basedow's disease, Hashimoto thyroiditis, thyroid nodule), pituitary (e.g. acromegaly, prolactinoma, Cushing's disease), and adrenal (e.g. Cushing's syndrome, primary aldosteronism, pheochromocytoma) diseases.

Department of Nephrology

The Department of Nephrology provides medical care for a wide range of diseases, including diabetic nephropathy, nephrosclerosis, primary glomerulonephritis, tubulointerstitial disease, hereditary kidney disease, vasculitis syndrome, and lupus nephritis. In addition to treating hypertension, diabetes, dyslipidemia, and collagen diseases that can cause chronic kidney disease, we also introduce and manage hemodialysis and peritoneal dialysis, and treat complications of renal failure.

Medical services • Diagnosis and treatment policy

We strive to provide accurate diagnoses and optimal treatments by conducting histological diagnoses through kidney biopsies and genetic testing as needed. We also conduct numerous clinical trials and investigations into kidney disease. Yamanashi University Hospital is the only medical institution in the prefecture where kidney transplants are an option, and post-transplant management is handled by the Department of Nephrology. We also perform shunt creation procedures necessary for hemodialysis and catheter insertion procedures required for the introduction of peritoneal dialysis.

Specialties

We are leading the Yamanashi Prefecture Chronic Kidney Disease Prevention Program, and are working to detect chronic kidney disease early and prevent its progression by raising awareness of chronic kidney disease, expanding the chronic kidney disease hospital-clinic collaboration physician system, strengthening cooperation with local medical institutions, etc. We are also contributing to creating a community where people are less likely to develop lifestyle-related diseases through our efforts in the Yamanashi Salt Reduction Project and Project ZERO.

Target diseases

Diabetic nephropathy, nephrosclerosis, primary glomerulonephritis, tubulointerstitial disease, hereditary kidney disease (polycystic kidney disease, Alport syndrome, etc.), vasculitis syndrome, lupus nephritis, renal failure, hypertension, diabetes, dyslipidemia, etc.

Department of Rheumatology

The department was established in 2020. We specialize in autoimmune diseases, such as rheumatoid arthritis, vasculitis, and systemic lupus erythematosus. We provide high-quality community-based medical services through highly specialized care and education

Medical services

We provide both outpatient and inpatient care through regular departmental conferences to ensure consistent, high-quality management. Musculoskeletal ultrasound was used for early diagnosis and treatment assessment of rheumatoid arthritis. Multidisciplinary care was provided in collaboration with the Rheumatology Center.

Diagnosis and treatment policy

As rheumatic diseases are autoimmune, immunosuppression is the mainstay of treatment. We carefully assessed the disease type and activity to provide induction and maintenance therapy using corticosteroids and immunosuppressants.

Specialties

Physical examination alone may not be sufficient for diagnosing arthritis; thus, we actively use musculoskeletal ultrasound for early diagnosis and disease activity assessment, ensuring appropriate pharmacological treatment. We also have extensive experience in managing systemic manifestations such as interstitial pneumonia, nephritis, and neurologic complications, and we are continuously trained to handle comorbidities effectively. The Rheumatology Center, formed in collaboration with Orthopedics and Dermatology, enables comprehensive and specialized care. As university hospitals, we strive to excel in clinical care, education, and research

Target diseases

We managed a wide range of autoimmune diseases, including rheumatoid arthritis, polymyalgia rheumatica, systemic lupus erythematosus, dermatomyositis, systemic sclerosis, Sjögren's syndrome, psoriatic arthritis, spondyloarthritis, Takayasu's arteritis, giant cell arteritis, and ANCA-associated vasculitis.

Department of Neurology

There are a wide variety of neurological disorders, including stroke, dementia, degenerative diseases, etc. The Neurology has remarkably progressed in elucidating pathology and developing treatment methods.

Medical services

As the core hospital in Yamanashi Prefecture, we strive to provide the best evidence-based treatment to our patients. We treat a wide range of neurological disorders, from stroke, dementia, and intractable neurological diseases, and even rare diseases.

Diagnosis and treatment policy

We provide the novel treatments with the assistance of specialists with the Japanese Board of Neurology, Japanese Board of Stroke, and Japanese Board of Dementia. We discuss closely the therapeutic strategy for various neurological disorders at conferences, and strive to provide accurate diagnoses and treatment that is tailored to the needs of each patient.

Specialties

In stroke treatment, we conducted the Brain-Heart Team with the neurosurgeons and cardiologists. We perform transesophageal echocardiography for cerebral infarction of unknown stroke etiology to explore the pathology in stroke patients who are hospitalized in our hospital, or treated in nearby facilities. We connect this to percutaneous closure surgery for patent foramen ovale, and active lipid management for atherosclerotic diseases such as aortic arch plaques. We actively promote Levodopa-Carbidopa Intestinal Gel and Continuous Subcutaneous Foslevodopa/Foscarbidopa therapies for advanced Parkinson's disease, and anti-amyloid beta antibody therapyies for Alzheimer's disease.

Target diseases

Stroke, neurodegenerative diseases, neuroinfectious diseases, demyelinating diseases, metabolic and toxic diseases, peripheral nervous diseases, muscle diseases, neuromuscular junction diseases, spinal cord diseases, functional diseases, and neurological diseases associated with internal medicine

Department of Hematology and Oncology

As the core center for therapy for blood diseases in Yamanashi Prefecture, the Department of Hematology and Oncology treats both benign blood diseases and a wide range of hematopoietic malignancies. We have obtained Category 1 transplant certification from the Japanese Society of Hematopoietic and Immuno-Cell Therapy, and since 2025 have also been certified for CAR-T cell therapy, providing cutting-edge treatment.

Medical services

The Department of Hematology and Oncology has 14 doctors, eight of whom are specialists of the Japanese Society of Hematology, and four of whom are transplant certified doctors by the Japanese Society of Hematopoietic and Immuno-Cell Therapy. In addition, one doctor is certified as a cancer chemotherapy specialist by the Japanese Society of Clinical Oncology. Many of the nurses in the Hematology and Oncology ward, has received specialized training in hematopoietic cell transplantation. The ward also has a dedicated pharmacist and rehabilitation staff, and they provide medical care as a team.

Diagnosis and treatment policy

We respect the wishes of patients and their families and strive to provide treatment in accordance with the latest guidelines. We also participate in many domestic and international clinical trials and are actively committed to providing cutting-edge medical care

Specialties

- We perform 20-30 hematopoietic stem cell transplants per year.
- We inpatient around 500 patients per year.
- We perform outpatient chemotherapy for a total of 250-300 patients each month.
- We conduct more than 20 clinical trials each year targeting a wide range of blood diseases.

Target diseases

Benign Hematological Disease; immune-thrombocytopenia, aplastic anemia, hemolytic anemia
Hematological Malignancies; Acute leukemia, myeloproliferative neoplasms, malignant lymphoma, multiple myeloma

Pediatrics

The academic specialists in each field are advancing medical care for a wide range of diseases in children.

Main Clinical Teams

Hematology Team: For pediatric oncology, we provide multidisciplinary treatment—chemotherapy, radiation, surgery, immunotherapy, and transplantation—and also diagnose and treat hematologic disorders such as bone marrow failure and immunodeficiencies.
Cardiology Team: We treat both congenital and acquired heart diseases, including plasma exchange for refractory Kawasaki disease and catheter ablation for pediatric tachyarrhythmias.
Neurology Team: As a primary epilepsy center in Yamanashi prefecture, we offer gene therapy for neuromuscular disorders, and handle acute neuro emergencies like encephalitis and encephalopathy. We also emphasize neuropsychological and cognitive evaluations for neurodevelopmental disorders and epilepsy.
Endocrinology Team: We diagnose and treat pediatric endocrine disorders—including genetic testin.
Nephrology Team: Performing pediatric renal biopsy, we offer individualized treatment for nephrotic syndrome and chronic nephritis, manage a wide spectrum of renal diseases, and also diagnose and treat pediatric rheumatologic renal conditions.
Infant Head Shape Clinic: We offer a specialized clinic providing cranial remolding helmet therapy for infants with positional cranial deformities.

Number of new representative patients in 2025

- Pediatric cancers: 15 cases
- Congenital heart disease: 50 cases
- Epilepsy: 50 cases
- Neurodevelopmental disorders & psychosomatic disorders: 50 cases
- Pediatric endocrine diseases: 80 cases
- Type 1 diabetes: 3 cases

Special Diagnostic & Therapeutic Procedures

- Cardiac catheter examinations: 60 procedures
- Renal biopsies: 10 procedures
- Allogeneic hematopoietic stem cell transplantation: 10 procedures over 5 years

Psychiatry

Our department provides outpatient and inpatient treatment for mental health conditions. As a psychiatry unit within a general hospital, we offer broad support for psychiatric symptoms related to physical illnesses or pregnancy. We are committed to creating a safe and supportive environment where patients can focus on healing.

Medical services

We operate a 32-bed psychiatric ward, primarily treating mood disorders such as depression. Our outpatient services cover a wide range of psychiatric disorders and include counseling by clinical psychologists. We actively engage in consultation-liaison services, offering mental health support to patients admitted to other departments through regular ward rounds.

Diagnosis and treatment policy

For treatment-resistant depression, we utilize electroconvulsive therapy (ECT) in a controlled operating room setting. In elderly patients, we adopt unilateral stimulation to minimize cognitive impact.

Specialties

Our facility is a registered medical institution authorized to use clozapine for treatment-resistant schizophrenia. We also focus on differential diagnosis between depression and early-stage dementia and contribute to geriatric medicine from a standpoint of psychiatry.

Target diseases

We treat depression, schizophrenia, dementia, and other psychiatric illnesses, as well as mental health concerns associated with physical diseases or pregnancy.

Dermatology

Without limiting our focus to any specific field, we provide medical care for all severe and intractable skin diseases around Yamanashi. Our approach is comprehensive and multifaceted, aiming to establish accurate diagnoses and provide the best treatment based on scientific evidence.

Medical services

Outpatient services are available every morning for both new and returning patients. We provide specialized medicine afternoons. On Thursdays, we hold clinical conferences to discuss patients with challenging diagnoses or treatment courses, and propose the best examinations and therapies.

Diagnosis and treatment policy

We actively adapt innovative therapies, such as biologics and immune checkpoint inhibitors, to provide medical care based on scientific evidence.

Specialties

Our outpatient clinic treats a total of approximately 23,000 patients annually for both initial and follow-up visits.
We operate an average of 12 inpatient beds, offering treatment and surgeries for severe and refractory cases.
Oncology Clinic: Provides evidence-based chemotherapy, including immune checkpoint inhibitors.
Keratoderma Clinic: Proactively introduces systemic therapies, including biologics.
Allergy Clinic: Collaborates with our Allergy Center to conduct comprehensive evaluations and introduce novel treatments, including biologics.
Collagen Disease Clinic: Collaborate with our Rheumatology and Collagen Disease Center to manage various refractory cases through a multidisciplinary approach.

Target diseases

Oncology Clinic: Melanoma, squamous cell carcinoma, sarcoma, etc.
Keratoderma Clinic: Psoriasis, palmoplantar pustulosis, hidradenitis suppurativa, etc.
Allergy Clinic: Atopic dermatitis, urticaria, etc.
Collagen Disease Clinic: Dermatomyositis, systemic lupus erythematosus, systemic sclerosis, etc.
Pigment and Laser Clinic: Vitiligo, hemangioma, nevi, etc.
Bullous Disease Clinic: Autoimmune bullous diseases, etc.

Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery

Our department addresses functional and aesthetic problems caused by deformity, tissue loss, or disfigurement, utilizing a broad range of surgical and nonsurgical techniques. With four board-certified specialists accredited by the Japan Society of Plastic and Reconstructive Surgery, we are the largest plastic surgery department in the prefecture.

Medical services

General anesthesia surgeries are performed on Tuesdays and Fridays, and outpatient care is provided on Mondays, Wednesdays, and Thursdays. We maintain a patient-friendly system in close collaboration with other departments and local medical institutions.

Diagnosis and treatment policy

Our goal is to help patients lead better lives and participate in society with confidence and smiles through appropriate medical care tailored to everyone's needs.

Specialties

In the field of gender incongruence (GI), we are one of the few facilities in Japan accredited by the Japanese Society of GI, accepting patients from across the country.
We are recognized as a national leader in this area, with top-tier surgical volumes and research output. In March 2023, we also hosted the Society's annual academic conference.
In addition, we actively collaborate with other departments to perform reconstructive surgery following malignant tumor resection.
In recent years, we have also seen a growing number of consultations regarding postoperative complications from cosmetic surgery, and we provide care that reflects the evolving needs of society.

Target diseases

Trauma (such as facial bone fractures and hand injuries), congenital anomalies (polydactyly, cryptotia, etc.), soft tissue defects after tumor excision, scar contractures, keloids, chronic ulcers, sequelae of longstanding facial nerve palsy, age-related eyelid disorders (such as ptosis), gender incongruence, and complications following cosmetic surgery.

Gastrointestinal surgery, Breast gland / endocrine surgery

Our department specializes in the surgical treatment of gastrointestinal diseases as well as breast and endocrine disorders, serving as a leading provider of advanced healthcare in the region. We are committed to delivering individualized, high-quality care through extensive expertise, advanced surgical techniques, and a patient-centered approach.

Medical services

We provide multidisciplinary care led by board-certified specialists, integrating surgery, chemotherapy, and radiation therapy to achieve the best possible outcomes for our patients. We actively adopt state-of-the-art technologies, including robotic-assisted surgery, to ensure both safety and minimally invasive treatment.

Diagnosis and treatment policy

For patients with early-stage cancer, we aim to perform minimally invasive procedures while preserving organ function whenever possible. For patients with advanced cancer, we pursue improved outcomes through comprehensive multidisciplinary treatment strategies.

Specialties

Our department performs more than 700 surgical procedures annually, the majority of which are for malignant diseases. We manage a wide range of complex and technically demanding cases, including those considered unsuitable for surgery at other institutions. By offering the full spectrum of advanced surgical techniques, including robotic-assisted surgery, we provide cutting-edge treatment tailored to each patient. Our department has achieved excellent clinical outcomes that rank among the best in Japan, while continuously striving to improve patient satisfaction and quality of life.

Target diseases

Esophageal cancer; gastric cancer; small intestinal cancer, including duodenal cancer; colorectal cancer (colon and rectal cancer); liver cancer; pancreatic cancer; biliary tract cancer, including bile duct and gallbladder cancer; and all other gastrointestinal malignancies. We also treat a broad range of gastrointestinal diseases, including bariatric surgery for patients with severe obesity. Breast and endocrine diseases treated include early-stage breast cancer, metastatic and recurrent breast cancer, hereditary breast and ovarian cancer syndrome (including risk-reducing surgery and genetic counseling), fibroadenoma, phyllodes tumor, and mastitis

Cardiovascular Surgery, Thoracic Surgery, Pediatric Surgery

The second department of surgery has been offering clinical services in the specialties of cardiovascular surgery, general thoracic surgery, and pediatric surgery.

Medical services

Each service is composed of following full time surgeons (board certified) ; 8(7) in cardiovascular, 8(4) in general thoracic, and 2(1) in pediatric surgery

Diagnosis and treatment policy

We prioritize evidence based, minimally invasive and safe treatment. We also strive to accommodate each patient's preferences whenever possible.

Specialties

Approximately 150 open heart cases—CABG, valve repair/replacement, aortic dissection/aneurysm. The first minimally invasive cardiac surgery (MICS) was accomplished in 2025. We focus on minimally invasive surgeries using thoracoscopic techniques and the da Vinci surgical robot for lung. Laparoscopic surgery has been proactively performed in practice for pediatric diseases.

Target diseases

Coronary artery disease, valvular heart disease, thoracic aortic aneurysm/dissection, congenital heart disease, peripheral arterial disease, abdominal aortic aneurysm, malignant and benign tumors of the lung and mediastinum, pneumothorax, empyema, pediatric disease in gastrointestinal, colorectal, oncological, and thoracic region.

Orthopaedic Surgery

At our Orthopedic Department, we care for people with a wide range of injuries and conditions that affect the body' s bones, joints, muscles, ligaments, and nerves. We offer non-surgical treatments, surgical procedures, and personalized rehabilitation to help each patient return to daily life as comfortably and safely as possible.

Medical services

We provide inpatient and surgical care primarily through our specialized teams in spine surgery, joint surgery, musculoskeletal oncology, foot and ankle surgery, hand surgery, musculoskeletal trauma, and rheumatology. In the outpatient setting, we offer care across a wide range of fields, including pediatric orthopaedics, and support patients in receiving appropriate treatmentt.

Diagnosis and treatment policy

Surgical treatment is often the last choice, and a treatment plan is decided after discussing with the patient the risks and benefits of appropriate conservative treatment (medication, external fixation, and rehabilitation).

Specialties

Specialists in each field provide state-of-the-art treatment for musculoskeletal disorders, including intractable diseases, with careful attention to medical safety. They are also actively engaged in patient care and the education of young physicians. Board-certified specialists and senior physicians take the lead in presenting at academic conferences and publishing research papers, striving to keep pace with national standards of care and to further enhance the clinical achievements of the entire department.

Target diseases

- **Spine:** We treat conditions such as herniated discs (in the neck, mid-back, or lower back), spinal canal stenosis, tumors of the spine and spinal cord, spinal infections, spinal deformities, ligament ossification, osteoporosis-related spinal fractures, and spine problems caused by rheumatoid arthritis.
- **Joint Replacement:** We perform total joint replacement surgery for the elbow, hip, and knee. We also care for people with rheumatoid arthritis who need joint surgery.
- **Tumors:** We diagnose and treat both benign and malignant bone and soft tissue tumors that can develop in the bones, muscles, fat, or nerves. We also provide care for cancers that have spread (metastasized) to the bones or soft tissues.
- **Foot and Ankle:** We care for a range of foot and ankle problems, such as bunions, ankle arthritis, flat feet, accessory navicular syndrome, Achilles tendon ruptures, and foot fractures.
- **Injuries and Children' s Conditions:** We treat traumatic injuries and musculoskeletal conditions in children as well.

Our team of specialists works together to create the best treatment plan for each patient, combining advanced medical care with kindness and respect for every individual' s needs.

Neurosurgery

The Department of Neurosurgery provides comprehensive care, including surgical treatment, for disorders of the brain, spinal cord, peripheral nerves, and related structures such as blood vessels and bones. Our department has played a central role in neurosurgical care in Yamanashi Prefecture since its establishment in 1984.

Medical services

Specialist teams dedicated to cerebrovascular diseases, brain tumors, and spinal disorders collaborate in patient care

Diagnosis and treatment policy

As a Comprehensive Stroke and Cardiovascular Emergency Center, we provide 24-hour emergency care for patients with stroke, traumatic brain injury, and other neurosurgical emergencies, accepting referrals from neighboring hospitals and emergency medical services (EMS). We also provide safe and highly precise neurosurgical procedures using state-of-the-art technologies, including a 3-Tesla MRI scanner, a multi-axis angiography system in a hybrid operating room, neuronavigation, 4K endoscopy, and intraoperative CT.

Specialties

As a core facility of the primary stroke center, our hospital provides comprehensive 24-hour stroke management in close collaboration with the departments of neurology and cardiology. For brain tumors, from benign to malignant, we provide comprehensive care including surgery and adjuvant therapies. Spinal and epilepsy surgeries are conducted in coordination with the spine & spinal cord center and the epilepsy center. We perform over 350 surgeries annually, including microsurgery, neuroendoscopy, and endovascular treatments, ensuring advanced and highly precise procedures.

Target diseases

We treat stroke (SAH, ICH, cerebral infarction, unruptured aneurysms), brain tumors (gliomas, meningiomas, pituitary adenomas), spinal diseases (stenosis, disc herniation), pediatric neurological disorders, head trauma, and functional disorders such as trigeminal neuralgia, hemifacial spasm, and epilepsy.

Anesthesiology

We provide general anesthesia to patients requiring surgery. We strive to provide safe, high-quality anesthesia care. In addition to anesthesiologists, pain clinicians and palliative care physicians provide care outside the operating room.

Medical services

Based on the anesthesia care team, we organize various units including the perioperative outpatient clinic, the acute pain service, the pain clinic, and the palliative care team, and play a significant role in supporting various clinical practices in the university hospital.

Diagnosis and treatment policy

The pain clinic offers nerve blocks such as epidural blocks, as well as medication therapy, near-infrared therapy, xenon light therapy, and botulinum toxin therapy. We accept patients who require spinal cord stimulation (SCS), and we perform specialized nerve blocks, such as celiac plexus blocks, for refractory cancer pains.

Specialties

The department of anesthesiology manages most of the surgeries, totaling 5,000 cases annually. Our university hospital performs many complex surgical procedures, and we provide safe anesthetic care. In cooperation with obstetricians, we have begun offering epidural anesthesia for childbirth.

Target diseases

The pain clinic provides treatment for a variety of pain, including lower back pain, shingles-related neuralgia, and trigeminal neuralgia. The palliative care team provides medication to alleviate pain and suffering caused by cancer.

Obstetrics and Gynecology

The Department of Obstetrics and Gynecology supports safe pregnancy and childbirth while providing comprehensive gynecological care, from early diagnosis to specialized treatment. We offer a wide range of services, including fertility treatment, fertility preservation, and prenatal diagnosis, delivering medical care tailored to each stage of a woman' s life. Through multidisciplinary collaboration, we provide advanced, safe, and high-quality healthcare.

Medical services

Our department provides specialized outpatient services in maternal-fetal medicine, gynecologic oncology, reproductive medicine, endometriosis, ultrasound diagnosis, and women' s healthcare. As the only university hospital department of obstetrics and gynecology in the prefecture, we are committed to delivering highly specialized medical care while strengthening collaboration with regional healthcare providers.

Diagnosis and treatment policy

Our specialists across various fields work together to provide safe, high-quality medical care based on the latest scientific evidence and technologies, while supporting each patient' s individual life journey.

Specialties

We support women' s health throughout their lives, from pregnancy and childbirth to gynecological diseases, fertility treatment, adolescent care, and menopausal healthcare. Leveraging the strengths of a university hospital, we provide advanced medical care through multidisciplinary collaboration, including the management of high-risk pregnancies and complex medical conditions.

In recent years, we have also promoted preconception care, encouraging younger generations to become aware of their health from an early stage. Through this approach, we aim not only to support future safe pregnancies but also to enhance long-term quality of life (QOL), helping women live healthier and more fulfilling lives.

Target diseases

Pregnancy and childbirth, gynecologic cancers, infertility, menstrual-related disorders such as endometriosis and uterine fibroids, adolescent and menopausal disorders, and female endocrine disorders.

Department of Urology

Urology is a medical specialty that encompasses a broad range of conditions, including diseases of the kidneys and urinary tract, male reproductive disorders, and pelvic diseases in women. It provides both medical and surgical treatments to patients across all age groups, from children to the elderly, covering a wide spectrum of care.

Medical services

Beyond the management of general urological conditions, our team of dedicated experts delivers highly specialized care, including state-of-the-art robot-assisted surgeries. We strive to serve as a regional center of excellence for urological care in Yamanashi Prefecture.

Diagnosis and treatment policy

We work in close partnership with local healthcare providers to deliver a comprehensive range of treatments, selecting the most appropriate care for each individual.

Specialties

We offer a full range of robot-assisted surgical procedures in the field of urology, utilizing the most advanced surgical techniques available today. Our institution is regarded as one of the leading facilities of its kind nationwide among hospitals of comparable size. In addition to surgical interventions, we actively provide non-surgical treatments for urological malignancies, including radiation therapy and chemotherapy.

Our commitment to comprehensive urological care extends beyond cancer treatment. We provide specialized services in pediatric urology, including the management of various congenital urological disorders; female urology, addressing conditions such as urinary incontinence and pelvic organ prolapse; and renal replacement therapies and kidney transplantation for patients with renal failure. Furthermore, we offer advanced treatments for male sexual dysfunction and male infertility.

Target diseases

Urologic Cancers: Prostate cancer, bladder cancer, kidney cancer
Adrenal Tumors, Benign Prostatic Hyperplasia (BPH), Neurogenic Bladder, Urinary Incontinence, Interstitial Cystitis, Pelvic Organ Prolapse
Pediatric Urological Disorders, Chronic Kidney Failure, Sexual Dysfunction, Male Infertility

Ophthalmology

As a core ophthalmology center in Yamanashi Prefecture and surrounding areas, our department is equipped to provide advanced care for a wide range of ocular and adnexal disorders. We actively implement cutting-edge diagnostic techniques and therapeutic approaches to deliver precise and high-quality ophthalmic care. In response to the increasing number of ophthalmic patients, we also collaborate closely with regional ophthalmology clinics.

Medical services

Outpatient services are generally provided on Mondays, Wednesdays, and Fridays for new and follow-up patients. Specialized outpatient clinics are held on Tuesdays and Thursdays, with additional specialty consultations available on other days as needed. Inpatient surgical procedures are performed on Tuesdays, Thursdays, and Fridays, and same-day surgeries are conducted on Tuesdays and Thursdays.

Diagnosis and treatment policy

We strive to preserve patients' quality of life by maintaining visual function. Additionally, we provide support for patients who unfortunately experience significant visual impairment.

Specialties

We provide care for the largest number of patients with advanced ocular diseases in Yamanashi and its neighboring regions. The number of surgical procedures continues to increase each year, with approximately 500 to 600 glaucoma surgeries performed annually. We also provide daily emergency ophthalmologic services ranging from primary to advanced tertiary care.

Target diseases

We manage a broad spectrum of ophthalmic disorders. Key areas of focus include glaucoma, retinal and vitreous diseases, corneal and conjunctival disorders, neuro-ophthalmologic diseases, pediatric ophthalmology, eyelid and orbital disorders, lacrimal duct diseases, and low vision care. We also provide inpatient surgical treatments for cataracts and uveitis.

Head and Neck, Ear, Nose and Throat Surgery

We serve as a central hub in Yamanashi for advanced treatment of ENT and head and neck disorders, from malignancies to functional impairments.

Medical services

We offer specialized outpatient clinics for head and neck tumors, dizziness, hearing loss, sinusitis, and allergic rhinitis, providing team-based care using advanced equipment and techniques.

Diagnosis and treatment policy

In the treatment of head and neck cancer, we emphasize both curability and functional preservation by providing personalized care that combines minimally invasive surgery, chemoradiotherapy, and reconstructive procedures. We also address functional impairments through diagnostic evaluations, pharmacotherapy, and surgical interventions.

Specialties

We provide a full range of treatments for head and neck cancer, from radical resection to function-preserving and reconstructive surgery. Minimally invasive endoscopic surgery is used for early-stage cancers. We also perform voice restoration surgery after laryngectomy and are the only certified cochlear implant center in the prefecture, treating severe hearing loss. Sublingual immunotherapy is offered for allergic rhinitis, and cutting-edge biologics are used for severe pollinosis and eosinophilic sinusitis. We also provide expert care for neonatal hearing loss and sleep apnea.

Target diseases

Head and neck tumors, allergic rhinitis, sinusitis, hearing loss, dizziness, olfactory and gustatory disorders, voice disorders, sleep apnea, pediatric hearing loss, and infectious diseases of the pharynx and neck.

Department of Therapeutic Radiology

The department of therapeutic radiology provides high-quality cancer radiotherapy as one of the leading high-precision irradiation facilities in Japan, while also conducting cutting-edge AI-based research.

Medical services

The department operates three machines (CT LINAC, Tomotherapy, and IGBT). CyberKnife treatment is also available through affiliated centers. We also offer RI internal radiotherapy in a dedicated facility, the only one in the prefecture.

Diagnosis and treatment policy

The goal of the department is to achieve cancer cure and pain relief through radiotherapy. We are committed to providing minimally invasive, patient-centered cancer care, placing great importance on each patient's values and preferences through Shared Decision Making (SDM).

Specialties

The research of the department is widely cited globally. Especially, SBRT for lung cancer and the respiratory motion control device "Abches" have received international acclaim. The department offers state-of-the-art treatments including SBRT, breath-hold radiotherapy, IMRT/VMAT, SGRT, and IGRT. We also provide advanced brachytherapy such as IGBT and RI internal radiotherapy with high expertise.

Target diseases

Malignancies such as brain tumors, head and neck, esophageal, lung, breast, prostate, uterine, pancreatic, and kidney cancers, malignant lymphoma, and select benign diseases such as thyroid eye disease and keloids.

Department of Diagnostic Radiology

Our aim is to provide precise imaging-based diagnosis and effective and minimally invasive treatment using state-of-the-art imaging modalities.

Medical services

We conduct both clinical practice and research involving advanced imaging diagnostics using the latest CT, MRI, and nuclear medicine technologies. At our Interventional Radiology (IVR) Center, we perform minimally invasive procedures without surgical incisions, including endovascular and percutaneous treatments, guided by fluoroscopy, ultrasound, and CT.

Diagnosis and treatment policy

We strive to propose the most appropriate imaging protocols for each referral, ensure safe examination procedures, and provide prompt diagnostic imaging reports. At the IVR Center, we offer minimally invasive treatments tailored to each case, providing flexible therapeutic options.

Specialties

As a general rule, diagnostic imaging reports are issued by the next business day. We maintain a system capable of providing diagnostic imaging and IVR services even after hours, on weekends, and on holidays, allowing for a rapid response to emergency cases. We are also actively applying MR elastography, which measures organ stiffness (such as the liver), and 4D flow MRI, which visualizes blood flow within the body, in clinical practice. In 2023, we introduced a remote image interpretation system, expanding our support to affiliated hospitals and facilities overseas, thereby contributing to both local communities and international healthcare.

Target diseases

Our purpose is to provide diagnosis, treatment response assessment, and recurrence detection of malignant tumors (CT/MRI/RI), functional imaging (such as functional MRI), intra-arterial chemotherapy for malignancies, emergency hemostatic procedures, and CT-guided biopsies.

Oral and Maxillofacial Surgery

The oral cavity plays essential roles in daily life, including eating, speaking, and facial expression, all of which contribute to quality of life (QOL). Our department provides comprehensive care for a wide range of diseases affecting the oral and maxillofacial region, from accurate diagnosis and specialized treatment to rehabilitation of oral function.

Medical services

Oral health is closely linked to overall health. As the Department of Oral and Maxillofacial Surgery at a university hospital, we provide patient-centered care based on the latest scientific evidence while working closely with other medical specialties to deliver safe, high-quality treatment tailored to each patient's needs.

Diagnosis and treatment policy

We provide evidence-based diagnosis and treatment for diseases of the oral and maxillofacial region while carefully considering each patient's general health. Treatment is performed only after providing sufficient information and obtaining informed consent.

Specialties

For patients with jaw deformities, we select the most appropriate surgical procedure based on comprehensive evaluation of craniofacial morphology and occlusion. Working closely with orthodontists, we aim to achieve optimal functional and esthetic outcomes through safe, high-quality treatment.
We are also actively involved in perioperative oral management and oral care. In addition to preventing aspiration pneumonia, these efforts help reduce oral complications associated with cancer therapy and contribute to the successful completion of cancer treatment.

Target diseases

Our department provides general dental care for patients with systemic diseases or those requiring special medical management, as well as treatment for impacted wisdom teeth, oral and maxillofacial trauma, jaw cysts, oral tumors, jaw deformities, and a broad spectrum of diseases affecting the oral and maxillofacial region.

Department of Emergency and Critical Care Medicine

The Department of Emergency and Critical Care Medicine plays a central role in critical care, managing patients with the most urgent and severe conditions, including multiple organ failure. As the final safety net for emergency medical care in the region, we are committed to providing comprehensive, advanced medical care through a 24-hour emergency and critical care system.

Treatment Policy

For patients with severe infections, organ failure, and other life-threatening conditions, we employ advanced organ-support therapies, including mechanical ventilation, blood purification therapy, and extracorporeal membrane oxygenation (ECMO). Our goals are to save lives, preserve organ function, and support patients in returning to their daily lives and society. We strive to provide the best possible care based on the latest medical knowledge and evidence.

Features and Major Achievements

We continuously work to improve the quality of emergency and critical care and contribute to regional healthcare through the introduction of advanced medical technologies and collaboration with other healthcare institutions. We manage approximately 600 patients transported to our hospital by ambulance each year and serve an important role as a core medical institution in the region.

Conditions We Treat

We provide care for a wide range of acute illnesses and injuries presenting to the emergency department, as well as critically ill patients requiring intensive care. These include severe infections, sepsis, acute respiratory failure, acute kidney injury, acute liver failure, disseminated intravascular coagulation (DIC), and other life-threatening conditions requiring critical care.

Diagnostic Pathology

A pathological diagnosis includes histopathology, cytopathology, intraoperative rapid diagnosis, and autopsy. We are collaborating with the department of pathology to perform these diagnoses. We use a variety of staining techniques and genetic analysis to diagnose diseases such as tumors, inflammation, and degeneration. Pathological diagnosis is the "cornerstone" of ensuring the quality of medical care.

Medical services

Diagnostic Pathology consists of seven board-certified pathologists (including six cytopathologists) and three pathology residents.

Specialties

To ensure high-quality pathological diagnoses, two pathologists review all tissue diagnosis cases. Cytological diagnoses are screened by multiple cytotechnologists and then reviewed by a certified cytopathologist. Rare or complex cases are discussed at an in-house pathology conference, and external consultations are sought as needed. We also actively participate in multidisciplinary conferences with other departments and divisions.
During surgery, we perform rapid diagnoses to determine tumor characteristics, the presence of metastasis, and resection margin status. This provides surgeons with the necessary pathological information for decision-making.
We perform autopsies to comprehensively examine the bodies of deceased patients, in order to clarify the cause of death, determine disease progression, evaluate treatment effectiveness, and investigate cause of death. The results are reported to the attending physician through the Clinical Pathology Conference (CPC). These valuable insights are used to train physicians and medical staff and to advance medical science.

Target diseases

We diagnose a wide range of diseases, including neoplastic, inflammatory, and degenerative diseases of various organs throughout the body.

Department of Rehabilitation Medicine

When physical function declines due to illness or the physical stress of surgery, returning to daily life and society can take considerable time. We provide comprehensive, patient-centered rehabilitation medicine tailored to each individual' s condition, aiming to maintain and restore function both before and after surgical procedures.

Medical services

R Rehabilitation medicine is delivered through a multidisciplinary team approach. Our rehabilitation team comprises 2 rehabilitation physicians, 25 physical therapists, 7 occupational therapists, 3 speech-language-hearing therapists, medical social workers, and nurses.

Diagnosis and treatment policy

We strive to initiate rehabilitation the day after a referral is received. Patient information is shared through regular multidisciplinary team conferences to ensure coordinated and effective care.

Specialties

As part of our hospital redevelopment project, a new rehabilitation facility has been established, approximately three times larger than the previous one. The facility includes dedicated rooms for physical therapy, occupational therapy, speech-language-hearing therapy, cardiac rehabilitation, and hydrotherapy, offering ample space for comprehensive rehabilitation services. In the 2025 fiscal year, rehabilitation services were provided for a total of 14,774 cases of cerebrovascular disorders and brain injuries, 180 cases of spinal cord injuries, 9,461 cases of musculoskeletal disorders and injuries, 134 cases of pediatric disorders, 777 cases of neuromuscular disorders, 30 cases of amputations, 8,716 cases of internal disorders, and 12,713 cases of disuse syndrome and cancer rehabilitation.

Target diseases

Bone and joint diseases, spinal cord injuries, cerebrovascular disorders, post-myocardial infarction, post-cardiac surgery, post-gastrointestinal surgery, respiratory diseases, kidney diseases, pediatric diseases, malignant tumors, amputations, etc.

Department of Clinical Genetics

As genetic testing for the definitive diagnosis of hereditary diseases becomes increasingly widespread across various medical departments, our department not only provides clinical care to clients but also multilaterally develops genomic medicine education for citizens and healthcare professionals, clinical research on hereditary diseases, and molecular biological research.

Medical services

Clinical geneticists from diverse specialties and certified genetic counselors practice multidisciplinary team medicine. Furthermore, as core members of the Cancer Genomic Profiling (CGP) and Expert Panel, we provide definitive diagnoses of hereditary tumors and surveillance information, as well as conduct genetic counseling for unaffected relatives.

Diagnosis and treatment policy

As the core department of the Center for Medical Genetics, we provide genetic counseling that offers accurate medical genetic information combined with comprehensive psychological and social support, thereby supporting our clients' informed decision-making.

Specialties

In cooperation with clinical geneticists from various specialties such as pediatrics, obstetrics and gynecology, and surgery, we provide a wide range of genomic medicine alongside certified genetic counselors who also hold licenses as clinical laboratory technicians or midwives. The department chair is one of the few physicians dually board-certified in psychiatry and clinical genetics; they provide medical care for psychiatric symptoms during the transition to adulthood in patients with chromosomal disorders and respond to consultations from across the country. Furthermore, in collaboration with the Japan Society of Human Genetics and the Japanese Society of Psychiatry and Neurology, the chair advocates for the establishment of "palliative care in genetic medicine" to alleviate holistic suffering.

Target diseases

Congenital disorders such as chromosomal and genetic conditions, Transitional care for adolescents and young adults with genetic conditions (e.g., Down syndrome, 22q11.2DS), Adult-onset genetic diseases, Hereditary cancer syndromes, Preimplantation and prenatal genetic testing, Genetic counseling for next-generation concerns related to hereditary disorders

10 中央診療部門等 Central Clinical Facilities

検査部……32
手術部……33
放射線技術部……33
材料部……33
輸血細胞治療部……34
救急部……34
集中治療部……34
新生児集中治療部……35
病理部……35
分娩部……35
リハビリテーション部……36
血液浄化療法部……36
光学医療診療部……36
総合診療部……37
臨床研究連携推進部……37
臨床工学部……37
医療チームセンター……38
生殖医療センター……38
肝疾患センター……38
口腔インプラント治療センター……39
遺伝子疾患診療センター……39
脳卒中・循環器救急センター……39
リウマチ膠原病センター……40
アレルギーセンター……40
ＩＶＲセンター……40
てんかんセンター……41
産前産後ウェルビーイングセンター……41
脊椎脊髄センター……41
がんセンター……42
初期救急医療センター……42
子宮内膜症ケアセンター……42
病院経営管理部……43
栄養管理部……43
医療情報部……43
医療の質・安全管理部……44
感染制御部……44
薬剤部……44
看護部……45
総合支援部……45
臨床教育部……45・46
山梨県地域医療支援センター……46
東部地域医療教育センター……47
働き方改革センター……47
病床管理センター……47
総合相談・支援センター……48

Department of Clinical Laboratory……48
Surgical Center……48
Department of Radiological Technology……48
Supply Center……49
Division of Transfusion Medicine and Cell Therapy……49
Department of Emergency Medicine……49
Department of Intensive Care Medicine……49
Neonatal Intensive Care Unit/Growing Care Unit……50
Department of Pathology……50
Labor and Delivery Unit……50
Division of Rehabilitation……50
Blood Purification Center……51
Department of Endoscopy……51
Department of General Medicine……51
Clinical Trial Management Office(CTMO)……51
Department of Clinical Engineering……52
Center of Medical Teams……52
Reproduction Center……52
Liver Disease Center……52
Oral Implant Treatment Center……53
Center for Clinical Genetics……53
Stroke and Cardiovascular Emergency Center……53
Center for Clinical Immunology and Rheumatology……53
Allergy Center……54
IVR(Interventional Radiology) Center……54
Epilepsy Center……54
Wellbeing Center for Perinatal Mental Health……54
Center for spine and spinal cord……55
Cancer Center……55
Primary Emergency Medical Center……55
Endometriosis Care Center……55
Department of Hospital Administration……56
Nutritional Management Department……56
Department of Medical Information……56
Department of Quality and Patient Safety……56
Department of Infection Control and Prevention……57
Department of Pharmacy……57
Department of Nursing……57
The Department of Comprehensive Support……57
Department of Clinical Education……58
Yamanashi Community Medicine Support Center……58
Yamanashi Eastern Regional Medical Education Center……59
Work Style Reform Center……59
Bed Control Center……59
Consultation and Support Center……59

検査部

患者様が最適な医療を受けられるように信頼性の高い臨床検査サービスを提供しています。組織は臨床化学検査、免疫血清検査、血液検査、微生物検査、遺伝子検査、生理機能検査、輸血検査、採血の部門で構成されます。

部門長（センター長）からのメッセージ

検査部は「ISO 15189：2022」（臨床検査室の国際規格）認定を受けた、質の保証された検査室です。これからも、常に前進する検査のプロフェッショナル集団として、当院の高度医療を支えてまいります。

体制と運用方針

「ISO 15189：2022」に基づいた検査体制を構築しています。研究や、教育（検査技師実習生、医学科学部生、臨床検査専攻医）にも力を入れています。

業務内容

臨床化学検査、免疫血清検査、血液検査は、診察時に当日の検査結果を提供できる迅速検査システムを構築し、50項目程の検査を受付後　30～60分で報告します。生理機能検査部門は、心電図、呼吸機能、脳波検査、超音波検査を中心に質の高い検査を提供、臨床側より高い評価を受けています。各検査分野のスペシャリストの育成を推進した結果、認定資格取得技師も増加しました。

特色と主な実績

山梨県の臨床検査のトップランナーとして医療に貢献しています。またCOVID-19流行初期の2020年2月には、全検査部を挙げて院内PCR検査体制を整え、院内感染防止に貢献しました。さらに当院の研究を支援するため、残余検体使用システムを2024年より、中央採血室での研究用採血システムを2025年より稼働しました。


臨床検査室
認定証
認定番号 RML00730
JAB
IAC-MRA
認定機関：国立大学法人 山梨大学
医学部附属病院
検査部・輸血細胞治療部・病理部
所在地：山梨県中央市下河東１１１０
貴機関は本認定の下記の基準に適合していることが認められましたので、ここに臨床検査室として認定します。
適用基準：ISO 15189：2022（異動対応版）
認定範囲：別属書による。
事業所：別属書による。
有効期限：2029年6月30日
改定日　2024年12月13日
更新日　2025年7月1日
初回認定日　2013年6月27日
公益財団法人
日本適合性認定協会
理事長
三木幸信
登録番号：RML00730-20250213

手術部

山梨大学医学部附属病院手術室は、山梨県内唯一の特定機能病院の手術室であり高度先進医療の提供を担っています。中央手術部門と外来手術部門を含め、計14室を備え、年間約7,500件の手術を実施しています。

部門長（センター長）からのメッセージ

令和7年4月から手術部の部門長を務める中島博之です。患者さんの緊張が少しでも和らぐよう、また最先端の高度な手術を安全に患者さんにお届けできるよう環境を整備しています。執刀医、麻酔科医、看護師をはじめとしたコメディカルスタッフが密接な連携を取り、患者さんが安心して手術を受けて頂けるよう今後も手術部一丸となって努力して参ります。

体制と運用方針

医師、手術部看護師、薬剤師、放射線技師、臨床工学技士らが多職種協働体制のもとチーム医療を展開し、24時間・365日対応で緊急手術を受け入れています。

手術枠や日程の最適化、器材準備や環境整備を実施し、手術待機期間の短縮を目指しています。また、高難度手術に対応可能な設備と体制の整備・拡充を行っています。

業務内容

山梨大学病院手術部は、最新設備とチーム医療による安全かつ高度な手術医療を提供しています。各診療科、麻酔科、手術室看護師が周術期管理を行い、術前にリスク評価や患者情報の共有を実施、多職種による患者管理を行います。

また、材料管理部門および放射線部と連携し、機器の準備や消毒・術中検査を円滑に行い、安全な手術実施を支えています。

特色と主な実績

低侵襲・高難度手術を推進しており、胸腔鏡・腹腔鏡・ロボット支援手術を積極的に実施しています。血管造影室を併設したハイブリッド手術室を完備し、手術支援システムとして、da Vinciシステム3台、ナビゲーションシステムで手術支援を行うことができます。さらには、脳神経外科領域においては、移動式磁気共鳴画像診断装置（MRI）を用いた術中MRI撮像での手術支援を行うことができます。



放射線技術部

放射線技術部は、画像診断部門（一般撮影、CT検査、MRI検査、核医学検査、手術室、内視鏡検査）、IVRセンター（血管撮影、IVR）放射線治療部門（放射線治療、核医学治療）、放射線管理部門により組織され、放射線診療・治療の中枢を担っています。

部門長（センター長）からのメッセージ

山梨県下における高度医療の中核として、質の高い画像情報の提供と精度の高い放射線診療と治療の提供、適正な被ばく線量管理を行い、患者さんに安全・安心な医療を提供するとともに技術向上、人材育成に取り組んでまいります。

体制と運用方針

放射線診断部、放射線治療部、放射線技術部が一体となり医師、診療放射線技師、看護師、臨床工学技士、医学物理士、事務職員など多職種が連携しながら安全で最適な医療を提供しています。

業務内容

放射線診断部門ではAI技術を搭載したCT装置、3テスラMRI装置、昨年度導入した最新式のIVR-CT装置等による画像検査やカテーテル治療を実施しています。また、放射線治療部門では、強度変調放射線治療（IMRT）などの高精度放射線治療および核医学治療、放射線管理部門では患者さんの被ばく線量の記録と管理を行っています。

特色と主な実績

年間約136,000件（2025年度）の画像検査・IVR・放射線治療をマンモグラフィ、CT、MR、血管撮影・IVR、核医学、放射線治療などの専門資格を有した技師を中心に行っています。



材料部

材料部は、院内で使用される医療器材の洗浄・滅菌・保管を一元管理する専門部門です。安全かつ確実な器材供給を通じて、診療現場を支えています。

部門長（センター長）からのメッセージ

私たちは「安心・安全な医療の提供」を使命とし、洗浄・滅菌の専門部署として確かな技術と品質保証で診療現場を支えています。

体制と運用方針

高温・低温滅菌器を適切に使い分け、器材の特性に応じた洗浄・滅菌を実施しています。自動倉庫設備を活用し、効率的な運用体制を構築しています。

業務内容

材料部では、高圧蒸気・プラズマ・ホルマリンガス滅菌器を用いた滅菌業務に加え、ウォッシャーディスインフェクターや減圧沸騰式洗浄器、超音波洗浄器などによる器材洗浄を行っています。洗浄の質は日本医療機器学会のガイドラインに基づき評価され、常に高水準を維持。さらに、自動立体倉庫や回転型収納庫を活用し、手術器材等の保管・供給を効率化しています。

特色と主な実績

洗浄・滅菌の専門部署として、診療科や手術室と密に連携して質の高い器材管理を実現し、ガイドライン準拠の洗浄評価により確かな安全性を保証しています。



輸血細胞治療部

輸血細胞治療部では、安全で適正な輸血医療の実践、迅速かつ適切な輸血検査の提供、適切な細胞採取を行うことで、診療科支援、ひいては患者支援をしております。

部門長（センター長）からのメッセージ

当輸血細胞治療部は、適切な輸血医療の証であるI&A 認証と、臨床検査室の品質と能力に関する国際規格であるISO 15189:2022 (免疫血液学検査・輸血関連) 認定を取得しています。これからも当院の高度医療を支える、安全で適切な輸血医療、輸血検査、細胞治療を提供してまいります。

体制と運用方針

検査部と一体となって、業務を行っています。夜間・休日は、輸血担当と検査担当技師の２名体制で日当直を行い、時間外でも診療科にきめ細かいサービスを提供しています。輸血責任医師１名が所属し、輸血管理料Ⅰを取得しています。

業務内容

輸血検査、輸血用血液の管理、自己血輸血採取・管理、末梢血幹細胞採取、骨髄液の赤血球除去などの処理を行っています。設備として、全自動輸血検査システム オーソビジョン®、末梢血幹細胞採取装置 テルモ社のSpectra Optia®, 先端医療として細胞治療や再生医療に用いる細胞を調整する細胞プロセッシング室が設置されています。

特色と主な実績

山梨県の輸血細胞治療のトップランナーとして、医療に貢献しています。血液悪性腫瘍の新規治療として脚光を浴びているCAR-T療法が当院に導入され、当部で同療法用の細胞採取と、製剤管理を行っています。





救急部

救急部は救急初療室（ER）を統括し、三次救急から地域の二次救急まで幅広く対応しています。重症患者に対して包括的かつ高度な医療を提供することを使命とし、24時間体制の診療体制を整えています。

部門長（センター長）からのメッセージ

救急診療の入口として、多様な症状に迅速かつ的確に対応しています。現場の最前線で患者と向き合い、絶えず進化する医療に適応しながら最善の医療を提供します。

体制と運用方針

診療科横断的なチーム制を取り、各分野の専門医と協力して診療にあたります。チーム医療の強化と教育の充実に努め、スタッフ全員が迅速かつ的確な対応を実施できるよう取り組んでいます。

業務内容

心肺停止や敗血症、多発外傷などの緊急症状に対し、ERでの初期治療を提供しています。災害対応も強化しています。また、診療に必要な医療資源の調整や、急性期から回復期への移行支援など、多面的な役割を担っています。

特色と主な実績

年間感染症対応室や専門診療設備を備え、トリアージ棟の整備により災害時の対応力を強化しました。最新技術の導入や多施設との連携を通じて、診療の質向上と地域医療への貢献を目指しています。

集中治療部

専従医と看護師が24時間体制で重症患者に対応している県下唯一の集中治療室（ICU）です。重症患者に対して包括的かつ高度な医療を提供することを使命とし、24時間体制の診療体制を整えています。

部門長（センター長）からのメッセージ

最重症例の診療支援に尽力し、命を救う医療の提供を使命としています。現場の最前線で患者と向き合い、絶えず進化する医療に適応しながら最善の医療を提供します。

体制と運用方針

ICU専任医師、専門看護師、薬剤師を含む多職種で、重症例を包括的に管理します。チーム医療の強化と教育の充実に努め、スタッフ全員が迅速かつ的確な対応を実施できるよう取り組んでいます。

業務内容

ECMOやCRRTなどの高度医療技術を駆使し、院内外からの重症患者を24時間体制で受け入れ治療しています。また、診療に必要な医療資源の調整や、急性期から回復期への移行支援など、多面的な役割を担っています。

特色と主な実績

年間およそ800名の新規入室を受け入れると同時に、大学病院として多くの臨床・基礎研究を展開し、救命率向上に寄与しています。最新技術の導入や多施設との連携を通じて、診療の質向上と地域医療への貢献を目指しています。



新生児集中治療部

本院は2011年4月に地域周産期母子医療センターとして新生児集中治療部（NICU）を設置し、新生児の診療をスタートしました。山梨県立中央病院をはじめとする山梨県内の周産期施設とともに、県内の新生児に高度な医療を提供しています。

部門長（センター長）からのメッセージ

すべての新生児が安心して治療を受け、家庭に戻れるよう、地域と連携した質の高い医療と支援体制の提供を目指しています。

体制と運用方針

当院はNICUとGCUを併設しており、小児外科や心臓血管外科などの他科や多職種とも連携して、急性期から成長支援期まで一貫した医療を提供しています。地域連携と在宅支援を重視した運用を行っています。

業務内容

在胎32週以降の早産児、低出生体重児、新生児特有の疾患（呼吸障害、感染症、黄疸、小児外科疾患など）を対象として、高度な集中治療を行っています。また、当施設は新生児の先天性心疾患や腫瘍性疾患にも対応可能な県内で唯一の医療機関であり、他院からの搬送にも対応しています。GCUでは安定期以降の成育支援や在宅ケアへの移行を支援しています。

特色と主な実績

当センターでは、小児外科や心臓血管外科部門とも協力して、新生児疾患の治療に注力しています。また、退院後の患者さまを対象とした在宅支援体制の構築を勧めています。私達の目標は、地域に根差した新生児医療ケアシステムの確立です。



病理部

病理部は、病理診断に必要な組織・細胞標本の作製と管理、病理診断業務を行っています。また、病理標本を使用する治験、臨床研究に対する支援業務を行っています。

部門長（センター長）からのメッセージ

病理部スタッフは一丸となって、信頼性の高い病理診断を患者さん、診療科の医師に提供していきます。

体制と運用方針

病理部は、病理医２名、臨床検査技師９名（うち細胞検査士７名）、医療クラーク２名、で構成されており、病理診断科に所属する病理医と協働して病理部業務を運用しています。

業務内容

組織診検査：患者さんから採取された組織を用いてプレパラート標本を作成します。必要時に特殊染色や免疫染色を追加します。

細胞診検査：患者さんから採取された細胞をスライドに塗抹、染色し、がん細胞の有無などを判定します。

迅速検査：手術中や検査中に迅速診断（組織診、細胞診）を行います。

病理解剖：亡くなられた患者さんの死因や病態、治療の効果などを明らかにするため、ご遺族の承諾の元に行います。

特色と主な実績

・バーチャルスライドシステムの導入により、電子カルテから病理標本が観察可能になりました（対象は順次拡大中）。
・気管支鏡検査や内視鏡検査中に実施する迅速細胞診の体制を強化しています。
・がんゲノム医療や分子遺伝学的検査に対応した高品質な検体作成に対応しています。またがんゲノムコーディネーターとして、患者さんにがんゲノム医療の説明を行っています。



分娩部

分娩部は、妊産婦の方の妊娠、分娩および産褥期に携わり、さらに胎児の診断、管理および出生児のケアをすることが主な業務です。病棟は4階北病棟を担当し、業務の特殊性からほぼ単科で病棟運営にあたっています。

部門長（センター長）からのメッセージ

大学病院という特徴から、母体や胎児の合併症等のハイリスク妊娠に対応し、目標は「安心、安全な妊娠と分娩の管理」ではありますが、「満足度の高いお産」も目指しており、麻酔科の先生と共に無痛（和痛）分娩の導入も目指しています。

体制と運用方針

産婦人科医（産科のみならず、婦人科、生殖医療、女性医学の先生も）のほか、小児科、麻酔科の先生方、精神科の先生方、助産師や看護師の方、看護助手、薬剤師の方と協同して「ワンチーム」で業務を行っています。

業務内容

日々妊娠、分娩の管理を行っています。正常分娩もありますが、母体、胎児の緊急的に発生する様々な異常も多く、特に下記に示すような他院では管理できないような症例の対応が求められています。

特色と主な実績

当院の分娩の特徴は、精神疾患、耐糖能異常等の合併症妊娠が多く、前置胎盤、妊娠高血圧症候群等の異常妊娠、さらには先天性心疾患等の胎児異常に対応することが挙げられます。分娩数は年間600例程度で推移しています。そのほか、母体死亡の原因となりうる産科危機的出血の対応や、社会的ハイリスクである特定妊婦の対応などが挙げられます。



リハビリテーション部

リハビリテーション部は病気や怪我の治療をしながら行う急性期リハビリテーションが中心となります。出来るだけ体の機能を損なわないようにベッドに横になっている早期から部屋で身体を動かしたり、リハビリテーション室で座る・立つ・歩くなどの基本動作を練習するのが特徴です。

部門長（センター長）からのメッセージ

安全と信頼を基礎に患者本位のリハビリテーションを提供しています。

体制と運用方針

現在、理学療法士24名　作業療法士7名
言語聴覚士5名のスタッフ36名でリハビリテーションを提供しております。早期離床を心掛けリハビリテーションを行い、患者さんが早く日常生活に戻れるよう介入しております。

業務内容

機能が損なわれないように行う予防的なリハビリテーションはあらゆる診療科において必要になるため、全科的に対応しています。

特色と主な実績

5年前から心疾患術後の患者さんへ心臓リハビリテーションを開始し、対象者は年々増加しております。2023年6月から外来でも心臓リハビリテーションが始まり山梨県の心臓リハビリテーションの発展に寄与しています。リハビリテーション部では褥瘡対策チームの一員として病棟でのリハビリテーション指導を行い、呼吸療法士の認定を持つ理学療法士が呼吸理学療法の指導にも当たっています。さらに、生活習慣病予防の一貫として糖尿病の運動療法を指導しております。また当部の言語聴覚士は術中MRI検査に関わったり高次脳機能障害や嚥下障害の患者を中心にリハビリを行っております。



血液浄化療法部

血液浄化療法部は、高度先進医療を担う山梨大学医学部附属病院の部門として、患者さんに最適な血液浄化療法を安全に提供するとともに、教育研修機関として、専門的な知識と技術を兼ね備えた人材育成を行うことを基本方針としております。

部門長（センター長）からのメッセージ

日本透析医学会専門医、透析療法指導看護師、透析技術認定士など血液浄化療法のスペシャリストが連携して、安全で質の高いチーム医療を実施しています。定期的にカンファレンスを開催して、症例検討や感染対策に加えて、透析機器と透析液などの安全性評価を行っています。

体制と運用方針・業務内容

血液浄化療法部は、主に入院中の慢性腎不全患者さんに対する血液（ろ過）透析を担当していますが、各診療科の様々な治療の併用療法として、血漿交換、免疫吸着療法、LDL吸着療法、血球成分除去療法、エンドトキシン吸着療法なども行っています。また、腹膜透析やブラッドアクセス管理、腎移植後の定期診察を併設する外来で行っています。



光学医療診療部

光学医療診療部は、消化器・呼吸器領域のがんや炎症・出血性疾患を対象に、内視鏡を用いた診断・治療を行う中央診療部門です。専門医による高精度な内視鏡医療を提供しています。

部門長（センター長）からのメッセージ

私たちは山梨県の高度医療の中核であるべく、「安全・親身・高度」である内視鏡医療を信条に、地域の皆さまに安心され信頼できる医療を提供します。今後も技術と人材の育成に力を注いでまいります。

体制と運用方針

専門医・指導医が中心となり、診療・教育・研究を統合的に実施。新内視鏡室の整備により、安全かつ効率的な検査体制を確立しています。

業務内容

上部・下部消化管内視鏡検査、胆膵領域のERCPや超音波内視鏡、がんや出血性病変に対する処置内視鏡など、高度な診断・治療を日常的に実施しています。特に組織採取、止血、ポリープ切除、ステント留置といった技術を要する手技にも対応し、年間6,000件を超える検査にあたっています。

特色と主な実績

2023年度の総検査件数は6,619件、うち処置内視鏡は1,256件。新設内視鏡室を活用し、消化器がん早期発見・低侵襲治療を推進しています。



総合診療部

どの診療科を受診すればよいか分からない初診の患者さんや、複数の健康問題を抱える方の診療を専門に行います。臓器別でなく、患者さん全体を包括的に診察し、適切な診断と治療への道筋を立てる部門です。

部門長（センター長）からのメッセージ

患者さん一人ひとりの声に耳を傾け、心身両面からサポートすることを信条としています。各専門科と密に連携し、皆様に安心と納得の医療を提供できるよう、スタッフ一丸となって尽力してまいります。

体制と運用方針

経験豊富な総合診療専門医がチームで診療にあたります。診断が困難な場合は、迅速に院内の各専門科と連携しカンファレンスを実施。患者さん中心の最適な医療を効率的に提供することを運用方針としています。

業務内容

原因不明の発熱、倦怠感、体重減少など、症状が多岐にわたり診断がついていない患者さんの初期診療と診断を行います。複数の慢性疾患を持つ方の全身管理や、入院が必要な場合の各専門診療科への橋渡しも重要な業務です。また、地域のクリニックと連携し、継続的な医療の提供にも努めています。

特色と主な実績

診断困難な症例に対する的確な診断能力が当科の特色です。年間を通して多数の紹介患者さんを受け入れ、多くの患者さんの病態を解明し、適切な専門治療へと繋げてきた実績があります。



臨床研究連携推進部

臨床研究連携推進部は治験・臨床研究の支援、推進を目的として、2010年に設置されました。治験・臨床研究の円滑な実施、患者さんの人権保護、データの信頼性の確保、臨床研究の活性化を念頭に、新しい薬や医療機器を臨床の現場に届ける支援をしています。

部門長（センター長）からのメッセージ

大学の高いレベルの基礎研究や新薬を臨床応用につなげ、患者さんの福音となる治療法を現場に届けることが大学病院の役割です。当部門ではこの役割を果たすために患者さんや医師・研究者の支援を日々行っています。

体制と運用方針

治験センター、データセンター、開発戦略・研究推進室、教育広報室、利益相反管理室があり、治験・臨床研究の実施や計画立案などを推進しています。治験コーディネーター（CRC）やデータマネージャー（DM）、事務担当者が連携しながら支援を行っています。

業務内容

院内各部署と連携しながら、信頼性のある治験・臨床研究の実施を推進します。患者さんが、安心して治験や臨床研究に参加できるよう支援します。患者さん支援の中心を担っているのはCRCです。患者さんが安全に参加できるようサポートしています。
また研究者が、適正に治験や臨床研究を実施できるよう、計画立案からデータ管理、社会実装までをサポートします。

特色と主な実績

2026年6月現在で61件の企業治験を支援しています。またこれまでに医薬品や医療機器の医師主導治験の支援、特定臨床研究の実施支援を行ってきています。研究者に対する臨床研究の教育やコンサルテーションも多数行っています。



臨床工学部

臨床工学技士は医療機器の専門医療職として、医師・看護師とチームを組んで生命維持装置の操作や保守・点検を担当しています。2021年の法改正により業務範囲が拡大され、手術中の新たな機械操作、患者さんへの穿刺、薬剤投与など、患者さんへの直接的ケアを含めて責任ある業務が拡大されました。現在、血液浄化、人工呼吸器管理、体外循環、手術室支援など多様な医療現場で活躍しています。

部門長（センター長）からのメッセージ

臨床工学部では、「すべての患者さんに安心を」の理念のもと、医療機器の保守管理と安全運用を一括して行っております。生命維持管理装置からロボット手術まで幅広い医療機器を扱い、AI技術が導入された現代においても、人の眼と手による監視が不可欠です。多職種チームへの教育を通じて、24時間安全で効率的な医療機器運用を実現し、山梨の医療の中核として地域の皆様に貢献してまいります。

体制と運用方針

病院全体の医療機器の保守管理および安全な運用を一括して行い、現代の先進医療に不可欠な医療機器のスペシャリストとして、また益々増大する医療機器の安全確保と有効性の維持の担い手としてチーム医療に貢献しています。24名のスタッフが24時間体制で血液浄化、人工呼吸器、体外循環、手術室、集中治療室、血管造影室、不整脈関連、医療機器管理など8つの多様な業務をローテーションにて従事し、安心で安全な医療提供を目指しています。

業務内容

当院の臨床工学技士は、医師の指示のもとで人工透析装置や人工呼吸器、人工心肺装置などの生命維持装置を操作・保守点検する専門職です。血液浄化業務、手術室業務、集中治療室業務、医療機器管理業務など多様な業務を24時間体制で行っています。また、医療機器のデジタル化が進む中、サイバーセキュリティを考慮した医療機器の取り扱いと医療安全委員会への参画を通じて、医療の質向上と患者様の安全確保に努めています。

特色と主な実績

約3,200台の医療機器を中央化管理し、年間約7,000例の手術支援、約2,700件の血液浄化治療を実施しています。手術支援ロボット3台、人工呼吸器60台を保有し、心臓手術での人工心肺装置操作や、小児から成人まで幅広い体外循環業務を担当しています。



医療チームセンター

医療チームセンターは各診療科と別に、病院スタッフと患者・家族を対象として組織横断的にサポートする各医療チームが集約された部門です。多職種で構成されるチームで様々な疾患・病態の患者を支援、診療報酬・加算等にも対応しています。

部門長（センター長）からのメッセージ

医療チームセンターは、組織横断的に展開される診療・看護支援を通して、より質の高い医療の提供に貢献できるように日々研鑽を積んでおります。

体制と運用方針

緩和ケアチーム、褥瘡対策チーム、せん妄対策チーム、認知症ケアチーム、栄養サポートチーム、精神科リエゾンチーム、糖尿病透析予防支援チーム、排尿ケアチーム、排泄ケアチーム、呼吸ケアチーム、摂食嚥下支援チーム、術後疼痛管理チームという12チームで構成されています。

業務内容

それぞれの専門チームが組織横断的に入院・外来などの様々な場所で患者家族支援・医療スタッフ支援を行います。臨床業務と共に、病院スタッフの知識・スキルの向上のため、各種研修会や勉強会などの運営・開催も行っています。院外からの研修・見学希望も積極的に対応しています。

特色と主な実績

現代医療で重要である多職種でのチーム医療を実践する組織です。2025年度は緩和ケアチーム加算4,295件、褥瘡ハイリスクケア加算1,061件、認知症ケア加算2115件、栄養サポートチーム加算502件、術後疼痛管理チーム加算1,038件などの実績があります。



生殖医療センター

生殖医療センターは2005年11月から稼働しています。不妊症の患者さんに対し、できるだけプライバシーなどを配慮した医療を展開して参ります。そして単に妊娠を目指す、ということだけでなく、安全な妊娠、分娩、そして子育てまで繋がるような広い視点をもって、他の診療科とも連携して診療に臨んで参ります。

部門長（センター長）からのメッセージ

大学病院という性質もあり、臨床研究と関連した非常に先進的な医療を提供することが可能です。そのような治療が必要と当方で判断した場合、患者さんにお声をかけさせて頂きます。ぜひ担当医師からの説明を聞いて頂ければ幸いです。生殖医療は日々進歩していますので、山梨県内でも常に最新の技術を提供できるように注力しています。何卒よろしくお願い申し上げます。

体制と運用方針

現在、複数名の生殖医療専門医、胚培養士、外来看護師が働いています。お子さんを持ちたい、と希望するカップルに対して、少しでも早く、少しでも負担をかけないで妊娠していただくことを目指しております。そのため、我々スタッフは専門的な知識をもったチームで構成されております。

業務内容

タイミング指導や人工授精といった一般不妊治療を行っても妊娠できない場合に、体外受精、顕微授精、凍結融解胚移植などの高度生殖補助医療を行っています。また、外来での子宮内膜ポリープ切除術や、流産を繰り返している方の先進医療を含めた不育症検査、他院で複数回体外受精を行っても妊娠しない場合の先進医療を含めた着床障害の検査なども行っております。2回以上流産を繰り返した方や、2 回以上受精胚を移植しても妊娠しなかった方で希望がある方に対し、着床前遺伝学的検査も行っております。

特色と主な実績

当センターは若いがん患者さんを対象に、将来妊娠できる可能性を残す妊孕性（にんようせい）温存療法を県内で唯一行っています。また、泌尿器科と連携し、無精子症症例の顕微鏡下精巣内精子回収法により精巣内精子を凍結保存し、顕微授精を行っております。また、2025 年 4 月からお仕事や家庭の事情ですぐには結婚できない方を対象に、社会的卵子凍結も行っております。



肝疾患センター

肝疾患センターは、2008年に山梨県における肝疾患診療連携拠点病院として設置されました。国や県、専門医療機関と緊密に連携しながら、ウイルス性肝炎や肝がんの撲滅、脂肪肝の診療向上を目指し、地域への情報発信や啓発活動に精力的に取り組んでいます。

部門長（センター長）からのメッセージ

山梨県は東日本でウイルス性肝炎や肝がんの患者が最も多い地域の一つであり、当センターは拠点病院として肝疾患コーディネーターの養成も含め、先駆的な取組を通じて肝炎・肝がんの撲滅に向けた活動を行ってきました。今後も肝疾患の克服に全力で取り組んでまいります。

体制と運用方針

肝疾患センター職員（医師、看護師）を中心に、消化器内科および医療支援課と連携しながら支援体制を整え、下記に示す多岐にわたる業務に取り組んでいます。

業務内容

当センターでは、以下の4つの業務を軸に肝疾患対策を推進しています。

1)患者の受診・受療・フォローアップ支援
2)県内医療機関との連携強化と医療従事者研修の実施
3)肝疾患コーディネーターの養成とスキルアップ支援
4)市民公開講座やイベント、動画制作を通じた地域住民への啓発活動。

特色と主な実績

病院連携の強化やコーディネーター養成を推進。さらに、多職種による「なんでも相談会」や大規模な啓発イベントを開催するなど、医療体制の充実から住民への啓発まで、地域に根差した多彩な実績があります。



口腔インプラント治療センター

歯科インプラント治療は歯科口腔外科の一つの治療分野として運用をされてきました。しかし、歯科インプラント診療内容の専門性の高まりにより、高難度症例へ対応するために、平成20年9月に当センターが開設されました。

部門長（センター長）からのメッセージ

歯科インプラント治療は、欠損歯に対して機能・審美面に優れた回復ができる治療と考えています。一方で、歯科インプラント治療を行うには、歯科医師として多岐に渡る知識と技術が必要になります。スタッフ一同、より良い歯科インプラント治療を提供できるように研鑽しています。

体制と運用方針

当センターのスタッフが個々の症例をカンファレンスで検討し、歯科インプラントの埋入から上部構造装着までの一貫治療を行っています。

業務内容

歯科インプラント治療に関わる、骨造成術、埋入術、そして上部構造装着までを行っています。また、上部構造装着後も歯科衛生士をはじめとするセンターのスタッフにより継続的なメンテナンス治療により適切な口腔内環境を維持するお手伝いをしています。

特色と主な実績

顎骨の吸収、あるいは上顎臼歯部のように骨量が少ないことで、歯科インプラント治療が困難な症例があります。このような症例に対しても、骨造成法を応用することにより、歯科インプラント治療が可能となります。高度な技術や全身麻酔下で処置を要する治療もあることから、これらの治療を安全かつ確実に実施するように努めています。



遺伝子疾患診療センター

遺伝子疾患診療センターでは、相談者（クライエント）が遺伝性疾患に伴う症状や予後、あるいは血縁者への遺伝について不安や悩みを抱える際には、医学的・遺伝学的情報をわかりやすく説明し、身体機能や精神機能の障害に対する医療的支援や心理的サポート、社会資源の活用推進などを提供する「遺伝カウンセリング」を行います。

部門長（センター長）からのメッセージ

臨床遺伝専門医と認定遺伝カウンセラーが、看護師・助産師、公認心理師、社会福祉士などとチーム医療を実践しています。

体制と運用方針

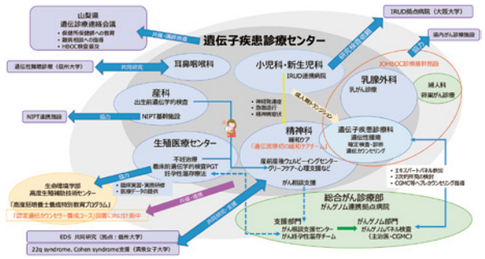
クライエントが抱える多様な苦痛に気づき、的確なアセスメントと介入を通じてQOL（生活の質）の向上を目指す、「遺伝医療における緩和ケア」の先駆的実践にも独自に取り組んでいます。

業務内容

当センターでは複数の診療領域の臨床遺伝専門医が、県内随一の高度な遺伝医療体制を構築しています。診療対象は多岐にわたり、出生時や小児期に診断される希少疾患や染色体異常に加え、成人に発症し遺伝子バリアントが同定される疾患も含まれます。さらに、がんゲノム医療連携病院における重要な役割として、がんゲノムプロファイリング検査やコンパニオン診断検査などにおいて、遺伝性腫瘍と診断された方への遺伝カウンセリングや、生殖医療において出生前（着床前）遺伝学的検査を希望する方への遺伝カウンセリングを実施しています。

特色と主な実績

難病（染色体疾患・遺伝子疾患などの先天性疾患）、成人移行期医療（ダウン症候群や22q11.2微小欠失症候群など）、成人発症疾患（ファブリ一病、アミロイドーシスなど）、遺伝性腫瘍、着床前・出生前遺伝学的検査、遺伝子疾患に関する次世代の相談



脳卒中・循環器救急センター

令和6年度より開設された脳卒中・循環器病救急センターでは、24時間365日体制で脳卒中および循環器疾患の救急対応を行っています。

部門長（センター長）からのメッセージ

高度な専門治療と多職種連携により、患者さんに最適かつ安全な医療を提供できる体制を整えています。

体制と運用方針

脳卒中・循環器病の専門医、看護師、技師などが連携し、迅速かつ的確な救急対応と継続的な支援を実施しています。

業務内容

脳卒中に対するt-PA療法や血栓回収療法、くも膜下出血等の外科・血管内治療、循環器疾患に対するPCIや補助循環、心臓血管外科手術など、幅広い救急医療を提供しています。

特色と主な実績

県内唯一の一次脳卒中センターコア施設であり、TAVIやMitraClipなどの先進治療も可能な認定施設として、厚労省モデル事業にも採択されています。



リウマチ膠原病センター

リウマチ膠原病センターは、2016年に整形外科・皮膚科・リウマチ膠原病内科の連携を強化するため設立され、関節リウマチをはじめとする膠原病に対して集学的かつ包括的な医療を提供しています。

部門長（センター長）からのメッセージ

診療科の垣根を越えた協力体制により、専門性とスピードを両立した診療の提供を実践し、患者さんに安心と信頼を届けられる医療を目指しています。整形外科・皮膚科・内科は特にリウマチ膠原病を診療する上では欠かせない診療科であり、この3科が連携しているセンターは全国でも珍しいです。

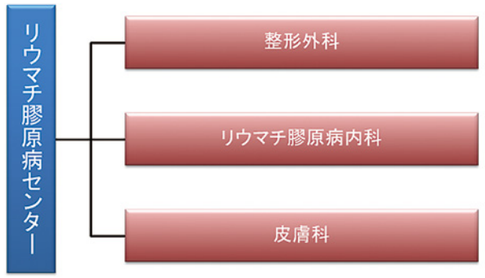
体制と運用方針

各科の強みを生かしつつ、週1回の診療カンファレンスや定期勉強会を通じて診療方針や最新知識の共有を行っております。

リウマチ膠原病は複雑な病態であることが多く、科の連携により、迅速に対応できる体制を整えています。

業務内容

関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、皮膚筋炎、血管炎など多彩なリウマチ膠原病疾患に対して、初期診断から治療、リハビリまで一貫して対応します。整形外科的手術適応の相談も必要に応じて組み込み早期の治療介入を試みます。関節エコー検査や生物学的製剤の導入など精度の高い医療を提供します。各科の連携により、診療の質とスピードを両立しています。



特色と主な実績

診断困難例や難治例への対応力に優れ、関節・皮膚・全身症状にまたがる疾患を多職種で包括的に診療します。山梨県のリウマチ膠原病医療の中核として高く評価されています。

アレルギーセンター

アレルギーセンターは、複雑化・多様化するアレルギー疾患に対し、複数診療科が連携して総合的な診療を行う専門部門です。地域や行政とも連携し啓発活動や情報提供を行っています。

部門長（センター長）からのメッセージ

私たちは、患者さん一人ひとりの多様なアレルギー疾患に丁寧に向き合い、専門性と多診療科の連携によって、より質の高い医療の提供を目指しています。

体制と運用方針

複数の診療科が横断的に連携し、気道・皮膚・食物など多岐にわたるアレルギー疾患に対応しています。地域や行政とも協力し、包括的な診療体制を構築しています。

業務内容

アレルギーセンターでは、複数の診療科が連携し、多様なアレルギー疾患に対する総合的な診療を行っています。山梨県と連携し、診療実態調査や講習会、市民公開講座なども実施しています。ホームページではQ&Aや医療機関紹介など情報提供にも努めています。さらに、アレルギー専門医の育成や学術的発展にも貢献しています。



特色と主な実績

多診療科による横断的診療体制により多様なアレルギー疾患に対応しています。山梨県と連携し、診療実態調査や講習会、市民公開講座を実施し、情報提供にも注力し、地域のアレルギー対策を推進しています。

IVR センター

IVR（Interventional Radiology）とは「画像下治療」と訳され、血管造影・超音波・CTの画像診断装置を用い低侵襲に手技を行う医療分野です。従来山梨県にIVR治療専門部署はありませんでしたが、平成30年、当院および山梨県下のIVR治療の集約化、各科・各施設との連携拠点の構築、IVR専門医の育成、山梨県下のIVR治療の向上を目的とし当院内にIVRセンターが設立されました。

部門長（センター長）からのメッセージ

IVRでは体を斬らず画像を見ながらカテーテルや穿刺針を操り治療することで体に負担なく治療ができます。現在、当センターを基点とし山梨県下の患者さんにIVR治療を提供しています。

体制と運用方針

IVR専門医4名、IVRの専攻医2名を中心に24時間体制で緊急症例を含め対応しています。患者さんの受入れは、当院の各診療科のほか、他病院からの依頼にも対応しています。

業務内容

腫瘍塞栓術（TACE等）、抗癌剤動注（頭頸部癌や膀胱癌等）、様々な出血の止血（動脈瘤破裂、喀血、術後出血、臓器損傷、消化管出血、産科出血、外傷性出血等）、末梢非破裂動脈瘤や血管奇形の塞栓術、大動脈ステントグラフト内挿術、血管形成術、腫瘍画像ガイド下生検、CVカテ・ポート留置、膿瘍ドレナージ、内分泌サンプリング、経頸静脈性肝生検、リンパ管造影、血管内異物除去など。

特色と主な実績

当センターは山梨県下唯一の低侵襲画像化治療センターです。当院や山梨県下の紹介患者さんを含め年間800件以上IVR治療を行っています。学術的には塞栓物質や門脈圧亢進症のIVRの研究を行っています。令和8年3月に新しいIVR-CT装置が稼働し始め、より精密なIVR治療を実現しています。





てんかんセンター

山梨大学医学部附属病院てんかんセンターは、2018年6月1日に山梨県唯一のてんかん支援拠点病院として開設されました。専門的かつ包括的なてんかん医療を提供し、教育活動や社会活動を通じて、地域のてんかん診療向上に貢献しています。

部門長（センター長）からのメッセージ

当センターは、てんかん患者さんとご家族が安心して生活できることを目指し、専門的な診療と包括的な支援を提供します。地域との連携を深め、山梨県のてんかん診療の質向上にも努めます。

体制と運用方針

小児科、脳神経外科、神経内科、精神科の4診療科で構成され、救急部・検査部・薬剤部などとも連携し、外来から入院まで一貫した診療体制を整えています。また、てんかん診療コーディネーターが患者さんの生活支援を行っています。

業務内容

当センターは、新生児から高齢者までのてんかん患者さんに対して、診断・治療・福祉支援を含む専門的で包括的な医療を提供しています。診療コーディネーターが相談支援や県内病院との連携を担当します。教育活動として、てんかん専門医の育成やてんかん診療コーディネーターの育成をしています。地域連携協議会を開催し、県全体のてんかんケアを強化しています。

特色と主な実績

山梨県唯一のてんかん支援拠点病院として、専門的かつ包括的なてんかん医療を提供しています。教育活動として、月１回の専門医育成のためのカンファレンスを開催しています。また、社会活動として、救急隊員向けのオンライン教材を作成や、毎年2月に開催される市民セミナーを通じて、てんかんの啓発活動を行っています。



産前産後ウェルビーイングセンター

令和3年に開設された「産後ウェルビーイングセンター」では、妊娠期から産後1週間とされる周産期より、産後1～2年を見据えた中長期的な視点で母親の心のケアを行い、産後特有の心理状態を的確に理解することで、適切な医療の提供を心がけています。

部門長（センター長）からのメッセージ

周産期メンタルヘルス医療の経験を積んだ精神科医、センター専属の公認心理師と助産師が、産科医と小児科医や社会福祉士らとチームを組み、地域保健師との連携した支援を行っています。

体制と運用方針

周産期および産褥期の母親の心理特性、育児における母親と父親の役割を共有し、支持や認知修正などの精神療法を中心に、必要な薬物療法を併用することもあります。

業務内容

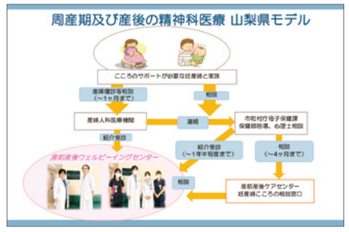
多くの母親が経験し、おおむね1ヶ月以内に軽快する「マタニティーブルーズ（MB）」、産後数ヶ月以降にも日常生活に支障を来す「産後適応障害（PAD）」や「産後うつ病（PPD）」の心理的症状を正確に診断・治療することは、適切な支援につながる重要なプロセスです。

近年では、妊娠中の不安症などの治療、流産・死産を経験した母親や遺伝性疾患などの障害をもって生まれた子どもの母親への心理支援のニーズも増加しています。これを受けて、令和5年に「産前産後ウェルビーイングセンター」と改め、より包括的なメンタルヘルスケア体制を整備しました。

当センターは、山梨県庁・市町村役所および産前産後ケアセンター「ママの里」と連携し、県内の産科・精神科医療機関との医療ネットワークおよび人材育成の教育システムの中核施設として、地域における母子のこころの健康を支える役割を担っていきます。

特色と主な実績

妊娠期不安症、月経困難症（PMS・PMDD）、マタニティーブルーズ、産後適応障害、産後うつ、遺伝性疾患罹患児の両親の心理支援、流産・死産に対するグリーフケア



脊椎脊髄センター

脊椎および脊髄に関連したさまざまな疾患に対して保存および手術、リハビリテーションを行います。

部門長（センター長）からのメッセージ

わたしたち脊椎脊髄センターは、高齢化社会の進展に伴い増加する脊椎の加齢性変化に起因するさまざまな疾患に対し、地域医療機関との密接な連携のもと、積極的に紹介患者さんを受け入れ、早期診断と個々の患者さんに最適な治療の提供を行っております。

加齢に伴う一般的な脊椎疾患に加えて、後縦靱帯骨化症や黄色靱帯骨化症などの難治性疾患、脊髄腫瘍、小児の脊柱変形といった高度な専門性を要する疾患にも積極的に取り組んでいます。

体制と運用方針

脊椎脊髄外科指導医3名、脊椎脊髄外科専門医3名、整形外科専門医5名、脳神経外科専門医1名で構成されており、整形外科と脳神経外科が一体となって診療にあたっています。毎週、合同カンファレンスを実施し、各分野の専門的な視点をもとに最適な治療方針を検討し、必要に応じて検査や手術も共同で行っております。

業務内容

手術は、高度清潔区域（バイオクリーンルーム）にて、O-armナビゲーションシステム、神経モニタリング、手術用顕微鏡や内視鏡、エコーなどの先進的な医療機器を駆使し、安全性を最優先に実施しております。術後には医師、看護師、リハビリテーションスタッフをはじめとする多職種による包括的なサポート体制のもと、早期回復を目指したリハビリテーションを行っています。

特色と主な実績

センターでは治療成績や新たな知見を国内外の学会で積極的に発表し、国際誌への論文投稿も行うなど、学術活動にも注力しております。これにより、常に最新の知識と技術を臨床に還元し、患者さんにとって最良の医療を提供し続けられるよう努めております。

今後も脊椎脊髄疾患でお困りの患者さんやご家族、そして地域社会の皆様に信頼される医療を提供できるよう、スタッフ一同研鑽を重ねてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。





がんセンター

当がんセンターは、消化器・乳腺・呼吸器などの主要がんに加え、希少がんを含むすべてのがん種に対応可能です。大学病院ならではの専門性と診療科横断的な連携を活かし、地域の皆様に世界水準の最先端がん医療を提供しています。

部門長（センター長）からのメッセージ

がん医療は日々進歩しており、私たちは常にその最前線で、患者さん一人ひとりの病状と生活に寄り添った最適な治療を目指しています。患者さんが安心して治療に専念できる環境づくりに努めています。

体制と運用方針

外科・内科・放射線科・病理・ゲノム診療など多分野の専門医が密に連携し、個別性の高い最適な治療を安全に提供できる体制を整えています。多職種によるチーム医療を推進しています。

業務内容

手術・化学療法・放射線治療を組み合わせた集学的治療を提供し、ロボット支援下手術や免疫療法などの先端医療も積極的に導入しています。がんゲノム医療にも対応し、遺伝子パネル検査を通じて個々に最適な治療選択を行います。また、がん相談支援センターや緩和ケアチームと連携し、治療中の不安にも多職種で寄り添う体制を整えています。

特色と主な実績

全がん種への対応力に加え、ロボット手術や高精度放射線治療、ゲノム医療などの先進的な技術を導入しています。がんゲノム医療連携病院としての機能も果たし、患者さんにとって最善・最良の治療を提供しています。



初期救急医療センター

初期救急医療センターは、夜間・休日における軽症救急患者の受け皿として、山梨県の公式要請を受け2024年5月に開設されました。従来、初期救急は地域の医師会を中心に運営されてきましたが、医師の高齢化や二次救急病院の過重負担により、県全体でその継続が困難になりつつありました。当センターはその解決策の一つとして、大学病院のリソースを活用し、県全域の初期救急を支える役割を果たしています。

部門長（センター長）からのメッセージ

「救急車を呼ぶほどではないが、翌日までは待てない」――そんな状況にある患者さんに寄り添い、必要な医療をタイムリーに提供することが私たちの使命です。
また当センターは、大学病院の医師や医学生にとって、地域医療の最前線を経験する貴重なフィールドでもあります。

体制と運用方針

診療は、大学病院所属の医師1名、地域医師会から派遣された院外医師1名、そして当院の研修医で構成されるチームによって行われています。
診療時間は18時から22時30分までで、内科系・外科系いずれの症状にも対応できる体制を整えており、主に自力で来院可能な患者を対象としています。必要に応じて適切な医療機関への紹介も行い、地域全体での医療連携を推進しています。

業務内容

発熱、腹痛、嘔吐、軽度の外傷や皮膚症状など、緊急性はあるが重症でない症状に対して、初期対応を行っています。
また、受診前には電話での事前連絡をお願いしており、医療資源の適正利用を促進する運用としています。

特色と主な実績

年間約1万人の患者さんの診療を行っており、地域の夜間・休日医療の基盤として定着しています。
大学病院が主導する初期救急拠点としては全国的にも稀有な存在であり、教育・研究・地域貢献を一体として担い、アカデミアの光を地域に届ける拠点を目指しています。



子宮内膜症ケアセンター

子宮内膜症は月経痛や慢性痛などにより、全身に影響を及ぼす疾患です。当センターは多診療科が連携し、包括的診療を行う専門施設です。

部門長（センター長）からのメッセージ

月経痛は人と比べることはできないため、なかなか、ご本人の状態を客観的に評価することが難しいものです。月経痛に悩む方は、子宮内膜症の可能性もぜひ一度ご相談ください。

体制と運用方針

産婦人科を中心に、消化器、泌尿器、呼吸器、麻酔科、精神科、リハビリなどが連携し、診療を行います。

業務内容

子宮内膜症に関連する各種症状に対応。診断、治療、運動療法、心理支援を組み合わせた包括的医療を提供しています。とくに月経痛のみならず、全身状態の改善を目指し睡眠、食事、運動についても外来でも相談して参ります。

特色と主な実績

2024年設立。日本初の多診療科連携型内膜症センターとして、迅速で全人的な診療体制を構築しています。



病院経営管理部

病院経営管理部は、山梨大学医学部附属病院が質の高い医療を持続的に提供できるよう、病院経営に関する分析、戦略立案、改善活動の推進を担う部門です。経営指標や診療実績、組織運営状況を多角的に分析し、経営課題や将来の環境変化を見据えた戦略を立案するとともに、その実行を支援しています。限られた人的・物的資源を有効に活用し、経営基盤の強化と医療の質向上の両立を目指しています。

部門長（センター長）からのメッセージ

病院経営管理部は、病院理念の実現に向けて、経営と医療の両面から病院運営を支える役割を担っています。大学病院には、高度医療の提供に加え、教育・研究・地域医療への貢献という重要な使命があります。私たちは、データに基づく分析と戦略立案を通じて、安定した経営基盤を構築し、患者さんに質の高い医療を継続して提供できる環境づくりに取り組んでまいります。

体制と運用方針

病院経営企画課、医事課、医療支援課などをはじめとする事務部門や診療部門と連携し、病院運営に必要な情報の収集・分析・評価を行っています。経営、人材、施設整備、医療機器、地域連携など幅広い視点から課題を把握し、中長期的な経営戦略や病院機能強化に向けた施策を企画・立案しています。また、各部門と協働しながら、戦略の実行と効果検証を行い、継続的な改善につなげています。

業務内容

・病院経営に関する企画・立案および評価
・経営指標、診療実績等の分析・改善提案
・中長期経営戦略および病院機能強化戦略の立案
・経営改善プロジェクトの企画・推進
・各種委員会およびプロジェクト活動の支援・調整
・地域医療連携や医療政策への対応支援
・病院運営に関する課題の把握と改善活動の推進。

特色と主な実績

病院経営管理部では、データに基づく経営分析と戦略立案を基盤として、病院経営の改善と医療の質向上に取り組んでいます。診療報酬改定への対応、病院機能強化に向けた施策の推進、経営指標の可視化、経営改善活動の支援、地域医療連携の強化などを通じて、持続可能な病院運営を支援しています。また、大学病院として求められる高度医療、教育、研究機能を支える経営基盤の強化に取り組み、地域医療の発展に貢献しています。

栄養管理部

栄養管理部では「安全で信頼される給食」を理念に掲げ、患者さん一人ひとりを大切に思い、喜びや感動を与えるとともに迅速に対応するように心がけています。

部門長（センター長）からのメッセージ

栄養管理部では、医療栄養業務、入院患者さんの給食業務および院内外の栄養教育の支援を行っています。ご入院中も食事に喜びを感じて頂けるよう、旬の食材を積極的に取り入れた季節感のある食事の提供など、「食の安全・安心」と「食の楽しみ」の両立を目指しています。

体制と運用方針

主に給食管理業務と臨床栄養業務に分かれています。給食管理業務は開院以来、直営（一部委託）であり、栄養管理・栄養指導・チーム医療などの臨床栄養業務を行っています。管理栄養士18名、栄養士2名、調理師24名、委託調理師６名、委託調理員16名、事務2名、総勢68名で業務を行っています。

業務内容

食事は治療の一環のため、個々の病態に応じた食事内容とともに安全・安心、美味しく、また楽しみとなる食事提供に努めています。
また、医師・看護師・管理栄養士による栄養スクリーニングを全入院患者さんに行い、病状や栄養摂取状況に応じた栄養ケア計画を実施しています。
栄養食事指導は、医師の指示のもと、患者さんのライフスタイルに合わせた食生活改善の提案、実現に向けた取り組みを一緒に考えます。

特色と主な実績

令和7年度実績
患者給食延べ食数　440,889食
特別治療食　83,764食
個別栄養指導件数　1,740件
入院時栄養管理体制加算　7,702件



医療情報部

電子カルテや病院内ネットワーク管理を通じて、医療の効率化と安全性を支えています。患者に対して包括的かつ高度な医療を提供することを使命とし、トラブルへの24時間体制のサポート体制を整えています。

部門長（センター長）からのメッセージ

見えない部分から医療現場を支え、安心・安全な環境を構築しています。現場の最前線で患者と向き合い、絶えず進化するデジタル技術やセキュリティガイドラインに適応しながら最善の医療を提供します。

体制と運用方針

ITインフラを継続的に改善し、セキュアな通信とデータ保護体制を強化しています。チーム医療の強化と教育の充実に努め、スタッフ全員が迅速かつ的確な対応を実施できるよう取り組んでいます。

業務内容

電子カルテ保守、ネットワーク管理、スマートフォン端末導入などを行い、医療従事者の業務支援と医療安全に貢献しています。また、医師の働き方改革を支援するため、遠隔診療を実現するための高度なセキュリティ対策を実施しています。

特色と主な実績

高機能なスマートフォンへの移行を進めるなど、最新技術で院内DXを推進しています。最新技術の導入や適宜実施しているセキュリティ講習などを通じて、診療の質向上と地域医療への貢献を目指しています。



医療の質・安全管理部

医療の質・安全管理部は、安全管理室として2001年度に設置され、2016年に「医療の質」を追加し、病院理念の実現と特定機能病院における高度な医療安全管理体制の確立に向けて、安全文化の醸成する各種活動に取り組んでいます。

部門長（センター長）からのメッセージ

山梨県唯一の特定機能病院として、高度な医療安全管理体制の確立に向けて、医師、看護師、薬剤師などの多職種で連携し、「病院全体がひとつのチーム」として患者中心の医療が実現できるよう日々、取り組んでいます。

体制と運用方針

副病院長の医療安全管理責任者、及び安全管理委員会の下、医師、看護師、薬剤師の専従医療安全管理者（GRM）が部門に配置され、5つの委員会、3つの担当部門と各部署のリスクマネジャーの会議を設け活動しています。

業務内容

病院全体の医療の質、及び安全の課題である「高度な医療安全管理体制」「医療事故等の対応、防止策の立案と実施」「医療安全に関する教育・研修の企画と実施」「医療安全に関する院内各部門間の連絡、調整」「医療の質向上のためのモニタリング」について、院内外の多職種チーム、及び患者さん、ご家族と共に取り組んでいます。

特色と主な実績

当院では、独自開発のインシデント報告システムを用いており、令和7年度は5,736件の報告を元に、調査、分析、対策立案と実施評価を行い、安全重点目標である「安全と効率の両立」の実現に向けた取り組みを実施しました。



感染制御部

感染症対策（ICT活動）や抗菌薬適正使用支援（AST活動）の専門部門として、2017年4月1日に設置されました。医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師、事務職員など多職種から成るチームで活動しています。

部門長（センター長）からのメッセージ

現場の視点を重視した持続可能な感染症対策と、効果的かつ薬剤耐性問題の改善につながる抗菌薬適正使用支援を柱としています。電話相談も可能ですのでご活用下さい。

体制と運用方針

ICT活動は感染管理認定看護師3名を中心に、日々の対応に加え院内ラウンドを行い質の維持向上を図っています。AST活動は抗菌化学療法認定薬剤師を中心に、感染症専門医を含む医師3名と看護師、臨床検査技師で担当しています。

業務内容

ICT活動では職員への感染対策研修と実践指導、感染症モニタリングとサーベイランス、感染症発生時は拡大防止策の支援、院内感染対策マニュアルの整備と更新に加え他院からの相談や新興感染症対応など地域医療にも貢献します。AST業務では抗菌薬使用状況の監査に加え症例の治療相談にも対応し抗菌薬治療の適正化を支援します。

特色と主な実績

各職種が各々強みを発揮しながらチームで活動しています。当部門は山梨県感染症対策センター（YCDC）の運営に関与し山梨県の感染症対策にも貢献しています。



薬剤部

薬剤部では高度医療に対応し、患者個々に最適な薬物療法を提供するため、高い専門性も持って業務にあたっています。また、緩和ケア、褥瘡ケア、感染対策、NSTなどの医療チームに他職種と連携して積極的に参画しています。

部門長（センター長）からのメッセージ

医学が進歩し、革新的な新薬が次々に登場する中で、薬物療法における薬剤師の関与が極めて重要となっています。私たちは、知識と技術の研鑽を続けるとともに、コミュニケーションを大切にし、信頼される薬剤部を目指します。

体制と運用方針

先進医療を担う病院の一員として、以下を基本方針としています。

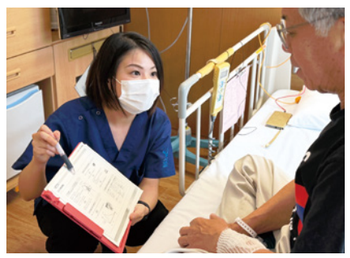
1. 患者個々の想いを尊重し最善の薬物療法を提供する
2. 高い倫理観と薬学的基盤をもって医薬品の適正使用を支える
3. 献身的に医療に貢献できる誠実な病院薬剤師を育成する
4. 臨床上の課題に向き合いその解決と科学的根拠を創出する

業務内容

【薬務室】需要予測に基づく適切な在庫管理【調剤室】薬学的管理に基づく的確な処方鑑査・疑義照会、適切な調剤、1施用毎の注射薬払い出し【DI室】医薬品情報の収集、的確な情報提供、適応外使用／未承認医薬品に関する薬学的管理業務【製剤室】医療倫理を踏まえた院内製剤の調製と提供【病棟】多職種と協働した薬学的介入、的確な処方提案、個々の患者に合わせた服薬指導【TDM・試験室】薬物動態学に基づく薬物血中濃度解析と処方設計【抗がん剤調製室】レジメン管理、副作用モニタリングなど安全な化学療法の支援

特色と主な実績

プリセプター制を一部導入した2年制新人教育プログラム、部内勉強会や症例検討会の定期開催、学会発表や論文投稿への積極的な取り組みなど、スタッフ全員が常に学び続ける姿勢を大切にしています。



看護部

看護部は「患者さん一人ひとりの健康問題を解決するために、患者さんと共に考え看護を提供します」を理念に、入院から在宅支援まで多職種と連携し、各部門で専門的な看護を提供しています。

部門長（センター長）からのメッセージ

看護部は、多様な分野での看護活動を通じて、専門性を発揮できる環境づくりに努めています。また、職員が生涯健康に働き続けられる職場を提供するため、ヘルシーワークプレイスの実現を目指し、「職場の心理的安全性」を高める取り組みを強化しています。

体制と運用方針

看護職は、病棟や外来に加え各検査・治療部門、手術部門、総合支援部門、医療チームセンター、初期救急医療センター等様々な部署で、患者の入院前から退院・在宅支援までの一連の治療経過において、医師やコメディカルと協働しながら看護を提供しています。

業務内容

看護部では、専門看護師・認定看護師が活躍する医療チーム活動（栄養サポート、呼吸ケア、緩和ケアなど）に加え、看護師主体の排尿自立外来や移植後長期フォローアップ外来、助産師による助産師外来・院内助産など、専門性を活かした業務を展開しています。特定看護師の育成にも注力し、タイムリーなケアの提供体制を整えています。

特色と主な実績

看護職として学び続け、看護の質向上とチーム医療に貢献できる看護職の育成を目指し、適正に評価し能力の向上を図るキャリア開発ラダーシステムを導入しています。また、委員会等を組織化し、病院および看護部の目標達成に向けて協力しながら取り組んでいます。



総合支援部

総合支援部は、虐待対策センター、地域医療連携センター、業務支援センターで構成されています。受診・入院・退院・転院・在宅療養 に関する相談支援、地域医療機関との連携、虐待の早期発見と対応、外来業務の改善などを通じて、安心で利用しやすい医療環境づくりを担っています。

部門長（センター長）からのメッセージ

総合支援部は、患者さんとご家族が安心して診療に臨み、入院治療から退院後の生活まで円滑に移行できるよう支援する部門です。院内各部署および地域の医療・福祉機関と連携し、切れ目のない支援体制を整えることで、地域全体で患者さんを支える医療の実現に努めています。

体制と運用方針

医師、看護師、医療ソーシャルワーカー、事務職員など多職種が連携し、外来受診の段階から患者情報を共有して支援を開始します。入院前から退院後までの流れを見据え、地域の医療・介護・福祉機関とも協働し、患者さん一人ひとりの状況に応じた継続的な支援を行います。

業務内容

【虐待対策センター】
児童虐待、配偶者暴力、高齢者・障害者虐待、業務従事者による精神障害者に対する虐待について検討と対策
【地域医療連携センター】
周術期外来：安全に手術を行うための麻酔科医による診察など
入退院支援：多職種による患者支援
地域連携（前方支援）：診療予約、受診・退院報告書 にかかわる業務
地域連携（後方支援）：地域医療連携協定推進など
【業務支援センター】
診断書支援：診断書作成にかかわる業務
外来支援：外来診療での様々な問題への検討と対策

特色と主な実績

紹介・逆紹介の推進、入退院支援、転院調整、在宅療養への橋渡しに加え、虐待が疑われる事例への早期対応、外来待ち時間対策、診断書発行業務の効率化に取り組んでいます。患者サービスの向上と安全で円滑な診療運営を支える部門として、病院全体の機能向上に貢献しています。



臨床教育部

臨床実習センター

センターの特色

臨床実習センターは、医学科・看護学科の学生および学外からの医療系実習生の臨床実習・臨地実習を統括しています。当センターは医療系大学間共用試験に合格し、公的な資格「臨床実習生（医学）」を有する医学生が指導医のもとで医療スタッフとして参加する「診療参加型実習」を行っています。また附属病院のシミュレーションセンターを活用して実習生が様々な基本的手技を学ぶ機会も提供しています。当センターの運営委員会は、臨床系講座の教育医長、看護学科の実習委員長、附属病院看護部の教育担当者などで構成されており、医学教育の変化や社会の要請に対応して随時実習プログラムの改善を行っています。本学で学ぶ医学科、看護学科の学生は当センターが統括するこれらの実習を通して医療や患者ケアに必要なスキルを身につけ、卒後は社会の多様なニーズに対応できる「プロフェッショナル」として各分野で活躍しています。

臨床研修センター

センターの特色

臨床研修センターは初期臨床研修において研修医の自主性を尊重した研修カリキュラムを提供しています。研修のフィールドを広く学外に広げ、山梨県内外の中核病院と大きなアライアンス（連携病院群）を形成し、その中で自由に研修できる体制を提供しています。卒前教育から初期臨床研修、そして専門研修へと繋がるシームレスな教育プログラムにより、自立した専門医の育成を行います。また大学院に進学しながら初期研修も履修できる「研究医育成プログラム」により、世界に通用する研究医の育成を目指しています。今後予想されるさまざまな医療ニーズに応えられる人材を育成することにより、地域医療と国際医療に貢献できる医師を山梨から育てることを目指しています。

臨床教育部

専門医キャリア支援センター

センターの特色

専門医キャリア支援センターでは、臨床研修医や専攻医を対象として、専門医制度に関する情報提供や若手医師の個別相談にも対応しており、各々の先生方のライフスタイルや将来のビジョンに応じたキャリア形成のお手伝いをさせていただいております。近年、新専門医制度の導入や医師の働き方改革に加え、ゲノム医療やロボット手術に代表される医療技術の急速な進歩に伴い、各診療領域が高度に専門化してまいりました。また、新専門医制度では、基本領域についてはある程度整理されたものの、サブスペシャルティ領域については今後の更なる整理も求められており、若手医師のキャリア形成へのロードマップを作成することが困難となっております。卒後３年目以降は、若手医師のスキルアップにも大変重要な時期であり、当センターでは、山梨県地域医療支援センターとも協力しながら、専門医制度の新たな情報や、当院の各診療科や山梨県内外の基幹病院や連携病院の情報、また、県が支援する様々なサポートについての情報等も提供してまいります。

シミュレーションセンター

センターの特色

未来の医療を育てる、地域医療人材育成のハブ

シミュレーションセンターは、「安全な医療は、質の高い教育から生まれる」という理念のもと、医学生から研修医、看護師、医療技術職、さらには地域医療従事者まで、多職種が共に学ぶ実践的教育拠点です。診療支援棟4階に整備された約500㎡の施設には、模擬病室・手術室をはじめ、超音波診断、内視鏡、血管内治療、ロボット支援手術などの高機能シミュレーターを備え、実際の医療現場に近い環境で安全かつ反復的な技能習得を可能としています。

本センターでは、手技の習得にとどまらず、「考え、行動し、振り返る」学習を重視しています。ICTを活用した映像記録システムとディブリーフィングを通じて、臨床判断力、チーム医療、コミュニケーション能力など、医療人に求められるコンピテンシーを育成しています。医学生のOSCEや診療参加型臨床実習、初期研修医教育、特定行為研修、多職種合同シミュレーションなど、卒前・卒後を通じた一貫した教育を展開しています。

さらに、デジタルBLSや救急対応訓練を通じて医療安全文化の醸成を推進するとともに、地域医療機関との連携を強化しています。今後も学外利用や共同教育プログラムを充実させ、「山梨県メディカルトレーニングセンター」として、地域医療を支える人材育成の中核拠点を目指します。

特定行為研修センター

センターの特色

特定行為とは指定研修機関において特定行為研修を受けた看護師が実践的な理解力、思考力及び判断力並びに高度かつ専門的な知識及び技能を習得して、診療の補助を医師あるいは歯科医師が作成した手順書に沿って行う医療行為です（保健師助産師看護師法の第37条の二）。これまで患者さんの状態を医師に報告して実施していた医療行為が手順書に示された病状の範囲内でタイムリーに看護師が医療行為を行い、その結果を医師に報告することが可能となります。

本センターでは、在宅慢性期領域・外科術後病棟管理領域・集中治療領域の３つの領域パッケージ研修と、感染に係る薬剤投与関連、皮膚損傷に係る薬剤投与関連の特定行為研修を行い、これまでに24名の修了生が誕生しました。技術の定着のため、特定行為研修終了後に3か月の臨床研修を、看護部のバックアップのもと、関係診療科の医師のチームの一員として実施しています。現在修了者がICU、病棟、救急外来、に勤務し活躍しています。看護師のスキルアップ、医師から看護師へのタスクシフト、高度な医療チームの一員として当院のボトムアップを図る貴重な人材が特定看護師です。

医療スタッフ研修センター

センターの特色

医療スタッフ研修センターは、コメディカルスタッフの知識・技能の向上、新規医療技術の導入、ならびに各種資格の取得・維持を包括的に支援するため、令和3年に設置されました。この取り組みは、病院機能評価が求める医療の質の確保に資するものであり、高度機能病院としての機能を維持・強化するうえで不可欠な役割を担っています。

支援対象は、臨床工学、放射線技術、病理、薬剤、検査、リハビリテーション、栄養管理、臨床心理の8部門に及びます。これまで、学会や外部研修への参加支援を積極的に行ってきました。令和8年度においても、これら8部門に対し、より高度な医療を提供するために必要な資格の新規取得および維持、ならびに最新の知識や技術を習得するための研修への支援を予定しています。

また、県内の中核施設として、各部門が主催する講習会や研修会の運営を支援するとともに、令和5年度に整備されたシミュレーションセンター等を活用し、職員の実践的なスキル向上を目的としたハンズオンセミナーの企画・開催も支援しています。現在は院内研修の一元化を推進しており、職員が必要な研修を確実に受講できる体制の整備に取り組んでいます。また、昨年度から開始した院内BLS研修も順調に実施されており、多くの職員が受講しています。

山梨県地域医療支援センター

当センターは、山梨県と山梨大学の共同運営により、県内の医師確保と地域偏在解消を使命としています。キャリア形成プログラムや卒前・卒後支援を軸に、医師の育成と適正配置を推進し、地域医療の質向上に貢献してまいります。

部門長（センター長）からのメッセージ

山梨県内の医師数を維持しつつも、医師偏在や診療科ごとの医師確保を進めることが主な役割です。人口減少・医療需要変化に対応すべく、将来を見据えた医療体制整備が急務であり、センターの役割は転換期を迎えています。皆様の指導を賜り、県医療発展に尽力します。

体制と運用方針

医師2名を含む体制で、山梨県医務課と綿密に連携し、意思決定および活動を行っております。地域医療対策協議会（年2～3回）を通じ、県内病院・自治体と協力体制を整えております。

業務内容

県内の医師確保と地域偏在の解消を使命に、多岐にわたる業務を行っています。具体的には、臨床研修医の増加促進や医師不足改善への貢献、医学生への啓発、卒後医師への個別キャリア支援を通じて、地域医療の質の向上と持続可能な医療体制の構築に尽力しています。

特色と主な実績

山梨県と山梨大学の緊密な共同運営を特色としています。これまでの取り組みで県内医師数の継続的な増加に貢献し、医師不足は改善傾向となっております。現在は地域・診療科の偏在解消を喫緊の課題と捉え、調査に基づく実態把握と関係機関との連携を強化しながら、県内の医療体制充実に尽力しています。



東部地域医療教育センター

当センターは、国立大学法人山梨大学と大月市との「包括的連携協定」を背景に、持続可能な山梨県東部地域医療の提供および教育・研究体制を構築するため、令和5年2月1日に開設されました。

部門長（センター長）からのメッセージ

大学病院の各診療科のご支援のもと、大月市立中央病院との連携に加え、都留市立病院と消化器外科分野での連携を図り、東部地域医療のさらなる強化と研修施設としての使命を果たすよう取り組んでまいります。

体制と運用方針

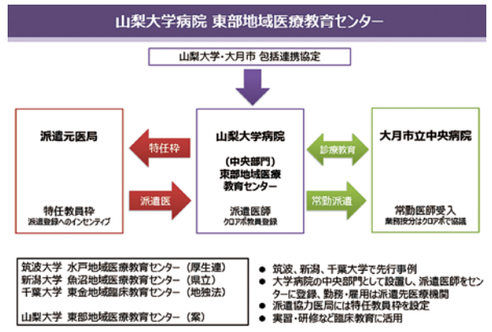
榎本センター長を含む専任の医師3名からなる人員配置の下、派遣医師を本センターに登録、勤務・雇用は派遣先医療機関としています。

業務内容

大月市立中央病院の外来の充実強化に貢献するため、クロスアポイントメント制度を用いた本院常勤医師の在籍出向や非常勤医師の派遣により専門的な診療を担うこと、医師以外では視能訓練士の派遣などを行っています。また、その他に研修医の臨床研修や、実習を受ける学生の受け入れなども行っています。

特色と主な実績

地域医療研修施設として研修医および専攻医に質の高い指導ができるよう、日本内科学会山梨大学内科研修プログラム連携施設、日本消化器病学会認定施設、日本消化器内視鏡学会指導施設、日本肝臓学会関連施設、日本循環器学会研修関連施設、日本外科学会関連施設、日本透析医学会教育関連施設の認定を取得しました。



働き方改革センター

働き方改革センターは、山梨大学医学部附属病院における働き方改革を推進するため、令和７年４月に設置されました。

本センターでは、医師、看護師、技師、事務職員などすべての職種における勤務環境の改善と業務効率の向上を図り、職員一人ひとりが持続可能で健康的に働ける環境の整備を推進していきます。

部門長（センター長）からのメッセージ

働き方改革センターでは、労務管理担当の 波呂 浩孝 副病院長のご指導のもと、小川 陽一 副センター長とともに業務を担当しております。新設のセンターであり、まだ取り組みは始まったばかりではありますが、職員の皆さまの意見や協力をいただきながら、より良い職場環境の構築に努めてまいります。今後とも皆さまのご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

体制と運用方針

働き方改革センターでは、以下の業務を中心に活動しています、

1．勤務環境・労働時間の改善

本院に勤務するすべての職種を対象に、勤務環境の整備や労働時間の適正化を進めます。職員が安心して働ける環境づくりを目指しています。

2．タスクシフト及び業務改善の推進

業務の効率化を図るため、業務の見直しや適切なタスクシフトを推進し、職員の負担軽減に取り組みます。

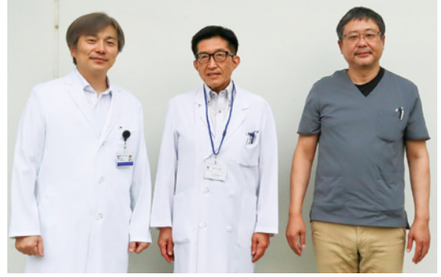
3．ワークライフバランスの推進

柔軟な働き方の導入や勤務形態の改善を検討し、職員が仕事と生活の両立を図れる環境を整えます。

4．働き方改革に関する啓発活動

院内外に向けた情報提供や啓発活動を通じて、働き方改革への理解を深め、組織全体で改革を推進します。

5．その他、センターが必要と認める業務



病床管理センター

病床管理センターは、病院内の病床利用を最適化するため、入院の調整や空床状況の把握、各診療科・各病棟との連携を行う部門です。効率的な病床運用を通じて、患者の円滑な受け入れと質の高い医療提供を支援します。

部門長（センター長）からのメッセージ

患者さんが安心して入院できるよう、全職種と連携し、円滑で効率的な病床運用に努めてまいります。

体制と運用方針

医師、看護師、医療スタッフで構成されています。各診療科・各病棟と連携し、入院調整や空床管理を適切に行い、効率的かつ公平な病床運用を推進します。

業務内容

病床管理センターは、入院や転棟の調整、空床の把握・管理、各診療科・各病棟との連携を通じて、病床の有効活用を図る役割を担います。また、緊急入院や転院時の病床確保にも対応し、各診療科・各病棟の意向に沿いながら患者が適切なタイミングで入院できるよう支援します。円滑な病床運用により、質の高い医療提供を支えています。

特色と主な実績

院内の病床運用の状況をリアルタイムに把握し、迅速な病床調整を行うことが特色で、平均在院日数の適正化や緊急入院の円滑な受け入れなどの実績を上げています。



総合相談・支援センター

総合相談・支援センターは、医療福祉相談・難病支援・心理支援を担っています。患者さんやご家族の多様な相談に対応し、治療と生活の両立支援や心理的支援等を通じて、患者さんへのサービスの質向上を担っております。

部門長（センター長）からのメッセージ

総合相談・支援センターは、医療福祉相談・難病支援・心理支援の三つの機能を柱に、患者さんとご家族の多様なニーズに寄り添うことを目的として令和8年７月に設立いたしました。治療と生活の両立支援や心理的支援を通じて、安心して医療を受けていただける環境づくりに取り組んでまいります。皆さまに信頼されるセンターを目指し、職員一同努めてまいりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

体制と運用方針

医療福祉相談では患者さん・ご家族、職員からの多様な相談に専門の相談員（医療ソーシャルワーカー）や看護師等が対応しています。難病支援では診断・治療・療養相談や医療ネットワーク構築を行っています。心理支援では医師や心理士中心となり、患者さん・ご家族への心理的支援を実施しています。

業務内容

医療費や医療保障制度、在宅療養、医療機関情報等の相談を受け、関係機関との連携や情報提供を実施しております。心理支援では患者へのカウンセリングを行っています。

特色と主な実績

医師、看護師、心理士、ソーシャルワーカー、事務職員の多職種が協働し、難病、心理支援や患者さんやご家族、職員からの相談に対応しています。令和7年度の窓口相談件数は約2,500件にのぼり、今後も多様な相談ニーズに応えながら、患者さんへのサービス向上に努めてまいります。



Department of Clinical Laboratory

Department of Clinical Laboratory provides reliable laboratory tests to doctors and patients so that patients undergo appropriate medical care. This department consists of Biochemistry Lab., Immunology and Serology Lab., Hematology Lab., Microbiology Lab., Genetics Lab., General Test Lab., Physiological Examination Lab., Blood Transfusion Test Lab., and Blood Sampling Room.

Message

Our laboratory is a quality-assured laboratory certified under ISO 15189:2022 (international standard for clinical laboratories). We will continue to serve as a team of laboratory test professionals who are always striving to improve, supporting the advanced medical care provided by our hospital.

Structure and Operational Policy

We have established a laboratory test system based on ISO 15189:2022. We also place emphasis on research and education (technician trainees, medical students, and clinical laboratory specialists).

Business content

Biochemistry, Immunology/Serology, and Hematology Labs. have established fast testing systems and provide 50 kinds of test results in 30 - 60 min so that doctors can obtain the results before the outpatient examination. Physical Examination Lab. offers ECG, respiratory tests, electroencephalographic exams, and ultrasound exams, receiving high commendations from doctors.

Features and main achievments

We contribute to medical care as a leader in laboratory testing in Yamanashi Prefecture. In-house COVID-19 PCR has been provided since February 2020. To contribute to the research conducted at our hospital, we launched the residual sample provision system and blood sampling for research in the central blood sampling room in 2024 and 2025, respectively.

Surgical Center

The operating rooms of the University of Yamanashi Hospital, affiliated with the Faculty of Medicine, serve as the surgical facilities of the only designated advanced treatment hospital in Yamanashi Prefecture. Comprising both central and outpatient surgery units, the department features a total of 14 operating rooms and performs approximately 7,500 surgeries annually.

Message

The chairman of the Surgical Center is Dr. Hiroyuki Nakajima, appointed in April 2025. We are committed to creating an environment that alleviates patient anxiety while delivering cutting-edge surgical care safely. Surgeons, anesthesiologists, nurses, and other medical professionals work closely together to ensure every patient can undergo surgery with confidence.
As a united team, we will continue striving to deliver the highest level of surgical care.

Structure and Operational Policy

Our department operates under a multidisciplinary team approach involving physicians, surgical nurses, pharmacists, radiologic technologists, and clinical engineers. We provide 24/7 emergency surgical services year-round. By optimizing surgical scheduling, equipment preparation, and operating environments, we aim to reduce waiting times.
Additionally, we are continuously enhancing our facilities and capabilities to handle highly complex procedures.

Business content

The Surgical Department at the University of Yamanashi Hospital delivers safe and advanced surgical care through state-of-the-art equipment and teamwork. We collaborate across clinical departments, anesthesiology, and surgical nursing to manage the perioperative period, sharing patient data and conducting preoperative risk assessments.
In coordination with the materials management and radiology departments, we ensure smooth equipment setup, sterilization, and intraoperative imaging, supporting safe surgical outcomes.

Features and main achievments

We actively promote minimally invasive and advanced surgical techniques, with a strong emphasis on thoracoscopic, laparoscopic, and robot-assisted procedures. Our facility includes a hybrid operating room integrated with an angiography suite, and is equipped with three da Vinci robotic systems and a navigation system to support precision surgery. Additionally, in neurosurgery, we utilize a mobile magnetic resonance imaging (MRI) unit for intraoperative imaging, enabling highly accurate and safe surgical interventions.

Department of Radiological Technology

The Department of Radiological Technology consists of the Diagnostic Imaging Division (X-ray, CT, MRI, nuclear medicine, OR, and endoscopy), the IVR Center (angiography and interventional radiology), the Radiation Oncology Division (including Radioisotope therapy), and the Radiation Management Division. Together, they form the core of our radiological diagnosis and treatment services.

Message

As a leading center for advanced medical care in Yamanashi, we provide high-quality imaging, precise radiological diagnosis and treatment, and careful radiation dose management. We are committed to delivering safe and reliable care while advancing our technology and educating the next generation of professionals.

Structure and Operational Policy

Our Diagnostic Radiology, Radiation Oncology, and Radiological Technology teams work closely with doctors, radiologic technologists, nurses, clinical engineers, medical physicists, and administrative staff members to provide safe and effective care through strong multidisciplinary collaboration.

Business content

We perform advanced imaging and catheter-based procedures using the AI-enabled CT, 3-Tesla MRI, and the latest IVR-CT introduced last year. Our Radiation Oncology Division provides high-precision treatments such as IMRT and nuclear medicine therapy, while our Radiation Management Division records and manages individual radiation doses to ensure patient safety.

Features and main achievments

In fiscal year 2025, approximately 136,000 procedures—including imaging examinations, interventional radiology (IVR), and radiation oncology treatments—were performed, primarily by technologists certified in specialized modalities such as mammography, CT, MRI, angiography/IVR, nuclear medicine, and radiation oncology

Supply Center

The Materials Department centrally manages the cleaning, sterilization, and storage of all medical instruments used in the hospital. As a specialized unit, it ensures the safe and reliable supply of equipment, thereby supporting the clinical environment.

Message

Our mission is to ensure the delivery of safe and secure medical care. As a department specializing in cleaning and sterilization, we support clinical practice through advanced techniques and rigorous quality assurance.

Structure and Operational Policy

We apply appropriate sterilization methods—high-temperature or low-temperature—based on the characteristics of each instrument. Automated storage systems are utilized to streamline operations and enhance efficiency.

Business content

The Materials Department handles sterilization using autoclaves, plasma sterilizers, and formalin gas sterilizers, along with cleaning via washer-disinfectors, decompression boiling cleaner, ultrasonic cleaners, and other specialized equipment. Cleaning quality is evaluated in accordance with the guidelines of the Japanese Society for Medical Instrumentation to ensure consistently high standards. Furthermore, automated vertical and rotary storage systems are employed to centralize the storage of surgical instruments, enabling efficient and effective supply management.

Features and main achievments

As a department dedicated to cleaning and sterilization, we work closely with clinical departments and operating rooms to ensure high-quality instrument management. Our adherence to national guidelines ensures reliable safety and quality assurance.

Division of Transfusion Medicine and Cell Therapy

Department of Blood Transfusion and Cell Therapy provides safe and appropriate transfusion medicine to all the departments in hospital and our patients. Through these efforts, we support our staff in providing better care and treatment to our patients.

Message

Our Blood Transfusion and Cell Therapy Department has obtained I&A certification, which attests to appropriate blood transfusion medical care, and ISO 15189:2022 (Immunohaematology and Transfusion-Related Testing) certification, an international standard for the quality and competence of clinical laboratories. We will continue to provide safe and appropriate blood transfusion medical care, blood transfusion testing, and cell therapy to support the advanced medical care provided at our hospital.

Structure and Operational Policy

We work closely with the Department Clinical Laboratory. During nighttime and holidays, two staff members, one for a blood transfusion and others a laboratory technician, are on duty to provide detailed services to medical departments. We have one blood transfusion specialized doctor and have obtained Blood Transfusion Management Fee I certification.

Business content

We perform blood transfusion testing, management of blood for transfusion, collection and management of autologous blood for transfusion, peripheral blood stem cell collection, and processing such as red blood cell removal from bone marrow fluid. Our facilities include a fully automated blood transfusion testing system (OrthoVision®), a peripheral blood stem/mononuclear cell collection device (Spectra Optia® by Terumo Corporation), and a cell processing room equipped with state-of-the-art technology for preparing cells used in cell therapy and regenerative medicine.

Features and main achievments

As a leader in blood cell therapy in Yamanashi Prefecture, we are contributing to medical care. CAR-T therapy, which is gaining attention as a new treatment for hematological malignancies, has been introduced at our hospital, and our department is responsible for cell collection and preparation management of cell therapy product

Department of Emergency Medicine

The department oversees the ER and provides care ranging from tertiary emergency services to community secondary emergency care. We are committed to delivering comprehensive, high-level care for critically ill patients through a 24/7 operation.

Message

As the first point of contact for emergency care, we respond quickly and accurately to diverse conditions. Facing patients on the front lines, we strive to provide optimal care while adapting to ever-evolving medical practices.

Structure and Operational Policy

We adopt a cross-disciplinary team approach in collaboration with specialists from various departments. We also emphasize team-based care and education to ensure all staff can respond promptly and appropriately.

Business content

We deliver initial treatment in the ER for emergencies such as cardiac arrest, sepsis, and trauma, while also enhancing disaster preparedness. In addition, we coordinate medical resources and support patients transitioning from acute to recovery phases.

Features and main achievments

Equipped with isolation rooms and specialty diagnostic facilities, the triage building improves our disaster response capabilities. Through the introduction of advanced technologies and collaboration with other institutions, we aim to improve care quality and contribute to community healthcare.

Department of Intensive Care Medicine

Operating the only ICU in the prefecture, the department offers 24/7 specialized care for critically ill patients. We are committed to delivering comprehensive, high-level care for critically ill patients through a 24/7 operation.

Message

We are dedicated to providing life-saving care and supporting the most critical cases. Facing patients on the front lines, we strive to provide optimal care while adapting to ever-evolving medical practices.

Structure and Operational Policy

Our team of ICU physicians, nurses, and pharmacists offers comprehensive care for critically ill patients. We also emphasize team-based care and education to ensure all staff can respond promptly and appropriately.

Business content

We use ECMO and CRRT to treat severe cases from within and outside the hospital, around the clock. In addition, we coordinate medical resources and support patients transitioning from acute to recovery phases.

Features and main achievments

While admitting approximately 800 new patients annually, we also actively engage in a wide range of clinical and basic research as a university hospital, contributing to improved survival rates.Through the introduction of advanced technologies and collaboration with other institutions, we aim to improve care quality and contribute to community healthcare.

Neonatal Intensive Care Unit/Growing Care Unit

In April 2011, our hospital opened the Neonatal Intensive Care Unit (NICU) as a part of the regional perinatal and maternal medical center. In collaboration with perinatal facilities across Yamanashi Prefecture, including Yamanashi Prefectural Central Hospital, we provide advanced medical care for newborns in the area.

Message

We aim to provide high-quality medical care and support system in collaboration with the local community so that every newborn can receive appropriate treatment and return home with peace of mind.

Structure and Operational Policy

We have both NICU (Neonatal Intensive Care Unit) and GCU (Growing Care Unit). We work closely with other departments, such as pediatric surgery and cardiovascular surgery, as well as other professionals, to provide consistent medical care from the acute phase to the growth support phase. We emphasize community collaboration and home support.

Business content

We provide advanced intensive care for preterm infants born at 32 weeks of gestation or later, low-birth-weight infants, and newborns with specific conditions, such as respiratory disorders, infections, jaundice, and pediatric surgical diseases. Our facility is the only medical institution in the prefecture that can treat congenital heart diseases and neoplastic disorders in newborns. We also accept transfers from other hospitals. In the GCU, we provide postnatal care for infants who have stabilized and assist in their transition to home care.

Features and main achievments

We are focusing on treating congenital disorders in collaboration with the departments of pediatric surgery and cardiovascular surgery. We are also establishing a home support system for patients after discharge. Our goal is to develop a community-based neonatal medical care system.

Department of Pathology

We prepare and manage tissue and cell specimens, as well as perform pathological diagnoses. Additionally, we support clinical trials and research utilizing pathological specimens.

Message

Our staff works together to provide reliable pathological diagnoses to patients and physicians in clinical departments.

Structure and Operational Policy

The Pathology Department consists of two pathologists, nine clinical laboratory technicians (including seven cytotechnicians), and two medical clerks. The department collaborates with pathologists from the Pathology Diagnosis Division to carry out its operations.

Business content

Histopathology: Tissue samples are collected from the patient and used to prepare slides. Special stains or immunostains are added as needed.
Cytopathology: Cells collected from the patient are smeared onto a slide, stained, and examined for the presence of cancer cells.
Rapid Testing: A rapid diagnosis (histopathology or cytopathology) is performed during surgery or testing.
Autopsy: It is performed with the consent of the patient's family to determine the cause of death, pathophysiology, and the effectiveness of treatment.

Features and main achievments

・With the introduction of a virtual slide system, it is now possible to view pathological specimens from electronic medical records (the scope of this service is being expanded).
・We are strengthening our rapid cytology testing capabilities during bronchoscopy and endoscopy procedures.
・We are capable of preparing high-quality specimens for cancer genome medicine and molecular genetic testing. In addition, as cancer genome coordinators, we provide explanations about cancer genome medicine to patients.

Labor and Delivery Unit

The Labor and Delivery unit is primarily responsible for managing pregnancy, delivery, and the postpartum period in expectant and new mothers. In addition, it plays a key role in fetal diagnosis, management, and newborn care. The unit is in charge of the 4th floor north ward, and due to the specialized nature of its work, it is operated almost exclusively as a single department.

Message

As a university hospital, we are equipped to manage high-risk pregnancies involving maternal or fetal complications. While our primary goal is the safe and secure management of pregnancy and delivery, we also strive to provide a highly satisfying birth experience. In collaboration with the anesthesiology department, we are working toward the introduction of painless (or pain-relieved) delivery.

Structure and Operational Policy

In addition to obstetricians, our team includes gynecologists, reproductive medicine specialists, and experts in women's health. We work collaboratively as "one team" alongside pediatricians, anesthesiologists, psychiatrists, midwives, nurses, nursing assistants, and pharmacists to provide comprehensive care.

Business content

We are involved in the daily management of pregnancy and delivey. While we do handle normal deliveries, we also frequently encounter a variety of acute complications affecting the mother or fetus. In particular, we are often required to manage cases that are difficult to handle at other institutions, such as those listed below.

Features and main achievments

A distinctive feature of our hospital' s obstetric care is the high number of pregnancies complicated by conditions such as psychiatric disorders and impaired glucose tolerance. We also manage abnormal pregnancies, including placenta previa and hypertensive disorders of pregnancy, as well as fetal anomalies such as congenital heart disease. The number of deliveries remains steady at around 600 per year. In addition, we handle obstetric emergencies such as life-threatening maternal hemorrhage and provide care for socially high-risk pregnant women, including those classified as "specified expectant mothers."

Division of Rehabilitation

Rehabilitation is mainly focused on acute rehabilitation while treating illness and injury. It is characterized by moving out from the lying on the bed so as not to impair the function of the body as much as possible, and practicing the basic motion such as sitting, standing and walking in therehabilitation room.

Message

We provide patient-centered rehabilitation based on safety and trust.

Structure and Operational Policy

Currently, rehabilitation is provided by a staff of 36, including 24 physical therapists, 7 occupational therapists, and 5 speech-language-hearing pathologists. We focus on early mobilization and rehabilitation, and provide interventions to help patients return to their daily lives as quickly as possible.

Business content

Preventive rehabilitation to prevent loss of function is necessary in all medical departments, so we provide care across all departments.

Features and main achievments

five years ago, we started cardiac rehabilitation for patients after surgery for heart disease, and the number of patients is increasing every year. From June 2023, cardiac rehabilitation will also begin in the outpatient department, contributing to the development of cardiac rehabilitation in Yamanashi Prefecture. The Rehabilitation Department provides rehabilitation guidance in the wards as part of the bedsore prevention team, and physiotherapists with respiratory therapist certification also provide guidance on respiratory physiotherapy. In addition, we provide guidance on diabetic exercise therapy as part of the prevention of lifestyle-related diseases. Our speech-language-hearing therapists are also involved in intraoperative MRI examinations and provide rehabilitation mainly to patients with higher brain dysfunction and swallowing disorders.

Blood Purification Center

As a department of the University of Yamanashi Hospital that is responsible for highly advanced medical care, the Blood Purification Therapy Department safely provides patients with the most appropriate blood purification therapy. As an educational and training institution, our basic policy is to develop personnel who possess both specialized knowledge and skills.

Message

Specialists in blood purification therapy, such as Japanese Society for Dialysis Therapy specialists, dialysis therapy instructor nurses, and certified dialysis technicians, work together to provide safe, high-quality team medical care. We hold regular conferences to discuss cases and take measures against infection, as well as to evaluate the safety of dialysis equipment and dialysis fluid.

Structure and Operational Policy・Business content

The Blood Purification Therapy Department is primarily responsible for hemodialysis (filtration) for hospitalized patients with chronic kidney failure, but also provides plasma exchange, immunoadsorption therapy, LDL adsorption therapy, blood component removal therapy, endotoxin adsorption therapy, and other treatments in combination with other medical departments. Peritoneal dialysis, blood access management, and regular checkups after kidney transplants are also performed in the outpatient department.with higher brain dysfunction and swallowing disorders.

Department of Endoscopy

The Department of Optical Medicine is a central unit that performs endoscopic diagnosis and treatment for cancers, inflammatory, and hemorrhagic diseases of the gastrointestinal and respiratory systems, led by expert physicians.

Message

As a core center of advanced medical care in Yamanashi, we are committed to providing safe, compassionate, and high-level endoscopic medicine that our community can trust. We will continue to focus on developing both technology and human resources.

Structure and Operational Policy

Led by board-certified experts and instructors, we integrate clinical care, education, and research. The new endoscopy unit ensures a safe and efficient diagnostic environment.

Business content

We provide advanced diagnostic and therapeutic procedures, including upper and lower GI endoscopy, ERCP, and EUS. Our services cover tissue sampling, hemostasis, polypectomy, and stent placement. Over 6,000 procedures are performed annually with precision and expertise.

Features and main achievments

In 2023, we performed 6,619 endoscopic procedures, including 1,256 therapeutic cases. The new endoscopy suite supports early detection and minimally invasive cancer care.

Department of General Medicine

This department specializes in treating first-time patients who are unsure which department to visit and those with multiple health issues. We provide comprehensive care by examining the patient as a whole, rather than by specific organs, to establish an appropriate diagnosis and treatment path.

Message

Our department's creed is to listen to each patient's voice and provide both physical and mental support. We work closely with specialists and our entire staff is dedicated to providing you with medical care that offers peace of mind and satisfaction.

Structure and Operational Policy

Our team consists of experienced general medicine specialists. For difficult-to-diagnose cases, we promptly collaborate with other hospital departments and hold conferences. Our policy is to efficiently provide optimal, patient-centered medical care.

Business content

We provide initial medical care and diagnosis for patients with a wide range of undiagnosed symptoms, such as fever of unknown origin, fatigue, or weight loss. Key responsibilities also include the general management of patients with multiple chronic diseases and bridging them to specialized departments for hospitalization when necessary. We also strive to provide continuous medical care in cooperation with local clinics.

Features and main achievments

Our department's specialty is our precise diagnostic ability for cases that are difficult to diagnose. We have a proven track record of accepting many referred patients throughout the year, identifying the pathology for many, and connecting them to the appropriate specialized treatment.

Clinical Trial Management Office (CTMO)

Clinical Trial Management Office (CTMO) was established in 2010 to promote clinical trial and clinical study in the University of Yamanashi Hospital. CTMO staffs encourage investigators to develop newdrugs, treatments and medical devices in clinical settings. The clinical research coordinator (CRC) plays central roles in supporting patients. We support patients to participate safely.

Message

A university hospital's role is to apply the university's advanced basic research and new drugs to clinical practice and provide patients with proven treatments. Our department is committed to supporting patients and doctors in carrying out this mission every day.

Structure and Operational Policy

The Clinical Trials Center, the Data Center, the Development Strategy and Research Promotion Office, the Education and Public Relations Office, and the Conflict of Interest Management Office are responsible for promoting the implementation and planning of clinical trials and research. Clinical trial coordinators (CRCs), data managers (DMs), and administrative staff collaborate to provide support.

Business content

We promote the implementation of reliable clinical trials and clinical research in cooperation with each department in the hospital. We support patients so that they can participate in clinical trials and clinical research with peace of mind. The CRC plays a central role in supporting patients. We support patients so that they can participate in clinical trials while protecting their rights and safety.
We also support researchers to properly conduct clinical trials and clinical research, from planning to data management and social implementation.

Features and main achievments

As of June 2026, we have supported 61 corporate clinical trials. We have also supported investigator-initiated clinical trials for pharmaceuticals and medical devices, as well as other clinical research and clinical trials. We also provide education and consultation to researchers on clinical research.

Department of Clinical Engineering

Clinical engineers are specialized medical professionals who work as integral members of healthcare teams alongside physicians and nurses, responsible for operating, maintaining, and inspecting life-support equipment and medical devices. Following legislative amendments in 2021, their scope of practice has been significantly expanded to include new intraoperative equipment operations, patient procedures such as puncture techniques, medication administration, and other direct patient care responsibilities. Currently, clinical engineers play vital roles across diverse medical settings, including blood purification therapy, mechanical ventilation management, extracorporeal circulation, and surgical suite support.

Message

The Clinical Engineering Department operates under the philosophy of "Providing Peace of Mind to All Patients," offering comprehensive maintenance and safe operation of medical equipment. Our department manages a wide range of medical devices from life-support systems to robotic surgical equipment. Even in today's era of AI technology integration, human oversight and manual monitoring remain essential components of our practice. Through education and training of multidisciplinary teams, we ensure 24-hour safe and efficient medical equipment operation, serving as a cornerstone of healthcare in Yamanashi and contributing to our local community.

Structure and Operational Policy

We provide comprehensive maintenance and safe operation of medical equipment throughout the hospital, serving as specialists in medical devices essential for modern advanced healthcare and contributing to team-based medical care as key personnel responsible for ensuring the safety and maintaining the effectiveness of the ever-increasing array of medical equipment. Our staff of 24 members operates on a 24-hour rotation system across eight diverse areas of responsibility: blood purification, mechanical ventilation, extracorporeal circulation, operating rooms, intensive care units, angiography suites, arrhythmia-related procedures, and medical equipment management, all aimed at providing safe and secure medical care.

Business content

Clinical engineers at our hospital are specialized professionals who operate, maintain, and inspect life-support equipment such as dialysis machines, mechanical ventilators, and heart-lung machines under physician supervision. They perform diverse responsibilities on a 24-hour basis, including blood purification services, operating room duties, intensive care unit operations, and medical equipment management. Furthermore, as medical devices become increasingly digitized, they are committed to improving healthcare quality and ensuring patient safety through cybersecurity-conscious handling of medical equipment and participation in medical safety committees.

Features and main achievments

We centrally manage approximately 3,200 medical devices and provide support for approximately 7,000 surgical procedures and 2,700 blood purification treatments annually. Our facility operates three surgical support robots and 60 mechanical ventilators, with our clinical engineers responsible for heart-lung machine operations during cardiac surgery and a wide range of extracorporeal circulation procedures from pediatric to adult patients.

Center of Medical Teams

The Center of Medical Teams is a department composed of various medical teams that provide cross-organizational support to hospital staff, patients, and their families. The medical teams are made up of multiple professions and support patients with various diseases and conditions, as well as medical reimbursements and additions to the medical fees.

Message

hrough cross-sectional clinical and nursing support, the Center for Medical Teams strives to enhance its capabilities and contribute to the delivery of high-quality healthcare.

Structure and Operational Policy

Palliative Care Team, Pressure Ulcer Care Team, Delirium Management Team, Dementia Care Team, Nutrition Support Team, Psychiatric Liaison Team, Diabetes Dialysis Prevention Support Team, Urination Care Team, Ostomy and Continence Care Team, Respiratory Care Team, Eating and Swallowing Support Team, Acute Pain Service

Business content

Each specialized team works across the organization to provide patient family support and medical staff support in various locations, including inpatient and outpatient settings. To enhance the knowledge and skills of hospital staff, each team also provides education and guidance to hospital staff. Our center also responds to requests for training and observation from outside the hospital.

Features and main achievments

It is an organization that practices multidisciplinary team medicine, which is important in modern medicine. In FY2025, there were 4,295 cases of addition to palliative care team, 1,061 cases of addition to pressure ulcer high-risk care, 2,115 cases of addition to dementia care, 502 cases of addition to nutrition support team, 1,038 cases of addition to postoperative pain management team, etc.

Reproduction Center

The Center for Reproductive Medicine has been in operation since November 2005. For infertile patients, we will provide medical care that takes privacy into consideration as much as possible. In addition to simply aiming for pregnancy, we will approach medical care in collaboration with other medical departments with a broad perspective that leads to safe pregnancy, delivery, and child-rearing.

Message

Due to the nature of a university hospital, it is possible to provide very advanced medical care related to clinical research. If we determine that such treatment is necessary, we will talk to the patient. We would appreciate it if you could listen to the explanation from the doctor in charge. Reproductive medicine is advancing day by day, so we are always focusing on providing the latest technology in Yamanashi Prefecture.

Structure and Operational Policy

Currently, there are several reproductive medicine specialists, embryologists, and outpatient nurses working at the facility. For couples who wish to have children, we aim to help them get pregnant as soon as possible and with as little burden as possible. That's why our staff is made up of a team with specialized knowledge.

Business content

In cases where a woman is unable to conceive even after general infertility treatment such as timed intercourse and artificial insemination, we provide advanced assisted reproductive technologies such as in vitro fertilization, intra cytoplasmic sperm injection, and freeze-thaw embryo transfer. In addition, we also perform endometrial polypectomy on an outpatient basis, infertility testing including advanced medical care for patients who have repeated miscarriages, and implantation disorder testing including advanced medical care for patients who do not become pregnant even after multiple IVF treatments at other hospitals. We also perform preimplantation genetic testing for those who have had two or more miscarriages, or for those who have not become pregnant after two or more fertilized embryo transfers.

Features and main achievments

Our center is the only one in the prefecture that provides fertility-preserving therapy for young cancer patients that leaves them with the possibility of becoming pregnant in the future. In addition, in cooperation with the Department of Urology, we cryopreserve testicular sperm by microscopic testicular sperm collection method for azoospermia cases and perform ICSI. In addition, from April 2025, we will also conduct oocyte freezing for those who cannot get married immediately due to work or family reasons.

Liver Disease Center

The Liver Disease Center was established in 2008 as the core hospital for liver disease care coordination in Yamanashi Prefecture. In collaboration with national and prefectural authorities as well as specialized medical institutions, the center is engaged in improving the diagnosis and treatment of viral hepatitis, liver cancer, and fatty liver disease, while also promoting public awareness throughout the region.

Message

Yamanashi Prefecture has one of the highest rates of viral hepatitis and liver cancer patients in eastern Japan. As a designated core hospital, our center has been actively working to eradicate these diseases through pioneering initiatives, including the training of liver disease coordinators. We remain fully committed to overcoming liver diseases in the future.

Structure and Operational Policy

Under the leadership of the Center Director, Deputy Director, and a nurse counselor, the center works in close collaboration with the Department of Gastroenterology and Hepatology and the Medical Support Division to carry out a wide range of initiatives, as outlined below.

Business content

Our center promotes comprehensive liver disease management based on the following four core activities:

1) Supporting patient consultation, treatment, and follow-up care
2) Strengthening cooperation with local medical institutions and conducting training for healthcare professionals
3) Training liver disease coordinators and supporting their skill development
4) Raising public awareness through public lectures, community events, and video production

Features and main achievments

Our center strengthens local medical networks and trains liver disease coordinators. Through multidisciplinary consultations and large-scale public events, we have achieved a diverse, community-based track record that ranges from reinforcing healthcare infrastructure to raising public awareness.

Oral Implant Treatment Center

Our center opened in September 2008. Until then, it had been operating as part of the oral and maxillofacial surgery department. However, to deal with highly difficult cases, we launched the center as one specializing in dental implants.

Message

Dental implant treatment is treatment that can restore missing teeth with excellent functionality and aesthetics. Therefore, a wide range of knowledge and skills in dentistry are required to perform dental implant treatment. All our staff will continue to study hard so that we can provide excellent dental implant treatment.

Structure and Operational Policy

The center's staff hold conferences to propose appropriate treatment tailored to each case, and provide consistent treatment from placed dental implants to fitting the superstructure.

Business content

We provide services related to dental implant treatment, including bone augmentation, implantation, and installation of the superstructure. Even after the installation of the superstructure, our hygienists and other staff at the center provide ongoing maintenance treatment to help maintain an appropriate oral environment.

Features and main achievments

There are cases where dental implant treatment is difficult due to bone resorption or thin bone thickness, such as in the molar area of maxilla. Dental implant treatment is possible by applying various bone augmentation methods. Since some treatments require advanced techniques or procedures under general anesthesia, we are studying how to perform these safely and reliably.

Center for Clinical Genetics

At the Center, we provide genetic counseling for clients who experience concerns or anxieties related to the symptoms, prognosis, or hereditary nature of genetic conditions. This includes clear explanations of medical and genetic information, as well as support through medical care for physical and mental impairments, psychological counseling, and assistance in accessing available social resources.

Message

Clinical geneticists and certified genetic counselors work as part of a multidisciplinary team alongside nurses, midwives, licensed psychologists, and social workers to provide integrated genetic healthcare.

Structure and Operational Policy

We are also engaged in pioneering practices in "palliative care in genetic medicine," with a unique focus on recognizing the diverse forms of distress experienced by clients and aiming to improve their quality of life (QOL) through accurate assessment and targeted interventions.

Business content

At our center, clinical geneticists from multiple specialties have established the most advanced genetic medicine system in the prefecture. We provide care for a wide range of conditions, including rare diseases and chromosomal abnormalities diagnosed at birth or during childhood, as well as adult-onset disorders in which pathogenic genetic variants are identified.

In addition, we play a key role in offering genetic counseling for individuals diagnosed with hereditary cancer syndromes through cancer genomic profiling and companion diagnostic testing. We also provide genetic counseling for individuals seeking preimplantation or prenatal genetic testing as part of reproductive medicine.

Features and main achievments

Congenital disorders such as chromosomal and genetic conditions, Transitional care for adolescents and young adults with genetic conditions (e.g., Down syndrome, 22q11.2DS), Adult-onset genetic diseases (e.g., Amyloidosis), Hereditary cancer syndromes, Preimplantation and prenatal genetic testing, Genetic counseling for next-generation concerns related to hereditary disorders

Stroke and Cardiovascular Emergency Center

Established in FY2024, the Stroke and Cardiovascular Emergency Center provides 24/7 emergency care for stroke and cardiovascular diseases

Message

We are committed to delivering optimal and safe care through advanced treatments and multidisciplinary collaboration.

Structure and Operational Policy

Specialists in stroke and cardiovascular care work together to ensure rapid emergency response and continuous patient support.

Business content

We offer thrombolytic therapy, mechanical thrombectomy, neurosurgical and endovascular treatments, PCI, circulatory support, and emergency cardiovascular surgeries.

Features and main achievments

As the only core stroke center in the prefecture, we provide advanced procedures like TAVI and MitraClip, and serve as a central facility in a national model project.

Center for Clinical Immunology and Rheumatology

The Rheumatology Center was established in 2016 to strengthen the collaboration among the Departments of Orthopedic Surgery, Dermatology, and Rheumatology. It provides comprehensive and multidisciplinary care for rheumatic and collagen vascular diseases, including rheumatoid arthritis.

Message

We aim to deliver reliable, patient-centered care by combining specialty expertise with prompt decision-making through close interdepartmental collaboration. A center jointly operate by Orthopedics, Dermatology, and Internal Medicine for rheumatologic care is rare even in Japan.

Structure and Operational Policy

Each department contributes its strengths, while weekly conferences and regular study sessions facilitate shared decision making and updated knowledge. Given the complexity of rheumatic diseases, our integrated structure enables rapid and flexible responses.

Business content

We provide seamless care from diagnosis to treatment and rehabilitation for various autoimmune diseases including RA, SLE, myositis, and vasculitis. Orthopedic consultation is promptly performed when surgical intervention is required. High-level diagnostics such as musculoskeletal ultrasound and early initiation of biologics are actively employed. Our collaborative approach ensures both the quality and efficiency of patient care.

Features and main achievments

We manage difficult-to-diagnose or treatment-resistant cases through multidisciplinary teamwork, offering integrated care across the joint, skin, and systemic manifestations. Our center plays a leading role in rheumatology care in Yamanashi Prefecture.

Allergy Center

The Allergy Center is a specialized department that provides comprehensive care for increasingly complex and diverse allergic diseases through collaboration among multiple clinical departments. We also work with local governments to promote public awareness and provide accurate information.

Message

We are committed to addressing each patient's diverse allergic conditions with care and precision, aiming to provide high-quality medical care through specialized expertise and interdisciplinary collaboration.

Structure and Operational Policy

Our center offers cross-disciplinary care involving multiple departments to address a wide range of allergic conditions, including respiratory, dermatological, and food-related allergies. We also collaborate with local governments to build an integrated care system.

Business content

The Allergy Center provides comprehensive care for various allergic diseases through collaboration among multiple clinical departments. In partnership with Yamanashi Prefecture, we conduct surveys on clinical practices, organize training sessions, and host public lectures. Our website offers Q&A resources, introduces allergy-capable medical institutions, and promotes accurate information dissemination. In addition, we are actively involved in training allergy specialists and contributing to the advancement of allergy research and education.

Features and main achievments

Based on a cross-disciplinary clinical structure, we provide care for a wide range of allergic conditions. In collaboration with Yamanashi Prefecture, we contribute to improving regional allergy care through clinical surveys and public awareness initiatives.

IVR (Interventional Radiology) Center

Interventional Radiology (IVR) is a field of medicine in which minimally invasive procedures are performed under image guidance using modalities such as angiography, ultrasound, or CT imaging. In the past, Yamanashi lacked a specialized IVR department, disadvantaging patients in need. In 2018, our IVR Center was established with the goals of centralizing IVR procedures within the region, making collaboration with various departments, training IVR specialists, and advancing the quality of IVR care in Yamanashi.

Message

By manipulating fine catheters and needles while visualizing the internal anatomy, IVR treatment can be provided with minimal invasion, avoiding open surgery. Today, this center provides safe and effective IVR treatment to patients across Yamanashi.

Structure and Operational Policy

We provide 24-hour coverage—including for emergency cases—led by a team of four IVR specialists and two IVR fellows. We accept patients referred from other departments within our hospital as well as from outside medical institutions.

Business content

These IVR treatments include embolization for tumors (TACE), intra-arterial chemotherapy (head and neck cancers, bladder cancer, etc.), hemostasis for various types of bleeding (e.g., aneurysm rupture, hemoptysis, postoperative bleeding, parenchymal organ injury, gastrointestinal bleeding, obstetric and traumatic bleeding), embolization of peripheral aneurysms and vascular malformations, EVAR, angioplasty, image-guided tumor biopsies, CV port placement, drainage of trunk abscesses, endocrine venous sampling, transjugular liver biopsy, lymphangiography, and endovascular foreign body retrieval.

Features and main achievments

Our center is the only specialized facility for minimally invasive image-guided therapy in Yamanashi Prefecture. We perform over 800 IVR procedures annually, including patients from across Yamanashi. Academically, we actively publish research on embolic materials and portal hypertension. A new IVR-CT system became operational in March 2026, enabling more precise IVR procedures.

Epilepsy Center

The Epilepsy Center at Yamanashi University Hospital, established on June 1, 2018, is the only epilepsy support base hospital in Yamanashi Prefecture. It provides specialized epilepsy care and contributes to regional medical advancement through education and social activities.

Message

Our center provides specialized medical care and comprehensive support to help epilepsy patients and their families live with peace of mind. We will also deepen our regional cooperation and enhance the quality of epilepsy care in Yamanashi Prefecture.

Structure and Operational Policy

The center comprises four departments: pediatrics, neurosurgery, neurology, and psychiatry, collaborating with emergency, laboratory, and pharmacy departments. It offers a seamless care system from outpatient to hospitalization services, with an epilepsy care coordinator providing patient lifestyle support.

Business content

The center provides comprehensive care for epilepsy patients from newborns to the elderly, including diagnosis, treatment, and welfare support. Coordinators manage consultation and collaboration with local hospitals, strengthening regional epilepsy care through meetings. It also conducts specialist training.

Features and main achievments

As the exclusive epilepsy support base hospital in Yamanashi Prefecture, we deliver specialized and comprehensive epilepsy medical care. Our educational initiatives include monthly conferences to train specialists. Furthermore, as part of our social outreach, we produce online educational materials for emergency medical personnel and conduct epilepsy awareness campaigns through an annual public seminar convened every February.

Wellbeing Center for Perinatal Mental Health

The "Postpartum Well-being Center," established in 2021, provides mental health care for mothers from the perinatal period—defined as pregnancy through the first week postpartum—through to one to two years after childbirth, with a medium- to long-term perspective. By accurately understanding the unique psychological states associated with the postpartum period, the center strives to provide appropriate medical support.

Message

Psychiatrists with experience in perinatal mental health care, along with the psychologists and midwives, work as a team with obstetricians, pediatricians, and social workers to provide coordinated support in collaboration with local public health nurses.

Structure and Operational Policy

The psychological characteristics of mothers during the perinatal and postpartum periods, as well as the respective roles of mothers and fathers in child-rearing, are shared and discussed. Psychotherapeutic approaches such as emotional support and cognitive restructuring form the core of care, and pharmacotherapy is used when necessary.

Business content

Accurate diagnosis and treatment of psychological conditions such as maternity blues (MB)—which many mothers experience and usually resolves within a month—as well as postpartum adjustment disorder (PAD) and postpartum depression (PPD), which may interfere with daily life for several months after delivery, are essential for providing appropriate support.
Recently, demand has grown for mental health care during pregnancy, as well as for mothers who have experienced miscarriage, stillbirth, or are raising children with genetic or congenital conditions. In response, the center was renamed the Perinatal Well-being Center in May 2023, to offer more comprehensive mental health services.
The center collaborates with the Yamanashi Prefectural Government, municipalities, and Mama no Sato perinatal care center, serving as a core facility in the medical and educational networks for obstetric and psychiatric care, supporting the mental health of mothers and children in the region.

Features and main achievments

Antenatal anxiety, premenstrual disorders (PMS/PMDD), maternity blues, postpartum adjustment disorder, postpartum depression, psychological support for parents of children with genetic disorders, grief care for miscarriage and stillbirth

Center for spine and spinal cord

We provide both conservative and surgical treatments, along with rehabilitation, for various spine and spinal cord disorders.

Message

At our Spine and Spinal Cord Center, we work closely with local medical institutions to provide early diagnosis and individualized treatment for patients with age-related spinal conditions, which are becoming increasingly common in our aging society.
In addition to typical age-related spinal disorders, we actively treat complex and rare conditions such as ossification of the posterior longitudinal ligament (OPLL), ossification of the ligamentum flavum (OLF), spinal cord tumors, and pediatric spinal deformities, which require advanced expertise.

Structure and Operational Policy

Our center consists of 3 certified spine surgery instructors, 3 board-certified spine surgeons, 5 board-certified orthopedic surgeons, and 1 board-certified neurosurgeon. Orthopedic and neurosurgical teams collaborate seamlessly. We hold weekly joint conferences to determine the best treatment strategies from multiple expert perspectives and conduct joint tests or surgeries as needed.

Business content

Surgeries are performed in a state-of-the-art bio-cleanroom using advanced medical technologies such as the O-arm navigation system, intraoperative neurophysiological monitoring, surgical microscopes, endoscopes, and ultrasound equipment, all with a strong emphasis on safety.
Postoperatively, we offer comprehensive support from a multidisciplinary team including doctors, nurses, and rehabilitation staff to ensure early recovery through tailored rehabilitation programs.

Features and achievements

Our center actively shares treatment outcomes and research findings at domestic and international conferences and publishes in academic journals. Through continuous academic activity, we incorporate the latest knowledge and techniques into our clinical practice, striving to provide the highest standard of care. We will continue to work together as a team to support patients, families, and the broader community with reliable, compassionate, and expert care for spinal disorders.

Cancer Center

Our Cancer Center provides care for all cancer types, including rare cancers. By leveraging the specialized expertise of a university hospital and interdisciplinary collaboration, we deliver cutting-edge, world-class cancer treatment to the local community.

Message

Cancer care is constantly evolving, and we stay at the forefront to deliver the most suitable treatment tailored to each patient's condition and lifestyle. We are dedicated to creating a safe, supportive environment where patients can focus on their recovery with peace of mind.

Structure and Operational Policy

Our system brings together specialists in surgery, internal medicine, radiology, pathology, and genomic medicine, working closely to safely deliver highly personalized treatment. We actively promote multidisciplinary, team-based care.

Business content

We offer multidisciplinary cancer care that integrates surgery, chemotherapy, and radiation therapy, while actively adopting advanced approaches such as robot-assisted surgery and immunotherapy. We also provide cancer genomic medicine, using gene panel testing to tailor treatment to each individual. Furthermore, we work closely with the Cancer Counseling and Support Center and the palliative care team to support patients holistically throughout their treatment.

Features and main achievments

Alongside our comprehensive ability to treat all cancer types, we utilize advanced technologies such as robotic surgery, high-precision radiotherapy, and genomic medicine. As a designated hub for cancer genomic medicine, we are committed to delivering the best and most effective care for every patient

Primary Emergency Medical Center

The Primary Emergency Medical Center was established in May 2024 in response to an official request from Yamanashi Prefecture, to provide nighttime and holiday care for patients with minor illnesses and injuries. While initial emergency care had traditionally been managed by local medical associations, physician aging and increasing burdens on secondary emergency hospitals have made the system unsustainable.
This center was created as a sustainable solution, leveraging university hospital resources to support primary emergency care throughout the prefecture.

Message

We are committed to providing timely care for patients who do not require an ambulance but cannot wait until the next day.
Our center also serves as a valuable field site where university physicians and medical students can gain firsthand experience in community-based emergency care.

Structure and Operational Policy

Our medical team consists of one university hospital physician, one external physician from the local medical association, and one resident physician from our hospital.
We provide care from 6:00 p.m. to 10:30 p.m., offering both internal medicine and surgical services for ambulatory patients. When appropriate, we refer patients to other facilities, fostering seamless cooperation across the regional healthcare system.

Business content

We provide initial care for conditions such as fever, abdominal pain, vomiting, minor trauma, and skin issues that are urgent but not severe. Patients are asked to call before visiting, which helps ensure efficient and appropriate use of limited medical resources.

Features and main achievments

We provide care for approximately 10,000 patients annually, establishing ourselves as a vital foundation for nighttime and holiday medical services in the region.
As a university-led primary emergency care center, we are a rare model nationwide, aiming to integrate education, research, and community service while bringing the light of academia to the local community.

Endometriosis Care Center

Endometriosis is a systemic disease that causes menstrual and chronic pain. Our center provides comprehensive care through collaboration among multiple specialties.

Message

Menstrual pain is difficult to evaluate objectively, as it cannot be easily compared with others. If you suffer from severe pain, endometriosis may be the cause. Please consult us.

Structure and Operational Policy

Led by the Department of Obstetrics and Gynecology, we collaborate with specialists in gastroenterology, urology, pulmonology, anesthesiology, psychiatry, and rehabilitation.

Business content

We provide comprehensive medical care for various symptoms related to endometriosis, combining diagnosis, treatment, exercise therapy, and psychological support. Our goal is to improve not only menstrual pain but also overall health, including sleep, diet, and physical activity, through outpatient consultations.

Features and main achievments

Established in 2024, our center is Japan's first multidisciplinary endometriosis care center, offering prompt and holistic treatment through an integrated system.

Department of Hospital Administration

The Hospital Management Department is responsible for planning and promoting management strategies to ensure the sustainable operation of Yamanashi University Hospital and the provision of high-quality medical care. We ensure financial soundness and efficient resource allocation through management and organizational analysis.

Message

The Hospital Management Department aims to contribute to achieving the hospital's overall goals, providing high-quality medical care on a stable management foundation. We are committed to balancing improvements in both management and medical quality to serve the local community.

Structure and Operational Policy

Working with administrative departments like the Hospital Management Planning Division and the Medical Affairs Division, we analyze hospital operations from all angles—personnel, equipment, and facilities. We formulate and implement strategic plans to optimize hospital operations

Business content

We plan, propose, and verify matters related to hospital management. To support the achievement of the hospital's objectives, we assist and coordinate the activities of various committees and related departments. We also handle a wide range of general hospital operational management tasks to build an efficient and high-quality healthcare delivery system.

Features and main achievments

We develop strategies that enhance medical quality while ensuring financial soundness, based on thorough management and organizational analyses. Through efficient resource allocation, we contribute to the hospital's sustainable growth and the healthcare of the local community.

Nutrition Management Department

The Nutrition Management Department's philosophy is to provide "safe and reliable meals" and its guiding principle is to "provide services that benefit patients and promote nutritional therapy that improves the effectiveness of treatment." We value each and every patient, and strive to provide them with joy and excitement while also responding quickly.

Message

The Nutrition Management Department provides medical nutrition services, catering services for hospitalized patients, and nutritional education both inside and outside the hospital. We aim to achieve both "food safety and security" and "enjoyment of food," such as providing meals with a seasonal feel that actively incorporates seasonal ingredients, so that patients can enjoy their meals even while hospitalized.

Structure and Operational Policy

It is mainly divided into food service management and clinical nutrition. Since the hospital opened, the food service management has been managed directly (with some outsourcing), and clinical nutrition services such as nutrition management, nutritional guidance, and team medical care are carried out. A total of 66 people work here, including 18 registered dietitians, 2 nutritionists, 24 cooks, 6 contracted cooks, 16 contracted cooks, and 2 administrative staff.

Business content

As meals are part of treatment, we strive to provide safe, reliable, delicious and enjoyable meals that are tailored to each individual's medical condition.
In addition, all hospitalized patients undergo nutritional screening by doctors, nurses and registered dietitians and nutritional care plans are implemented according to their medical condition and nutritional intake status.
Under the direction of a doctor, nutritional and dietary guidance is provided by proposing improvements to eating habits that are suited to the patient's lifestyle and working together with them to make them a reality.

Features and main achievments

Fiscal Year 2025 Achievements
Total Patient Meals Provided: 440,889
Special Therapeutic Diet Meals Provided: 83,764
Individual Nutrition Counseling: 1,740 cases
Nutrition Management Fee at Admission: 7,702 cases

Department of Medical Information

Through the management of electronic medical records and the hospital' s internal network, we support the efficiency and safety of healthcare. Our mission is to provide patients with comprehensive, high-level medical services, backed by a 24-hour support system to respond to any issues that may arise.

Message

We support the medical field from behind the scenes, building a safe and secure environment. On the front lines of care, we face patients directly while continuously adapting to evolving digital technologies and security guidelines to deliver the best possible medical services.

Structure and Operational Policy

We contribute to supporting healthcare professionals and ensuring medical safety through the maintenance of electronic medical records, network management, and the implementation of smartphone devices. In addition, we are implementing advanced security measures to enable telemedicine and support workstyle reforms for physicians.

Business content

We support the work of healthcare professionals and contribute to medical safety through the maintenance of electronic medical records, network management, and the introduction of smartphone devices. Additionally, we implement advanced security measures to enable telemedicine and support physicians' workstyle reform initiatives.

Features and main achievments

We are promoting digital transformation (DX) within the hospital by adopting advanced technologies, including the transition to high-performance smartphones. Through the introduction of cutting-edge systems and regular security training, we aim to enhance the quality of medical care and contribute to regional healthcare.

Department of Quality and Patient Safety

The Department of Quality and Patient Safety has been established an advanced safety management system required for Special Functioning hospitals, originating from the Patient Safety Office established in FY 2001 and adding the role of Quality management in 2016.

Message

As the only hospital in Yamanashi Prefecture with special functioning hospitals, we are working daily to establish an advanced safety management system and to realize patient-centered care as "one team throughout the hospital" in cooperation with doctors, nurses, pharmacists, and other professionals.

Structure and Operational Policy

Under the supervision of the Chief Medical Safety Officer, full-time medical safety managers, including physicians, nurses, and pharmacists, organize the Safety Management Committee, and five safety subcommittees. In addition, three departments are organized. The Risk Managers' Meeting are also constituted.

Business content

The multidisciplinary team works the issues of "advanced medical safety management system," "response to adverse events, planning and implementation of preventive measures," "planning and implementation of education and training for Patient safety," "communication and coordination among hospital departments regarding Patient safety," and "monitoring to improve medical quality". We are working on improvement activities in collaboration with our patients and families.

Features and main achievments

The hospital uses a proprietary incident reporting system, and in FY2025, based on 5,736 reports, we investigated, analyzed, formulated countermeasures, and evaluated their implementation to realize our key safety goal of "achieving both safety and efficiency" .

Department of Infection Control and Prevention

As a specialized department for infection control (ICT activities) and antimicrobial stewardship (AST activities), it was established on April 1, 2017. The department consists of a multidisciplinary team including physicians, nurses, pharmacists, clinical laboratory technicians, and administrative staff.

Message

We focus on sustainable infection control measures that are effective and easy to be carried out on the front lines, and support the appropriate use of antibiotics that is effective and leads to improvements in drug resistance. Telephone consultations are available, so please feel free to ask us.

Structure and Operational Policy

ICT activities are led by three infection control certified nurses, who conduct daily responses and rounds in the hospital to maintain and improve the quality. AST activities are led by an antimicrobial stewardship certified pharmacist, along with three physicians, including an infectious disease specialist, nurses, and clinical laboratory technicians.

Business content

In ICT activities, we provide training and practical guidance of infection prevention measures for staff, monitor and survey infectious diseases, support measures to control the outbreak of infections when they occur, and update hospital infection control manuals. We also respond to consultations from other hospitals and emerging infectious disease when it occurs. In AST activities, we audit the use of antibiotics and respond to treatment consultations for cases, thereby supporting the appropriate use of antibiotic treatment.

Features and main achievments

Each member works as a team, leveraging their skills. We are involved in the operation of the Yamanashi Center for Infectious Disease Control and Prevention (YCDC) and contribute to infectious disease control in Yamanashi Prefecture.

Department of Pharmacy

The Department of Pharmacy engages in its duties with a high level of expertise to provide advanced medical care and pharmacotherapy for each patient. In addition, the department actively participates in various hospital departments and multidisciplinary healthcare teams in close collaboration with other healthcare professionals.

Message

As medicine continues to advance and innovative new drugs are introduced one after another, the role of pharmacists in pharmacotherapy has become increasingly vital.
We are committed to continuously developing our knowledge and skills, while valuing communication, to become a trusted and reliable pharmacy department.

Structure and Operational Policy

As a member of a hospital providing advanced medical care, we have the following policy:
1. We respect the wishes of each patient and provide the best possible pharmacotherapy.
2. We support the appropriate use of medications with high ethical standards and pharmaceutical bases.
3. We strive to develop sincere hospital pharmacists who can contribute devotedly to patient care.
4. We work to solve clinical problems and generate scientific evidence.

Business content

We ensure proper inventory management based on demand forecasting; conduct accurate prescription reviews, inquiries, appropriate dispensing, and unit-based dispensing of injectable drugs; collect and provide precise drug information and manage off-label and unapproved drug use; prepare and provide in-house formulations in accordance with medical ethics; collaborate with multidisciplinary teams to perform pharmaceutical interventions, offer appropriate prescription suggestions, and provide individualized medication counseling; analyze blood drug concentrations and design prescriptions based on pharmacokinetics; and support safe chemotherapy through regimen management and side effect monitoring.

Features and main achievments

We have implemented a detailed training program for new pharmacists through a preceptor system and a structured two-year curriculum. We hold case study meetings regularly to share and deepen understanding of pharmacotherapy for various fields of disease, and we are proactive in presenting at academic conferences and submitting papers.

Department of Nursing

Based on the philosophy of "providing nursing care in collaboration with each patient to resolve their individual health issues," the Nursing Department is responsible for nursing care from hospitalization to home support. Working in close coordination with various teams, it provides professional nursing services across diverse departments.

Message

The Nursing Department strives to foster an environment where nurses can fully demonstrate their expertise across a wide range of nursing activities. We aim to create a workplace that allows staff to work in good health throughout their careers, strengthening initiatives to ensure psychological safety and realizing a healthy and safe work environment.

Structure and Operational Policy

Nurses are deployed not only in wards and outpatient clinics but also across many other departments, such as diagnostic and treatment areas, surgical units, support services, the medical team center, and emergency care. They work collaboratively with physicians and co-medical staff throughout the full treatment process—from pre-hospitalization to discharge and home care.

Business content

Our nurses engage in specialized medical team activities including nutrition support, respiratory care, and palliative care. We also operate nurse-led outpatient clinics, such as urinary independence and long-term follow-up for transplant patients, as well as midwife-led services. We are actively working to train nurses who are qualified to perform specific medical procedures, in order to ensure the delivery of timely care.

Features and main achievments

We promote career development through a ladder system that enables fair evaluation and continuous improvement of nursing skills. By organizing committees and working groups, our staff collaborates to achieve department and hospital-wide goals while enhancing the quality of nursing and contributing to effective team-based medical care.

The Department of Comprehensive Support

The Department of Comprehensive Support consists of the Abuse Prevention Center, the Regional Medical Liaison Center, and the Business Support Center. The department provides consultation and support related to outpatient visits, hospitalization, discharge, transfer, and home care. It also promotes collaboration with regional medical institutions, early detection and response to abuse, and improvement of outpatient services, thereby contributing to a safe and accessible medical environment.

Message

The Department of Comprehensive Support assists patients and their families so that they can receive medical care with confidence and smoothly transition from inpatient treatment to life after discharge. By working closely with departments within the hospital as well as regional medical, nursing care, and welfare institutions, we strive to establish a seamless support system and promote community-based healthcare that supports patients as a whole.

Structure and Operational Policy

Our multidisciplinary team, including physicians, nurses, medical social workers, and administrative staff, works together to share patient information from the outpatient stage and initiate support at an early phase. We provide continuous assistance tailored to each patient' s circumstances, while collaborating with regional medical, nursing care, and welfare institutions, with careful attention to the entire process from pre-admission to post-discharge care.

Business content

【Abuse Prevention Center】
Examination and Countermeasures Regarding Child Abuse, Spousal Abuse, Abuse of the Elderly and Persons with Disabilities, and Abuse of Persons with Mental Disabilities by Professionals.
【Regional Medical Coordination Center】
Perioperative Outpatient : Anesthesiologist consultation for safe surgery, etc.
Admission and Discharge Support : Multidisciplinary patient support
Regional Cooperation (forward support) : Services related to medical appointments, consultation and discharge reports
Regional Cooperation (logistical support) : Promotion of regional medical cooperation agreements, etc.
【Business Support Center】
Medical Certificate Support : Services related to the preparation of medical certificates
Outpatient Support : Consideration and countermeasures for various problems in outpatient care

Features and main achievments

The department promotes referrals and reverse referrals, admission and discharge support, transfer coordination, and linkage to home-based care. It also responds promptly to suspected cases of abuse, works to reduce outpatient waiting times, and streamlines procedures for issuing medical certificates. Through these activities, the department improves patient services and contributes to safe, efficient, and smooth hospital operations.

Department of Clinical Education

Undergraduate Clinical Training Center

The Undergraduate Clinical Training Center supervises the clinical and practical training for students in the Department of Medicine and Nursing, as well as trainees from outside the university, using the simulation center of the University Hospital. Our center conducts the practical training in which medical students, who have official qualifications, participate as medical staff under the supervision of doctors. The management committee of our center consists of the chief doctors of each clinical department, the practical training chair of the Department of Nursing and the person in charge of education of the Nursing Department of the University Hospital. The graduates, who have learned various basic skills necessary for medical practice and patient care through the well-designed trainings supervised by our center, are active in their respective fields as "Professionals" who can respond to the diverse needs of society.

Postgraduate Clinical Training Center

The Postgraduate Clinical Training Center aims to provide unique training for clinicians, fostering self-reliance and cultivating outstanding research doctors through a coherent curriculum spanning from undergraduate to postgraduate education. Our training field extends widely beyond the hospital, forming significant alliances with core hospitals within and outside the prefecture, allowing residents to train freely within this network. During the two-year primary training, residents acquire primary care skills and prepare for specialized training following their residency. We believe that nurturing doctors who can meet various medical needs contributes to community medicine, global welfare, and health.

Career Development Center

The Career Development Center provides clinical interns and residents with information on the medical specialist system and individual consultation for young doctors, helping them to develop their careers according to their lifestyles and visions for the future.

In recent years, with the introduction of the new medical specialist system, reforms in the way doctors work, and rapid advances in medical technology such as genomic medicine and robotic surgery, each medical specialty has become highly specialized. In addition, although the new medical specialist system has organized the basic areas to some extent, further organization of subspecialty areas is required in the future, making it difficult to create a roadmap for the career development of young physicians. The third year after graduation is a very important period for young doctors to improve their skills, and the Center, in cooperation with the Yamanashi Community Medicine Support Center, will provide new information on the medical specialist system, information on our departments, core hospitals and partner hospitals in and outside Yamanashi Prefecture, and information on various supports provided by the prefecture. We will also provide information on the various support services provided by the prefecture.

Simulation Center

A Hub for Developing Future Healthcare Professionals and Strengthening the Regional Healthcare Workforce

The Simulation Center is a practical education and training hub founded on the principle that "Safe healthcare begins with high-quality education." It provides an interprofessional learning environment where medical students, residents, nurses, allied health professionals, and regional healthcare providers learn and train together.

Located on the fourth floor of the Clinical Support Building, the approximately 500-square-meter facility is equipped with advanced simulation technologies, including mock hospital wards and operating rooms, as well as simulators for ultrasonography, endoscopy, endovascular intervention, and robot-assisted surgery. These resources enable learners to acquire and refine clinical skills safely through repetitive, hands-on practice in an environment that closely replicates real clinical settings.

Beyond technical skills training, the Center emphasizes experiential learning through a continuous cycle of thinking, acting, and reflecting. Using ICT-based video recording systems and structured debriefing sessions, we foster essential competencies required of healthcare professionals, including clinical reasoning, teamwork, and effective communication. We provide an integrated educational program that spans undergraduate and postgraduate training, including OSCE preparation, clinical clerkships, residency education, designated procedure training for nurses, and interprofessional simulation programs.

The Center also promotes a strong culture of patient safety through digital Basic Life Support (BLS) training and emergency response simulation while strengthening collaboration with regional healthcare institutions. Looking ahead, we will further expand collaborative educational programs and access for external users, with the goal of serving as the Yamanashi Medical Training Center, a regional hub for developing healthcare professionals who will support the future of healthcare throughout Yamanashi Prefecture.

Medical Acts Training Center for Specifically Designated Nurse

Specified medical acts are medical procedures performed by nurses who have completed training in specified medical acts at a designated training institution. Through this training, nurses acquire practical understanding, critical thinking and judgment skills, as well as advanced and specialized knowledge and skills. These acts are carried out as part of medical assistance in accordance with procedure manuals prepared by physicians or dentists.

Previously, certain medical procedures were performed only after nurses reported the patient's condition to a physician. Under this system, nurses can perform medical procedures in a timely manner, within the scope of the patient's condition specified in the procedure manual, and subsequently report the results to the physician.

Our center provides training in specified medical acts. This includes three area-based package training programs: home and chronic care, postoperative ward management in surgery, and intensive care. We also offer two category-specific training programs related to medication administration for infection management and medication administration for skin injury management. To date, 24 nurses have completed the program.

To ensure that these skills are firmly established, nurses who have completed the specified medical acts training undergo three months of clinical training. This is conducted with the support of the Department of Nursing, while they work as members of medical teams under the supervision of physicians in relevant clinical departments.

At present, graduates of the program are actively working in the ICU, hospital wards, and the emergency outpatient department. Nurses qualified to perform specified medical acts are valuable professionals who contribute to improving nursing expertise, promoting task shifting from physicians to nurses, and enhancing the overall standard of our hospital as members of advanced medical teams.

Medical Staff Training Center

The Medical Staff Training Center was established in 2021 to support co-medical staff in improving their knowledge, introducing new medical technologies, and maintaining or acquiring professional certifications. This initiative ensures the quality of care required by hospital evaluations and plays an essential role in maintaining and strengthening our functions as an advanced treatment hospital.

The center provides support for attending academic conferences and external training across eight departments: clinical engineering, radiological technology, pathology, pharmacy, laboratory, rehabilitation, nutritional management, and clinical psychology. For 2026, we are planning continued support for training programs aimed at acquiring or keeping certifications and updating knowledge to deliver more advanced medical care.

As a core facility within the prefecture, we manage workshops hosted by each department. Utilizing the Simulation Center established in FY2023, we also support planning hands-on seminars to upgrade staff skills. We are centralizing in-hospital training and implementing reforms to ensure all staff can participate. The BLS training launched last year is progressing smoothly with many participants.

Yamanashi Community Medicine Support Center

Jointly operated by Yamanashi Prefecture and the University of Yamanashi, our center's mission is to secure physicians within the prefecture and resolve regional maldistribution. Centered on career development programs and pre- and post-graduation support, we promote the cultivation and optimal placement of physicians, thereby contributing to the improvement of regional healthcare quality.

Message

Our primary role is to advance the resolution of physician maldistribution and secure doctors for each specialty, while maintaining the overall number of physicians in Yamanashi Prefecture. To respond to population decline and changing healthcare demands, developing a future-oriented medical system is an urgent task, and the center's role is reaching a turning point. With your continued guidance, we will dedicate ourselves to the further development of the prefecture's medical system.

Structure and Operational Policy

Operating under a system that includes two physicians, we work in close coordination with the Yamanashi Prefectural Medical Affairs Division to make decisions and conduct our activities. Through the Regional Healthcare Countermeasures Council (held 2 to 3 times annually), we have established a collaborative framework with hospitals and local governments within the prefecture.

Business content

With the mission of securing physicians within the prefecture and resolving regional maldistribution, we carry out a wide range of duties. Specifically, we are dedicated to improving the quality of regional healthcare and building a sustainable medical system by promoting an increase in clinical residents, contributing to the alleviation of physician shortages, educating medical students, and providing individualized career support to post-graduate physicians.

Features and main achievments

Our center is characterized by its close joint operation between Yamanashi Prefecture and the University of Yamanashi. Through our efforts to date, we have contributed to a continuous increase in the number of physicians in the prefecture, resulting in an improving trend in physician shortages. Currently, we view the resolution of regional and specialty maldistribution as a pressing issue, and we are striving to enhance the prefecture's medical system by accurately understanding the situation through surveys and strengthening collaboration with relevant organizations.

Yamanashi Eastern Regional Medical Education Center

The Center was established on February 1, 2023, in order to provide sustainable medical care in the eastern Yamanashi region and to build an educational and research system, based on the Comprehensive Collaboration Agreement between the National University Corporation Yamanashi University and Otsuki City.

Message

With the support of each department at the university hospital, the facility will work to further strengthen medical care in the eastern region and fulfill its mission as a training facility, in addition to collaborating with Otsuki Municipal Central Hospital, to collaborate with Tsuru Municipal Hospital in the field of gastrointestinal surgery.

Structure and Operational Policy

With a staffing of four full-time doctors, including Director Enomoto, The dispatched doctors are registered at the Center and are employed and worked at by the medical institution to which they are dispatched.

Business content

To contribute to strengthening outpatient services at Otsuki Municipal Central Hospital, we utilize a cross-appointment system to assign full-time physicians from our main hospital and dispatch part-time physicians to provide specialized medical care. In addition, we also dispatch orthoptists and other non-physician staff. Furthermore, the hospital accepts residents for clinical training as well as students for clinical practicums.

Features and main achievments

The facility can provide high-quality instruction to trainees and residents as a regional medical training facility, it has been certified as a Japanese Society of Internal Medicine University of Yamanashi Internal Medicine Training Program affiliated facility, a Japanese Society of Gastroenterology certified facility, a Japanese Society of Gastroenterological Endoscopy training facility, a Japan Society of Hepatology affiliated facility, a Japanese Circulation Society training affiliated facility, a Japan Surgical Society affiliated facility, and a Japanese Society for Dialysis Therapy education affiliated facility.

Work Style Reform Center

The Work Style Reform Center was established in April 2025 to promote work style reform at Yamanashi University Hospital. The Center aims to improve the working environment and operational efficiency for all staff—including doctors, nurses, technicians, and administrative personnel—and to foster a sustainable, healthy workplace for every employee.

Message

At the Work Style Reform Center, I collaborate with Dr. Yoichi Ogawa, the Center's Deputy Director, under the guidance of Dr. Hirotaka Haro, the Hospital's Vice Director for Labor Management. As this is a newly established center, our efforts have just begun; however, we are committed to creating a better working environment with the input and cooperation of all staff members. We greatly appreciate your continued understanding and support.

Structure and Operational Policy

The activities of the Work Style Reform Center focus on the following areas:

1. Improving the Working Environment and Working Hours

We strive to enhance the working environment and optimize working hours for all positions at the hospital, aiming to create a workplace where employees can perform their duties with peace of mind.

2. Promoting Task Shifting and Work Improvement

To increase efficiency, we review tasks and implement appropriate task shifting, thereby reducing the workload on employees.

3. Promoting Work-Life Balance

We are exploring the introduction of flexible working styles and improving work arrangements to create an environment that supports a healthy balance between work and personal life.

4. Raising Awareness of Work Style Reform

Through internal and external information-sharing and awareness-raising activities, we aim to deepen understanding of work style reform and promote organizational change throughout the hospital.

5. Other Tasks Deemed Necessary by the Center

Bed Control Center

The Bed Control Center is a department responsible for optimizing the use of hospital beds. It coordinates admissions, monitors bed availability, and works in collaboration with each clinical department and ward. Through efficient bed utilization, the Bed Control Center supports the smooth admission of patients and the provision of high-quality medical care.

Message

We strive to ensure smooth and efficient bed management by working in close collaboration with all healthcare professionals, so that patients can be admitted with peace of mind.

Structure and Operational Policy

The Bed Control Center is composed of medical doctors, nurses, and medical staff. By working closely with each clinical department and ward, we appropriately coordinate hospital admissions and manage bed availability, promoting efficient and equitable bed utilization.

Business content

The Bed Control Center plays a vital role in maximizing the effective use of hospital beds through the coordination of admissions and ward transfers, monitoring and managing bed availability, and collaborating with each clinical department and ward. It also responds to urgent admissions and transfers by securing appropriate beds, supporting timely hospital admissions in alignment with the needs of each department. Through smooth bed operations, it contributes to the delivery of high-quality medical care.

Features and main achievments

A key feature of the Bed Control Center is its ability to monitor the hospital's bed utilization in real time and carry out rapid bed coordination. This has led to achievements such as optimizing the average length of hospital stay and ensuring the smooth admission of emergency patients.

Consultation and Support Center

The Consultation and Support Center provides medical social work consultation, support for patients with intractable diseases, and psychological support. It responds to the diverse needs of patients and their families and contributes to improving the quality of services provided to patients through support for balancing treatment and daily life, psychological support, and other assistance.

Message

The Consultation and Support Center was established in July 2026 with the aim of supporting patients and their families by addressing their diverse needs through three core functions: medical social work consultation, support for patients with intractable diseases, and psychological support. Through assistance in balancing medical treatment and daily life, as well as psychological support, we are committed to creating an environment in which patients can receive medical care with peace of mind.

All of our staff will continue to strive to make the Center one that is trusted by patients, their families, and the community. We sincerely appreciate your continued support and cooperation.

Structure and Operational Policy

In the area of medical social work consultation, specialized counselors (medical social workers), nurses, and other staff respond to a wide range of concerns and inquiries from patients, their families, and hospital staff. Support for patients with intractable diseases includes consultation on diagnosis, treatment, and medical care, as well as the development of medical care networks. In the area of psychological support, physicians and clinical psychologists play central roles in providing psychological support to patients and their families.

Business content

We provide consultation on medical expenses, medical security and support systems, home-based care, and information on medical institutions, offering information and coordinating with relevant organizations as needed. In the area of psychological support, counseling services are provided to patient.

Features and main achievments

Physicians, nurses, clinical psychologists, medical social workers, and administrative staff work collaboratively as a multidisciplinary team to provide support for patients with intractable diseases, psychological support, and consultation services for patients, their families, and hospital staff. In fiscal year 2025, the Center handled approximately 2,500 consultations, and we will continue to strive to enhance the quality of services provided to patients while responding to a wide range of consultation needs.